

STAR

自走ロールベーラ

取扱説明書

製品コード	K93265
型	式
	JRB0750D

“必読”機械の使用前には必ず読んでください。

株式会社IHIアグリテック

輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合

当社製品および関係技術資料を輸出もしくは非居住者に提供する、または海外で技術提供をする場合、安全保障貿易管理に関する日本および関係各国の関連法規制を受ける場合があります。
確認の上、必要な手続きを実施してください。

使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございました。

この取扱説明書は、本機の取扱方法と、使用上の注意事項について記載しています。

本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。

また、お読みになったあとも、この取扱説明書を製品に近接して、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特販店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特販店・JA へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。
- 本取扱説明書に記載されている部品番号は変更されることがあります。部品、アタッチメント、オプションをご注文される際は本機の販売型式名、製造番号、エンジン番号をお買い上げいただいた特販店、または JA へお伝えください。

説明記号の見方



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



その警告文に従わなかった場合、けがを負うおそれのあるものを示します。

【重要】

誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

【参考】

作業能率をよくしたり、誤った操作をしないための補足説明です。

本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ・麦ワラ・牧草を梱包する作業機としてご使用ください。コーンなどの硬い飼料では作業できません。また河川敷など、異物混入の可能性の高い場所では使用しないでください。

使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。(詳細は、保証書をご覧ください。)

目次

はじめに	1	7章 作業のしかた	34
1章 安全な作業をするために 必ずお守りください	5	1. 作業条件とほ場条件	34
1. 一般的な注意項目	5	2. 作業前の準備	36
2. 作業前後の確認時の注意項目	6	3. 本機の作動確認のしかた	39
3. 運搬時の注意項目	8	4. 梱包作業のしかた	41
4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目	9	5. 搬送案内板の外しかた	45
5. 作業時の注意項目	11		
6. 作業終了後・格納時の注意項目	12		
7. 安全銘板の貼り付け位置	13		
8. 安全銘板の手入れについて	15		
2章 保証とサービスについて	16	8章 作業後の手入れについて	46
1. 保証書は大切に保管してください	16	1. 作業後の手入れ	46
2. アフターサービスをお受けになるときは	16	2. 長期間使用しない場合の手入れ	48
3章 各部のなまえ	17	3. ひもの保管のしかた	48
4章 各操作部のはたらき	19		
エンジンコントロール関係	19	9章 点検・整備のしかた	49
走行・作業関係	21	1. 定期点検・整備の時期について	49
その他	23	2. 定期点検一覧表	50
5章 運転前・作業前点検のしかた	24	3. オイルの点検・補給・交換のしかた	51
1. 作業者の体調・服装について	24	4. 各部注油のしかた	53
2. 本機の点検のしかた	25	5. 燃料の点検・給油のしかた	55
6章 運転・移動のしかた	26	6. 吸気口の掃除のしかた	57
1. エンジンの始動のしかた	26	7. エアクリーナーの掃除のしかた	57
2. 暖機運転のしかた	28	8. 燃料コシ器の洗浄・交換のしかた	58
3. エンジンの停止のしかた	28	9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた	59
4. 発進・旋回・変速・停止・駐車のしかた	29	10. 冷却水の点検・交換のしかた	59
5. 移動走行のしかた	30	11. サイドクラッチレバーの調節のしかた	60
6. トラックへの積み・降ろし、 あぜ越えのしかた	31	12. 各部ベルトの点検・調節・交換のしかた	61
		13. ピックアップ高さの調節のしかた	63
		14. 各部チェンの調節のしかた	64
		15. 搬送押さえの調節のしかた	65
		16. ひもカッターの研磨のしかた	66
		17. クロークの張り調節のしかた	66
		18. 作業機駆動ベルトけん制 ワイヤーの調節のしかた	67
		19. ピックアップフィンガの交換のしかた	68
		20. シャーピンの交換のしかた	69
		21. ドアフックの調節のしかた	69
		22. ベール圧センサの調節のしかた	70
		23. ヒューズの点検・交換のしかた	70
		24. バッテリについて	71

10章 不調診断のしかた 73

1. エンジンがかからないときには	73
2. エンジンの馬力が出ないときには.....	73
3. 作業中にコンペアチエンが 回らなくなったときには.....	73
4. 搬送部で異音がしたり、 よく詰まるときには	74
5. ブザーが鳴らなくなったとき(お知らせ ランプが点滅しなくなったとき)には.....	74
6. 結束ができなくなったときには	74
7. 適正なベルができなくなったときには	75
8. 放出できなくなったときには	75
9. ドアが閉まらなくなったときには.....	75
10.ひも送り操作をしても、 結束ができないときには.....	75

11章 その他 76

1. 主要諸元.....	76
2. 主要消耗部品	77
3. 回路図.....	78

1 章 安全な作業をするために必ずお守りください

- ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
 - ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
- ※ ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

1. 一般的な注意項目

⚠ 警告

- 本機および装着している作業機の取扱説明書と、機械に貼ってある安全銘板をよく読み、十分に理解してから運転する
運転に際しては、本書の安全に関する記載事項以外にも細心の注意をはらって運転してください。
- 取扱説明書および機械に貼り付けられた安全銘板の内容が理解できない人や子供には、絶対に運転させない
- 体調が悪いとき、運転が未熟な人は、本機の運転をしない

- ・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
 - ・お酒を飲んでいる人。
 - ・取扱説明書の内容が理解できない人。
 - ・視力不足のため、表示内容が読めない人。
 - ・妊娠中の人は。
 - ・睡眠不足の人。
 - ・18才未満の人。
 - ・ハンドルを操縦する体力に自信のない人。
 - ・運転が未熟な人。
- は、本機の運転をしないでください。



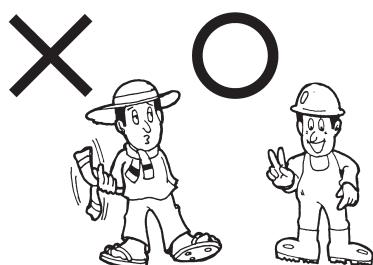
D3037375

⚠ 警告

■ 排気ガスには十分に注意する

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむをえず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。
換気をしないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ 運転者および補助者は、運転（作業）に適した服装をする



D3037375

- ・だぶつきのない服（つなぎなど）を着用し、そこで口はきっちり止めてください。だぶつきのある服では、機械に巻き込まれたり、操縦装置に引っかかって事故の原因になります。
- ・すべり止めの付いた靴（安全靴など）を着用してください。すべり止めが付いていないと、すべって転倒するおそれがあります。
- ・ヘルメットを着用してください。
- ・はち巻き、首巻き、腰タオルをしないでください。タオルが機械に巻き込まれて事故の原因になります。

■ 本機や作業機を他人に貸すとき、または運転させるときは、事前に取扱方法や安全な使いかたをよく説明し、必ず取扱説明書を読むように指導する



A2137302

⚠ 注意

■ 必ず定期点検・整備を受ける

1年ごとに定期点検・整備を受け、各部の保守をしてください。特に、燃料パイプは2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。
守らないと、整備不良による事故で、けがや機械の故障を生じるおそれがあります。

■ 必ず作業前の点検をする

機械を使用する前に必ず作業前の点検を行い、異常箇所はただちに整備してから作業を始めてください。
また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックしてください。

2. 作業前後の確認時の注意項目

⚠ 危険

■ 注油・給油はエンジンが冷めてから行う

エンジン回転中や、エンジンが熱い間は、給油・注油を絶対にしないでください。
守らないと、燃料などに引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。
燃料に引火し、やけどや火災の原因になることがあります。

⚠ 危険

■ バッテリ点検時は火気厳禁

バッテリの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気（タバコ・ライターなど）を近づけないでください。
守らないと、バッテリの液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、やけどや火災を引き起こすことがあります。



2010913

■ バッテリ液を体や衣服に付けないようにする

バッテリ液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗ったあと、必ず医師の治療を受けてください。
守らないと、バッテリ液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明ややけどをします。



1077332

⚠ 警告

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので、必ず点検してください。破損したまま放置すると、火災事故を引き起こし、やけどをするおそれがあります。

⚠️ 警告

■ 燃料を補給したあとは、燃料キャップを締め、こぼれた燃料はふき取る

燃料キャップがゆるんでいると、燃料がこぼれ出ることがありますので、確実に締め込んでください。また、こぼれた燃料は、きれいにふき取ってください。守らないと、火災事故を引き起こし、やけどをするおそれがあります。

■ バッテリを、外すときは（-）側のケーブルから外し、取り付けるときは、先に（+）側のケーブルを（+）側の端子に取り付ける

(+) (-) を間違うと、ショートによるやけどや火災の原因になります。

■ バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリを使用する

指定以外のバッテリを使用すると、ショートして、やけどや火災の原因になります。

■ バッテリ液を「下限 (LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「上限」と「下限」の間にあることを確認し、「下限」以下にしないでください。守らないと、容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



A2037549

⚠️ 警告

■ 点検・整備は必ず行う

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると、大変危険です。必ず点検・調整してください。

点検しないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。



■ 点検はエンジンを停止し、平たんで安定した場所で行う

点検・整備を行うときは、機械が倒れたり動いたりしない、平たんで安定した場所で行ってください。

■ 操作レバー類は必ず点検する

サイドクラッチレバーや、その他のレバー類に著しいガタや遊びがないか確認してください。正常な走行ができず、交通事故を引き起こしたり、機械を破損させる原因になります。



■ 点検・整備時にはエンジン停止、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にする

点検・整備は、エンジンを確実に停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、クローラに歯止めをしてから行ってください。

ロールベーラが動き出し、思わぬ事故を起こします。

⚠️ 警告

■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。守らないと、横すべりや、転倒事故の原因になります。

■ エンジンやマフラー、ブーリ駆動部の周辺のごみは取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、ブーリ駆動部に付着しているワラクズ・ごみ・燃料などを、時々取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、選別クラッチレバーを「切」位置にしてください。

守らないと、付着物が引火して、火災事故を引き起こし、やけどをするおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する

高圧噴油に手や体が、直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、ただちに医者の診断を受けてください。

守らないと、油が皮膚に侵入した場合、数時間以内に取り除かないと強度のアレルギーを起こすおそれがあります。

⚠️ 注意

■ 外したカバー類は、必ず取り付ける

点検・整備で外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。



A2137314

3. 運搬時の注意項目

⚠️ 警告

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアルミニウム板を使用する

（アルミニウム板の基準）

- ・長さ…トラックの荷台高さの4倍以上。
 - ・幅……本機のクローラ幅に合ったもの。
 - ・強度…本機の質量に十分耐えられるもの。
 - ・表面…すべらないよう処理してあるもの。
 - ・トラックの荷台に引っかけるためのフックが付いているもの。
- 守らないと、アルミニウム板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 運搬するときトラックへの積み・降ろしをするときは、アルミニウム板の平行や安定を確認する

アルミニウム板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。特に本体がアルミニウム板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分に注意してください。守らないと、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

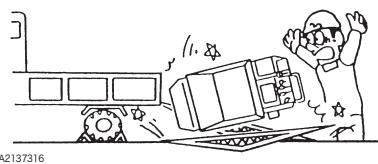


3037504

⚠ 注意

■ 継ぎ目を越えるときはゆっくり走行する

本機がアユミ板とトラックなどの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるのでゆっくり走行してください。守らないと、バランスがくずれて、転倒事故を起こすことがあります。



A2137316

■ トラックに載せて走行するときは、しっかり固定する

トラックなどに積んで走るときは、「駐車ブレーキ」をかけ、強度の十分あるロープを本機の「ロープフック部」に掛け、確実に固定してください。さらに、クローラに「歯止め」をしてください。

守らないと、機械が動いたりして、転倒事故を起こすことがあります。



■ アユミ板の上では、進路変更や停止をしない

バランスがくずれて、転落などの事故を起こすことがあります。



A2137315

⚠ 注意

■ トラックでの輸送時には、機体の各バーを固定する

カバー類・折りたたみ部品などは、確実にロックして閉じ、ロープなどで固定するか、外して荷台に置いてください。

守らないと、輸送中に風圧で破損・脱落するおそれがあります。

4. 移動・ほ場出し入れ時の注意項目

⚠ 危険

■ 公道では走行禁止

守らないと、衝突事故を起こすことがあります。



A2137318

■ 坂道では駐車禁止

やむをえず坂道の途中で駐車するときは、木片などで歯止めをして、駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、機械が動き出し、事故の原因になります。



A2137319

⚠ 危険

■ 走行中は作業クラッチを切る

守らないと、傷害事故を引き起こす原因となります。



⚠ 注意

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意する

走行時は、道路の端に寄りすぎないでください。路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすことがあります。



A2137321

■ 登り坂の途中で 変速レバーを操作しない

後退して、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



A2137322

■ 移動中・作業中は、機械に人を乗せたり近づけたりしない

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



A2137323

⚠ 注意

■ 段差のあるほ場への出入りはアユミ板を使用する

段差のあるほ場ではアユミ板を使用し、後進で入り、前進であがり、安全に心がけゆっくり出入りしてください。また、アユミ板の上では、進路変更はしないでください。

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



A2137324

■ 坂道、凹凸、屈曲の激しい道路では、 低速で運転する

発進するときは、周囲の安全を確認してから発進してください。

傷害事故を引き起こす原因になります。



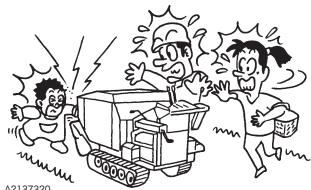
A2137325

5. 作業時の注意項目

⚠ 危険

■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。守らないと、死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすことがあります。



A2137320

⚠ 警告

■ ピックアップ部の下にもぐったり手や足を入れない

守らないと、ピックアップ部が下がったりして、傷害事故を引き起こすことがあります。



A2137326

■ 詰まりを取り除いたり、ひも交換時は、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にする

ピックアップ部やベルト部の詰まり除去や、結束装置のひも交換のときは、必ずエンジンを止め、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして行ってください。

守らないと、傷害事故の原因となることがあります。



A2137327

⚠ 注意

■ エンジン運転中はドア周辺に立ち入らないでください

エンジン運転中、結束レバーを放出側にするとドアは油圧で開き、傷害事故の原因になります。



1136714D

■ 夜間作業の禁止

守らないと、思わぬ事故を引き起こす原因となります。



A2137328

■ 補助者とは作業の段取りを打合せする

梱包作業は組作業の場合が多いので、補助者と作業前によく打合せしてください。

守らないと、傷害事故の原因になります。



A2137329

⚠ 注意

■ 畦畔を乗り越えるときは、最低速度で、畦畔に対して直角に渡る

畦畔を乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ず畦畔に対して直角に渡ってください。守らないと、バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。



A2137330

6. 作業終了後・格納時の注意項目

⚠ 警告

■ 作業が終わったら点検・整備をする

作業が終了したら、必ず点検・整備を行い、掃除をしてごみなどを完全に取り除いてください。

守らないと、火災の原因になることがあります。

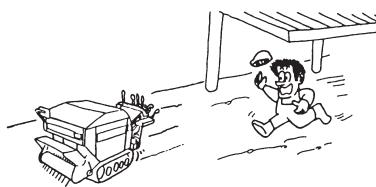


A2137305

■ 平たんな場所に保管する

保管は平らな場所を選び、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にして、駐車ブレーキをかけてください。

守らないと、機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。



A2137331

■ エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが過熱している間は、シートをかけないでください。

守らないと、火災の原因になることがあります。

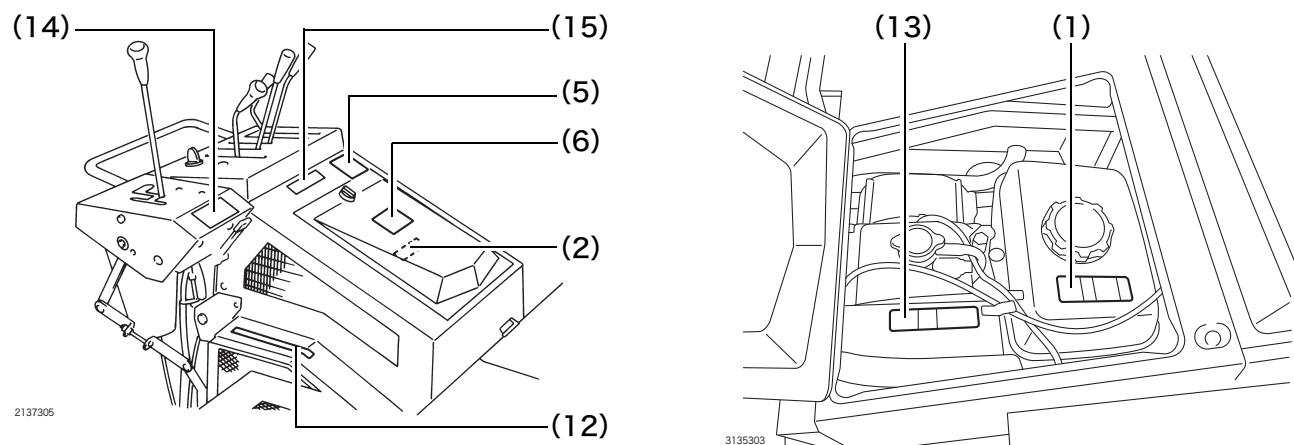
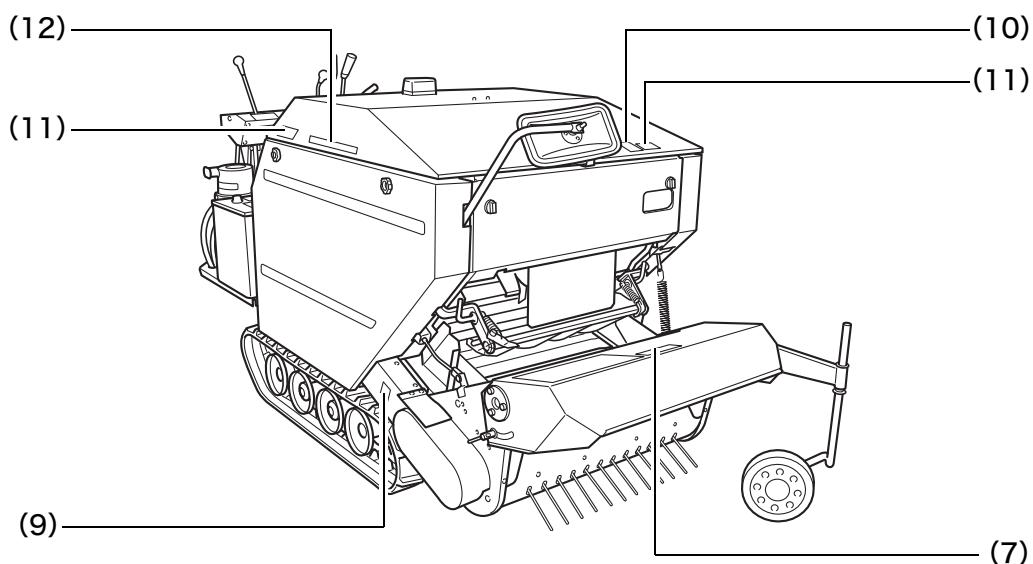
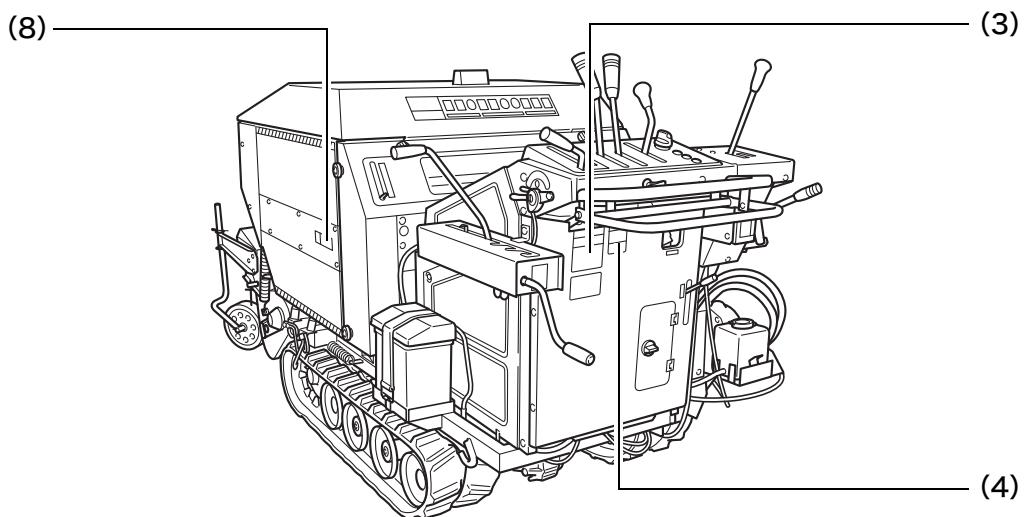


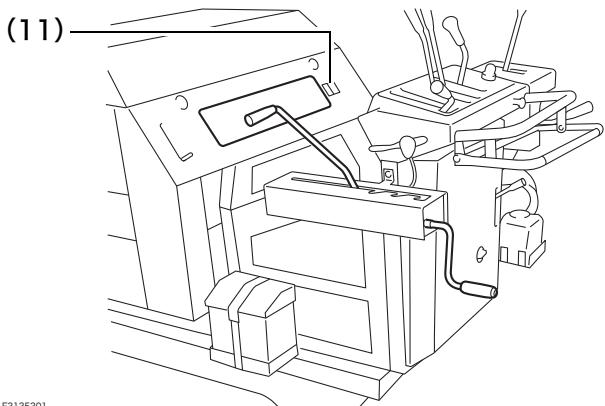
2034641

7. 安全銘板の貼り付け位置

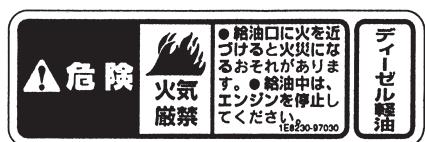
安全に作業していただくために安全銘板の貼り付け位置を示したものです。

安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。





(1) 1E8230-97030 危険（火気厳禁）

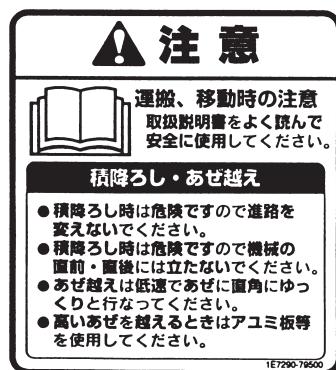


(2) 1E5120-86720 注意（マフラー）



※ エンジン上カバー裏面に貼り付けています。

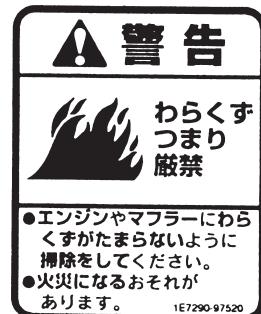
(3) 1E7290-97500 注意（移動）



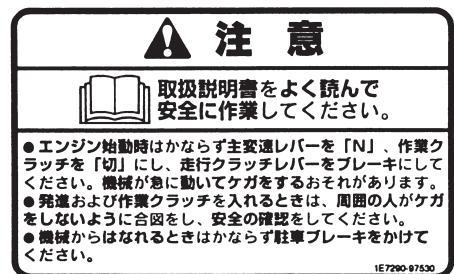
(4) 1E8500-97460 注意（エンジン停止）



(5) 1E7290-97520 警告（ワラクズ）



(6) 1E7290-97530 注意（取扱い）



(7) 1E8500-97320 警告（点検 A）



(8) 1K1130-97450 警告（ドア）



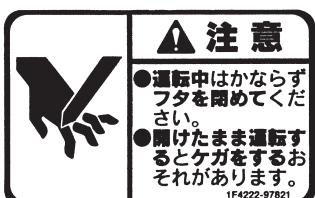
(9) 1E8510-97310 警告（点検 E）



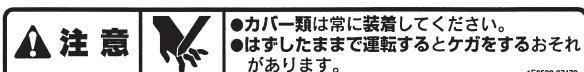
(10) 1E8500-97411 注意（注油）



(11) 1F4222-97821 注意（ふた）



(12) 1E8500-97470 注意（ベルトカバー C）



(13) 1E8500-97220 危険（ラジエータ）



(14) 1K1130-97480 注意（開閉レバー）



(15) 1E5120-86600 警告（排気ガス）



8. 安全銘板の手入れについて

- 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石けん水を付けた布でふき、やわらかい布で水分をふき取ってください。
- 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。
- 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げの特販店・JAに注文してください。

2章 保証とサービスについて

1. 保証書は大切に保管してください

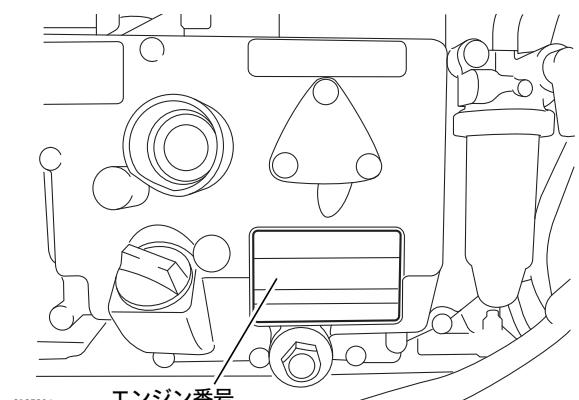
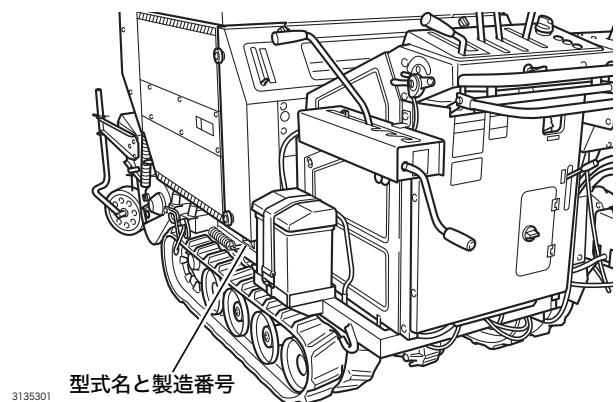
「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになったあとは大切に保管してください。

2. アフターサービスをお受けになるときは

機械の調子が悪いときに73ページの「10章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特販店・JAまでご連絡ください。

連絡していただきたい内容

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は?
(何速で、どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか?
(約□□アールまたは約□□時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



※ エンジンカバー左を外して見ていてます。

補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

メーカー純正部品・オイルについて

純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ねきびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



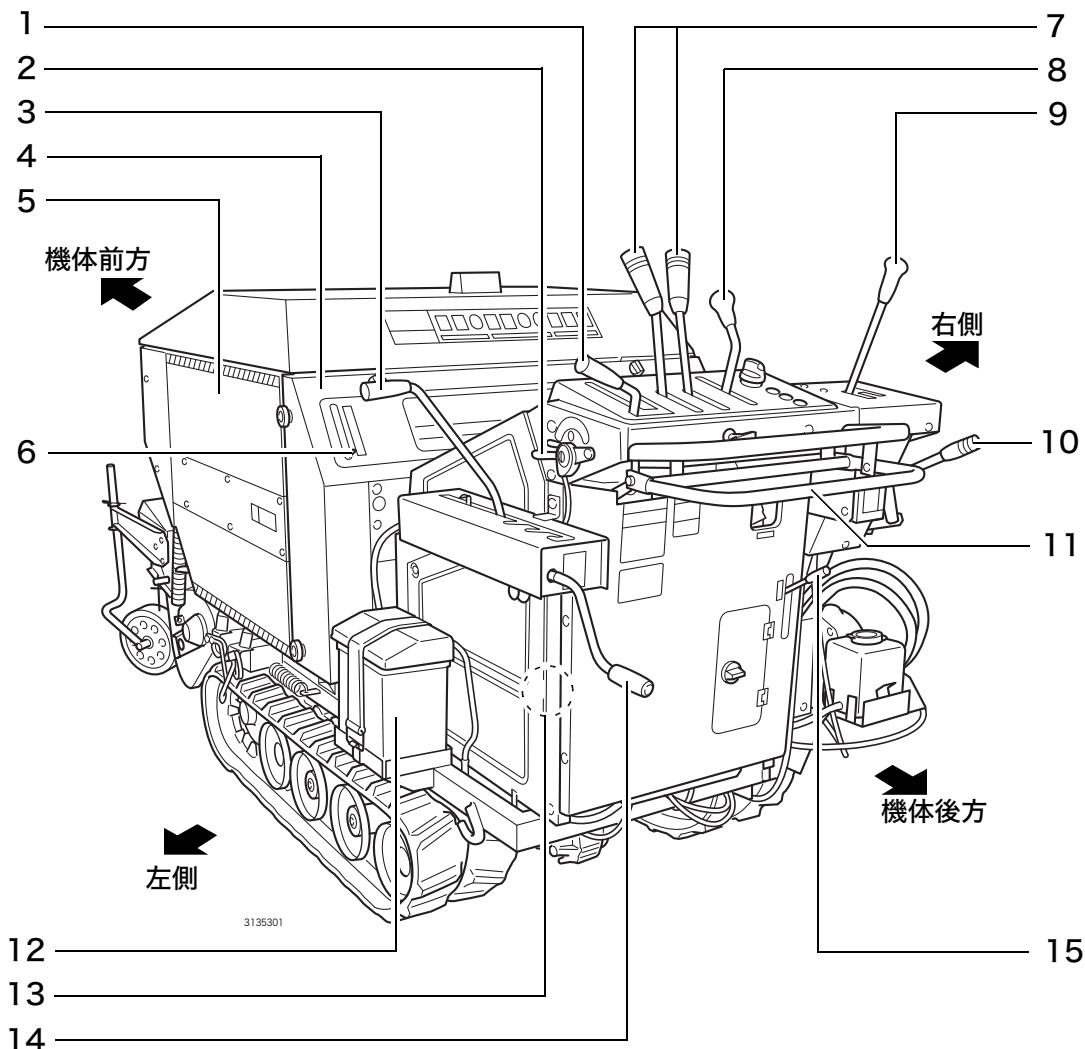
排出ガス規制について

本機は、日本陸用内燃機関協会の排出ガス自主規制に適合しています。

規制適合を維持していくためには「定期点検一覧表」(50ページ)に従って、エンジンオイル・オイルフィルタ・燃料フィルタ、およびエアクリーナー・エレメントなどの交換とエンジン以外も含む、定期メンテナンスを励行することが必要です。

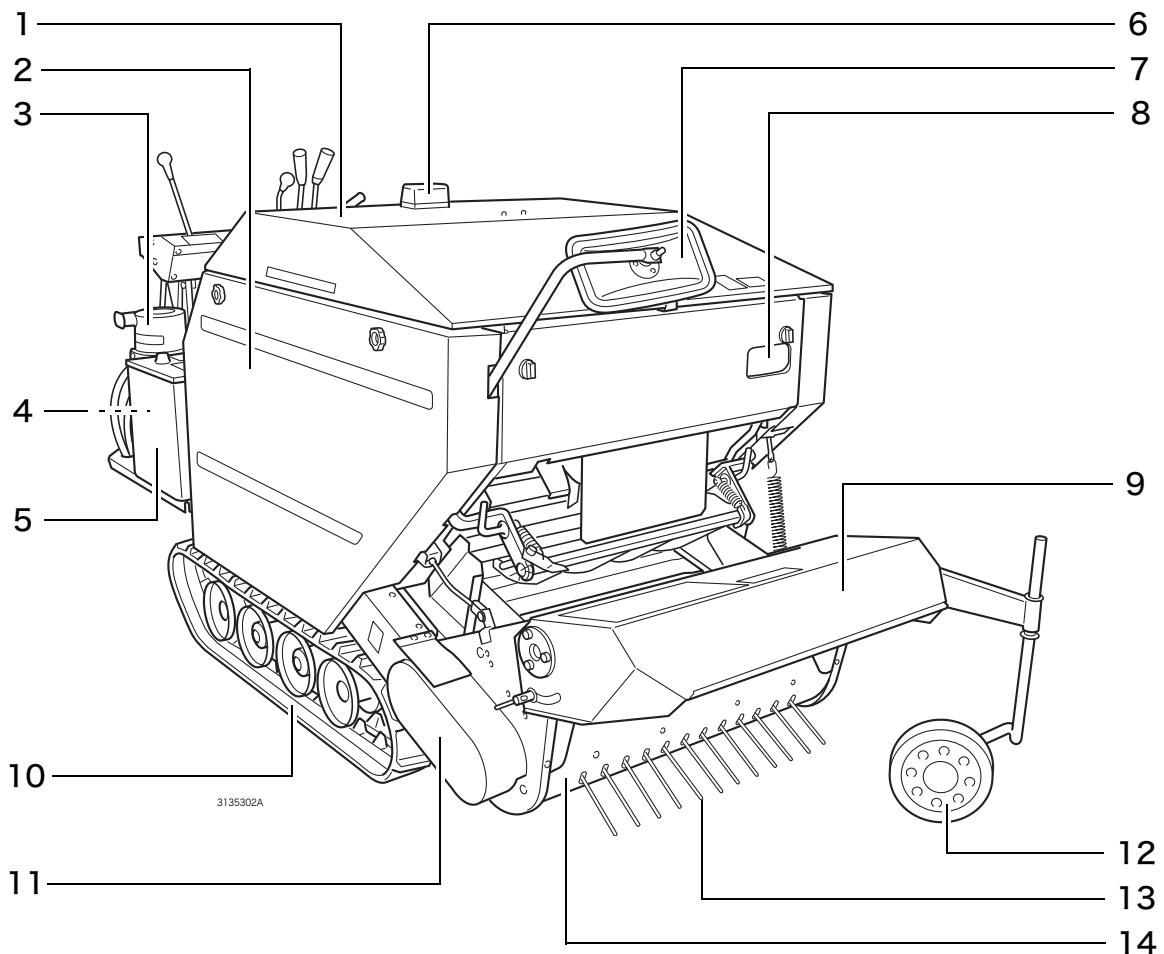
定期的なメンテナンスを怠ると、基準値をクリアできない場合があります。

3章 各部のなまえ

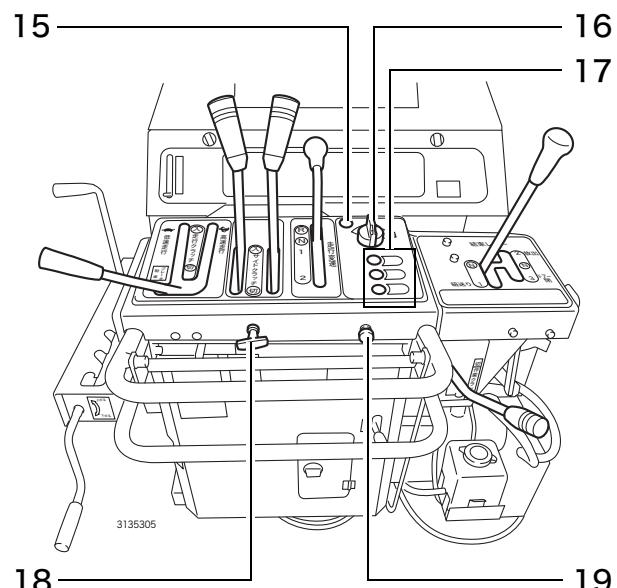


参照ページ

- | | |
|----------------|----|
| 1. 走行クラッチレバー | 21 |
| 2. アクセルレバー | 20 |
| 3. ピックアップレバー | 22 |
| 4. 後カバー | |
| 5. ドア | |
| 6. ベール圧センサーム | |
| 7. サイドクラッチレバー | 21 |
| 8. 主变速レバー | 21 |
| 9. 結束レバー | 22 |
| 10. 作業クラッチレバー | 22 |
| 11. 狹圧防止装置 | 23 |
| 12. バッテリ | 71 |
| 13. 燃料コック | 20 |
| 14. ピックアップハンドル | 22 |
| 15. 注油レバー | 23 |



参照ページ

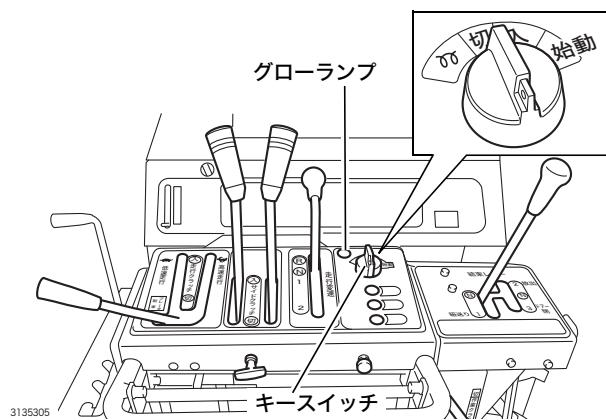


1. 上カバー	
2. 右カバー	
3. エアクリーナー	57
4. 油圧パッケージ	52
5. ひもケース	
6. お知らせランプ	23
7. 作業ミラー	
8. 前照灯	
9. ピックアップ前カバー	
10. クローラ	66
11. ピックアップチェンカバー	
12. ゲージホイル	36
13. ピックアップフィンガ	68
14. ピックアップドラム	
15. グローランプ	20
16. キースイッチ	19
17. 警報ランプ	19
18. デコンプレバー	20
19. ライトスイッチ	23

エンジンコントロール関係

1. キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



「切」位置 電流が流れず、キーを抜き取れる。

「入」位置 各電装スイッチに電流が流れます。

「始動」位置 セルモータが回転し、エンジンが始動する。エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「入」位置に戻り、連続運転に入る。ただし、走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーが「切」位置でないと、セルモータは回転しません。

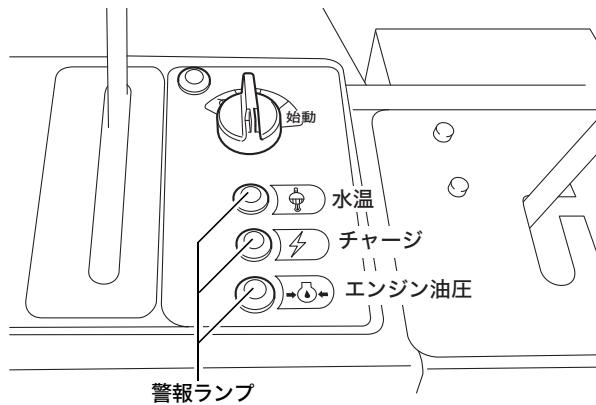
「 ∞ 」グロー この位置にキーがあればグロープラグに通電し、寒冷時の始動を容易にします。なお、「 ∞ 」位置での通電は、グローランプが点灯している間（約4秒）だけにしてください。

[参考]

キースイッチからキーを抜いたときは、防水キャップを取り付けてください。

2. 警報ランプ

各部に異常があった場合に、異常発生箇所のランプが点灯して知らせます。



キースイッチを「入」または「始動」位置にすると、電流が流れ各ランプが点灯し、エンジンが始動するとランプが消えます。

[重要]

作業終了時は、必ずキースイッチを「切」位置にしてください。

〈各警報ランプ点灯時の異常内容について〉

● 水温ランプ

エンジン冷却水の温度が非常に高くなっています。作業を中止して冷却水温を下げるため、エンジンをアイドリング状態にして表示が消えるまで、しばらく回してください。その後エンジンを停止して十分に冷えてから以下の点検をしてください。

- ・冷却水量に異常がないか（水もれがないか）（59ページ参照）
- ・吸気口（ラジエータ）に泥やごみの付着がないか（57ページ参照）
- ・ファンベルトのゆるみがないか（62ページ参照）

● チャージランプ

バッテリへの充電が不足しています。

ファンベルトの破損や電気系統に異常が生じていないかチェックしてください。（62ページ参照）

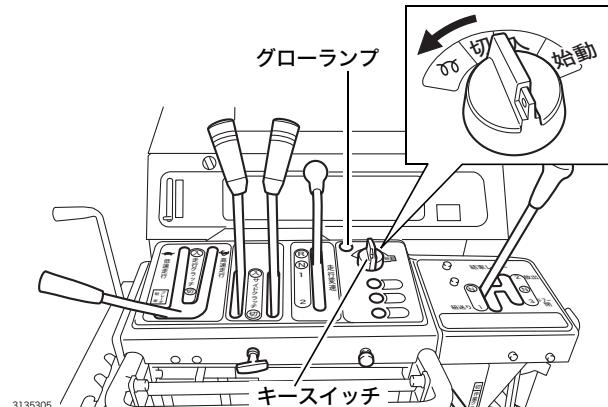
● エンジン油圧ランプ

エンジン回転中エンジンオイルの圧力が低下しています。

エンジンオイルの油量が十分かどうか確認してください。（51ページ参照）

3. グローランプ

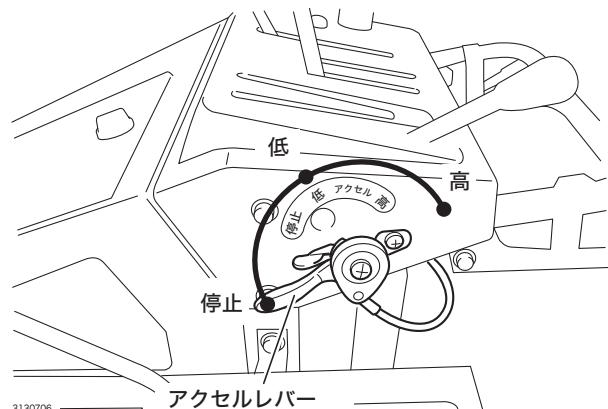
グロー作動時に点灯します。



キースイッチを「」(グロー)位置のときに約4秒間点灯します。

4. アクセルレバー

エンジン回転の上げ下げに使用します。



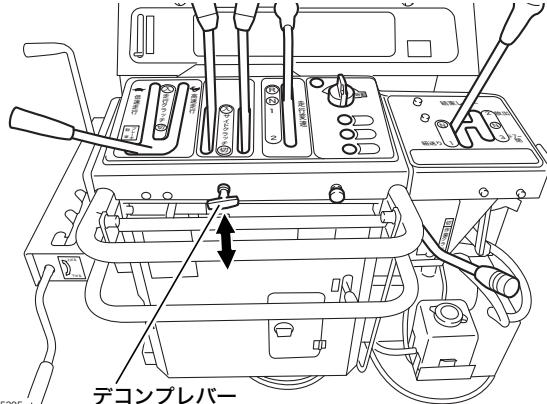
「高」位置 …… エンジン回転が上がる。

「低」位置 …… エンジン回転が下がる。

「停止」位置 … エンジンが停止する。

5. デコンプレバー

エンジンを始動するときに使用します。



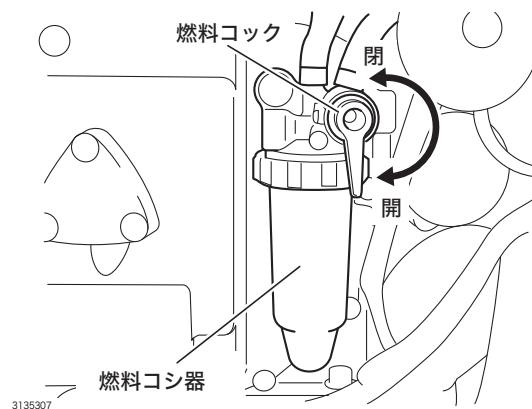
エンジン内の圧縮を抜き、エンジンの始動を容易にします。手前に引くと無圧縮の状態になります。寒冷時のエンジンの始動を容易にします。

【重要】

緊急時以外でのデコンプレバーでのエンジン停止はしないでください。

6. 燃料コック

エンジンへ供給する燃料の開閉に使用します。また、燃料の空気（エア）抜きに使用します。



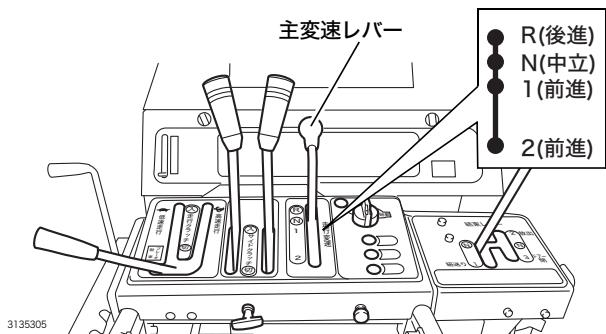
「開」位置 …… エンジンに燃料が供給される。
(エンジン始動中)

「閉」位置 …… エンジンに燃料が供給されない。

走行・作業関係

1. 主变速レバー

「前進」「後進」の進行方向と、走行速度の調節に使用します。



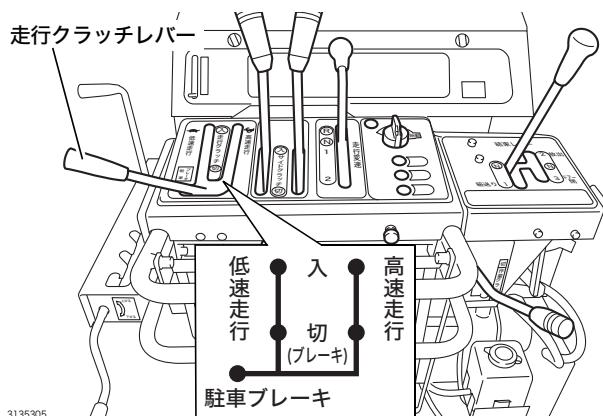
前進2段・後進1段の変速ができます。

[重要]

主变速レバーの操作をするときは、走行クラッチレバーを「切」位置にして、機体が完全に停止している状態で行ってください。

2. 走行クラッチレバー

走行クラッチの「入」「切」ができます。



「入」(低速走行)

位置 エンジンの動力が走行部に伝達される。(低速走行時)

「入」(高速走行)

位置 エンジンの動力が走行部に伝達される。(高速走行時)

「切」位置 走行部へのエンジンの動力が断たれる。

さらにレバーを引くとブレーキがかかる。

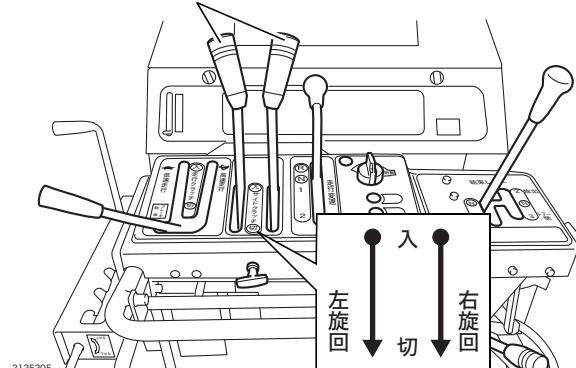
「駐車ブレーキ」

位置 ブレーキ位置でレバーが保持され、駐車ブレーキがかかる。

3. サイドクラッチレバー

機体を旋回するときに使用します。

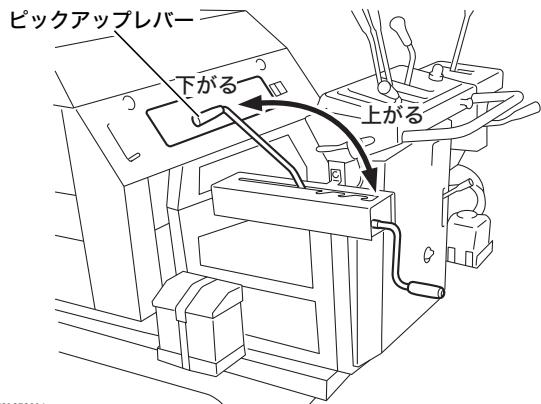
サイドクラッチレバー



レバーを引いた側のクローラの回転が止まり、機体はレバーを引いた方向に曲がります。

4. ピックアップレバー

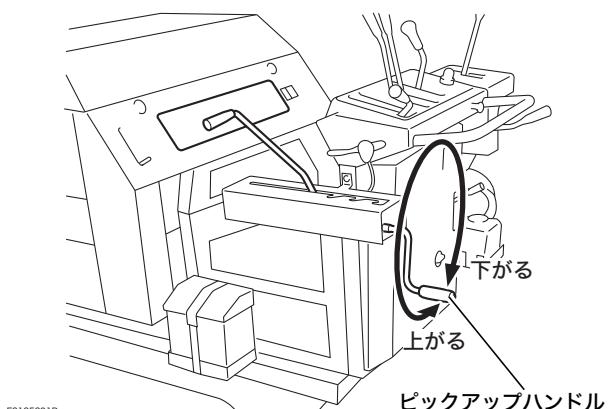
ピックアップ部の昇降を、素早く（大きく）行うときに使用します。



「上がる」側 … ピックアップ部が上昇する。
「下がる」側 … ピックアップ部が下降する。

5. ピックアップハンドル

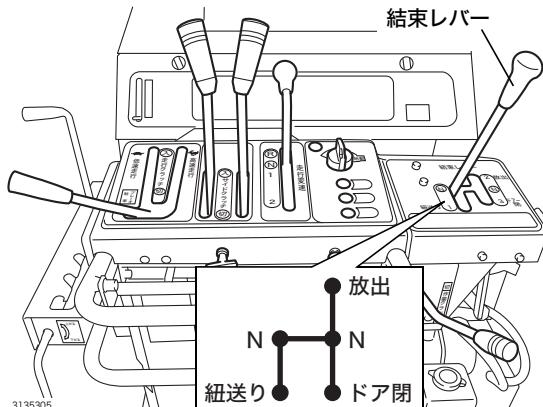
ピックアップ部の昇降を、少しづつ（小さく）行うときに使用します。



「上がる」側 … ピックアップ部が上昇する。
「下がる」側 … ピックアップ部が下降する。

6. 終束レバー

ベルを放出するときに手順どおりに使用します。



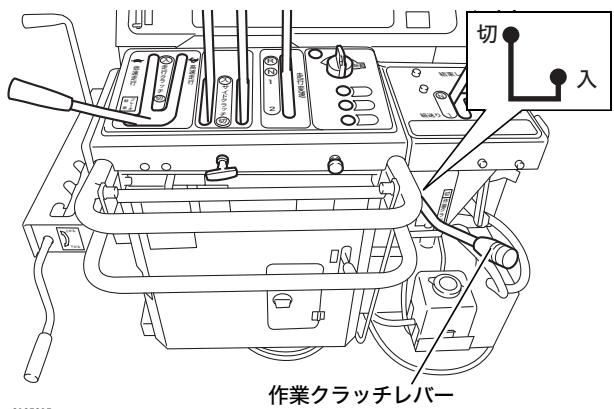
「紐送り」位置 … ひもを送り出す。
「放出」位置 …… ドアが開く。
「ドア閉」位置 … ドアが閉じる。

[重要]

- 「紐送り」位置では、結束レバーを1~2秒間保持し、ひもが送られていることを確認してから手を離してください。
- 「ドア閉」位置では、結束レバーを油圧のリリーフ音が鳴るまで保持し、ドアを確実に閉めてください。

7. 作業クラッチレバー

梱包部（ベーラ室）とピックアップ部が駆動します。

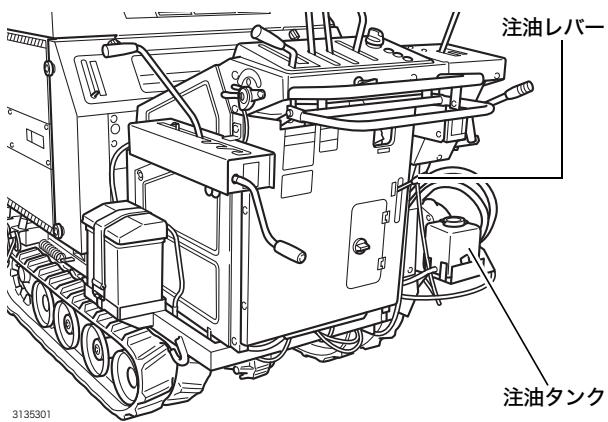


「入」位置 …………梱包部（ベーラ室）とピックアップ部が回転する。
「切」位置 …………梱包部（ベーラ室）とピックアップ部が停止する。

その他

1. 注油レバー

集中注油するときに使用します。

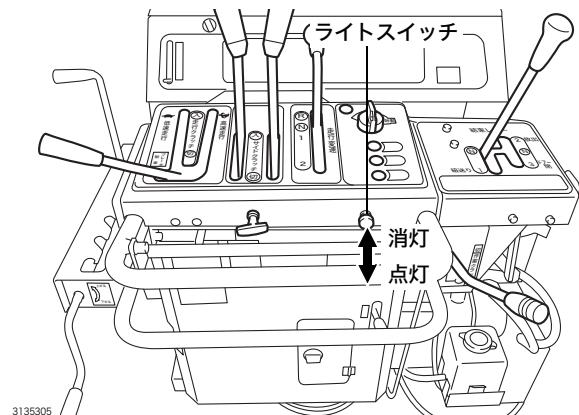


注油レバーを押し下げるとき、ベール室内の各部に注油されます。

作業前、作業中に行ってください。(55 ページ参照)

2. ライトスイッチ

前照灯を点灯するときに使用します。

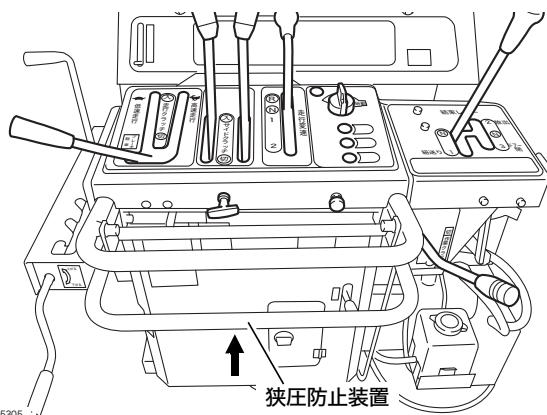


引く 前照灯が点灯する。

押し込む ... 前照灯が消灯する。

3. 狹圧防止装置

狭圧防止装置が前方に押されると、走行クラッチが自動的に切れます。

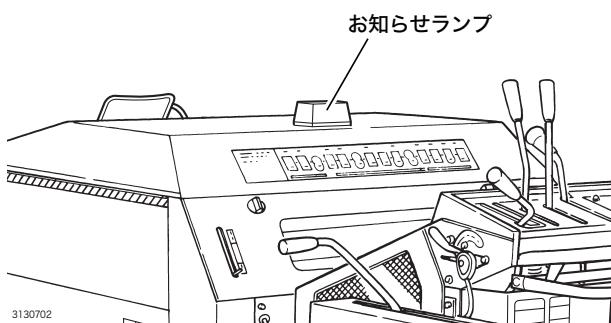


[参考]

狭圧防止装置では、エンジンは停止しません。

4. お知らせランプ

規定ベール圧・紐巻き完了時にブザーと同時に点滅します。



5章 運転前・作業前点検のしかた

⚠ 危険

- エンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、やけどや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、やけどや火災のおそれがあります。

⚠ 警告

- 点検・整備・調節を行うときは、平たんで安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

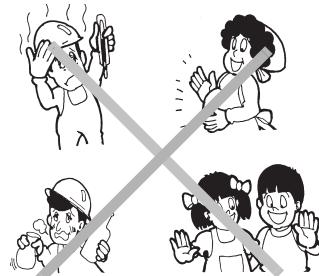
⚠ 注意

カバーを外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

1. 作業者の体調・服装について

体調について

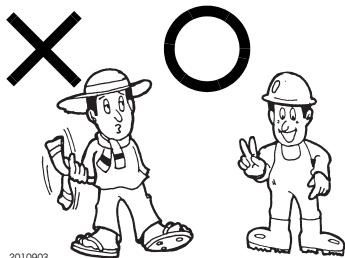
作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。



2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかかるない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。



2010903

2. 本機の点検のしかた

点検はつぎの順序で行ってください。

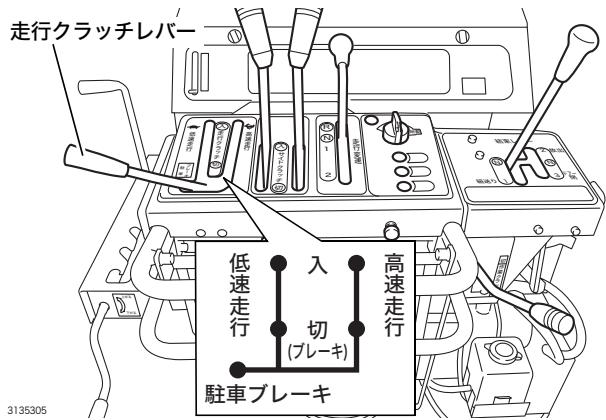
点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	● 前日の作業中に異常を感じたところがありませんか	73～75
機械のまわりを回ってみて	<ul style="list-style-type: none"> ● 各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ● 燃料の量と燃料もれはありませんか ● クローラの損傷・ゆるみはありませんか ● 各部注油箇所の油切れはありませんか ● 各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか 	55 66 53～55 61～65
エンジンルームを開けてみて	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか ● 燃料の量と燃料もれ、オイルもれはありませんか ● エアクリーナーの汚れはありませんか ● エンジン防塵装置のほこりやごみはありませんか ● 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみはありませんか 	51 55 57 57
エンジンを始動してみて	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジン始動後に異音はありませんか ● 排気ガスの色は正常ですか ● 各作業クラッチレバー・スイッチの作動状態は正常ですか ● 狹圧防止装置の作動状態は正常ですか 	19～23 23

6章 運転・移動のしかた

1. エンジンの始動のしかた

セル始動のしかた

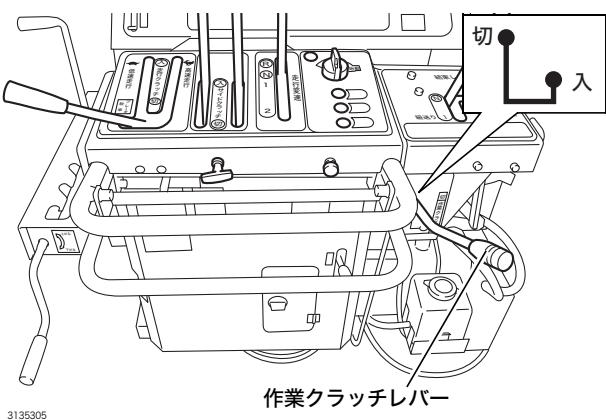
- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。



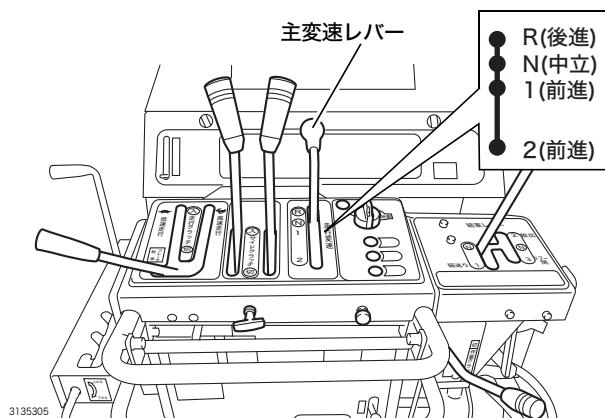
[重要]

走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーを「切」位置にしないと、セフティスイッチがはたらき、キースイッチを「始動」位置にしてもエンジンは始動しません。

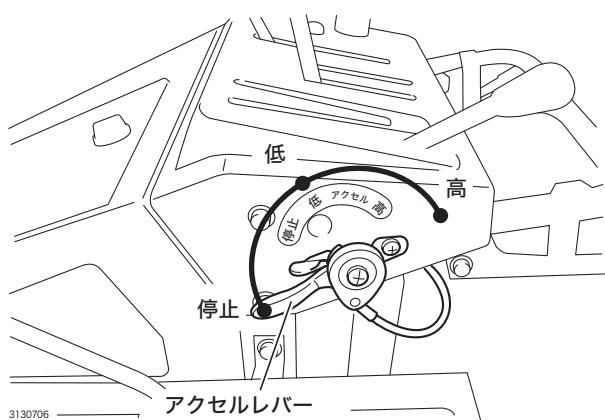
- 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



- 主变速レバーを「N」位置にしてください。



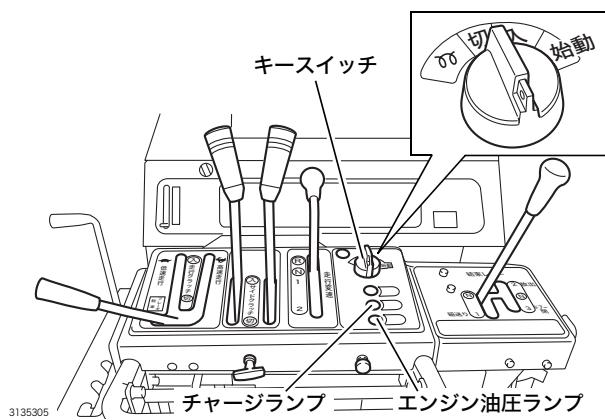
- アクセルレバーを「高」位置にしてください。



5. <寒冷時のみ>

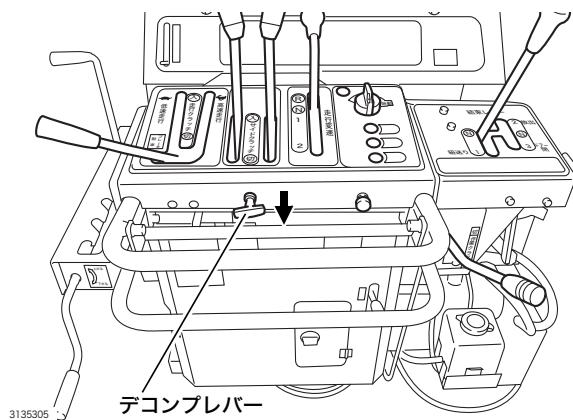
キースイッチを「 ∞ 」位置にして、グローランプが点灯している間（約4秒間）保持し、グローランプが消灯してから「入」位置してください。

- キースイッチを「入」位置にしてください。このときチャージランプ・エンジン油圧ランプが点灯します。

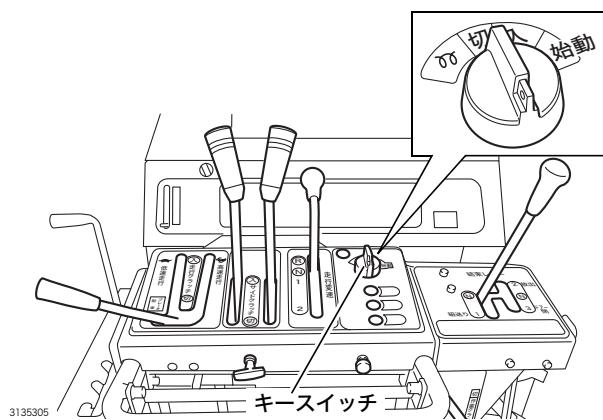


7. <寒冷時のみ>

デコンプレバーを引き、保持します。

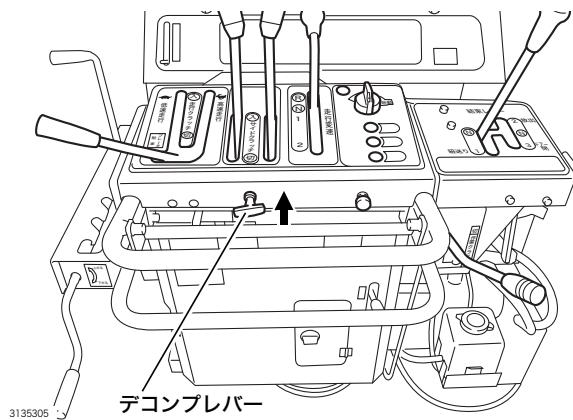


8. キースイッチを「始動」位置にしてください。



9. <寒冷時のみ>

セルが勢いよく回り出したら、デコンプレバーを戻します。



10. エンジンが始動したら、速やかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「入」位置に戻ります。

11. アクセルレバーを「低」位置にしてください。

【重要】

- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「始動」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。
- セルモータの1回の運転時間は、5秒以内にしてください。もしエンジンが始動しないときは、いったんキースイッチを「切」位置にして、30秒以上経ってから、再び始動してください。
- エンジンが始動しても、チャージランプ・エンジン油圧ランプが消えないときは、特販店・JAに連絡してください。

2. 暖機運転のしかた

⚠ 注意

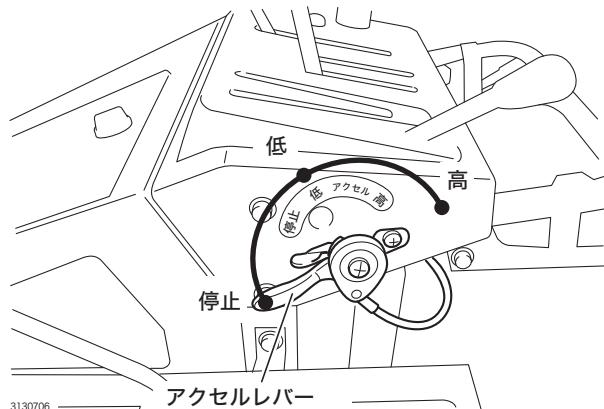
暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。機械が動き出したりして、傷害事故の原因になります。

- エンジンを始動してください。

[重要]

駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。

- アクセルレバーを「低」位置にしてください。
エンジン回転が下がります。

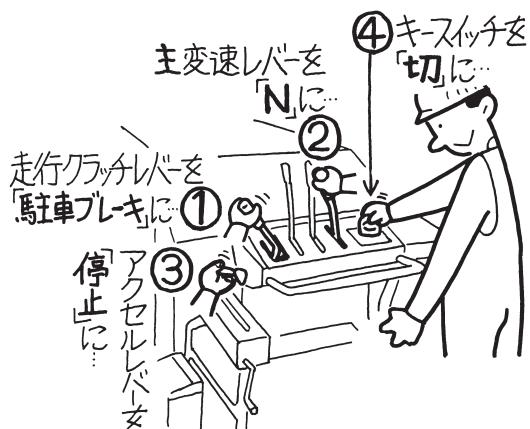


- 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

※寒冷時は、暖機運転を15分以上行ってください。

3. エンジンの停止のしかた

- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
- 主変速レバーを「N」位置にしてください。
- アクセルレバーを「停止」位置にしてください。
エンジンが停止します。
- キースイッチを「切」位置にしてください。



[重要]

- デコンプレバーでのエンジン停止はしないでください。
- エンジン停止直前の極低速からの急加速操作は行わないでください。まれにエンジンの逆回転現象が発生する場合があります。

4. 発進・旋回・变速・停止・駐車のしかた

⚠ 注意

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 作業中および移動時は、安全のためにヘルメットをかぶってください。

発進のしかた

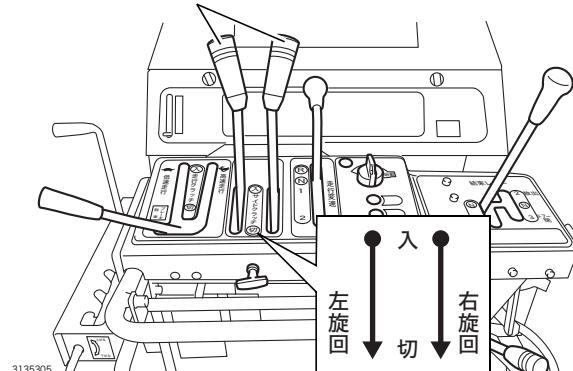
1. ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。
2. アクセルレバーでエンジン回転を少し上げて、变速レバーを希望の速度段に入れてください。
3. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、周囲の安全を確認後、徐々に「入」位置にして、ゆっくり発進してください。



旋回のしかた

旋回したい側のサイドクラッチレバーを引きます。

サイドクラッチレバー



变速のしかた

⚠ 注意

坂道で变速する場合は、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。機体が停止せず、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

走行の途中で变速するときは、下記の要領で行ってください。

1. 走行クラッチレバーを「切」位置にします。ただし、坂道で变速する場合には、走行クラッチレバーを必ず「駐車ブレーキ」位置にしてください。
2. 希望の变速に入れ替えます。
3. 走行クラッチレバーを徐々に「入」位置にし、ゆっくり発進します。

[重要]

「前進」から「後進」、「後進」から「前進」に变速する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。

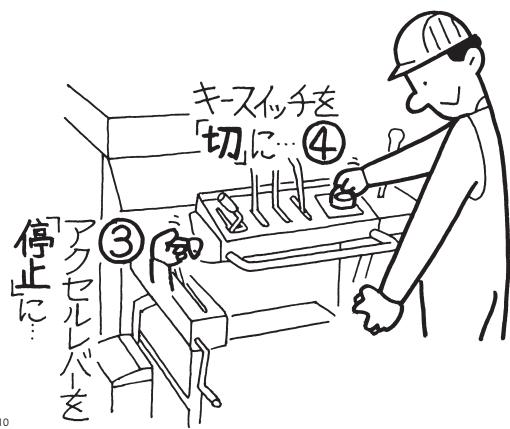
停止・駐車のしかた

⚠ 注意

本機から離れるときや駐車するときは、必ず走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。なお、坂道ではさらにクローラに歯止めをしてください。

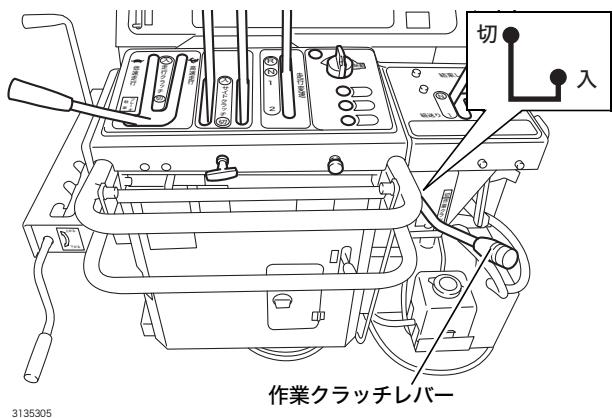
機体が動いて思わぬ事故を引き起こすことがあります。

1. 作業クラッチレバーを「切」位置にし、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。
2. 変速レバーを「N」位置にします。
3. アクセルレバーを「停止」位置にすると、エンジンが停止します。
4. エンジンスイッチを「切」位置にします。

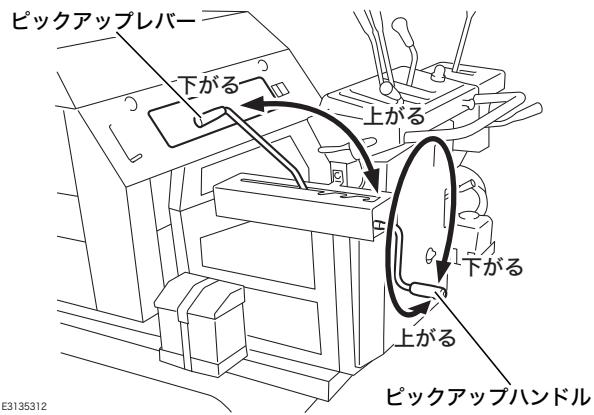
**5. 移動走行のしかた****⚠ 警告**

- 旋回および急な坂道（約10度以上）では、必ず速度を低速にしてください。けがをするおそれがあります。
- 機体の上には、ワラ・物などを乗せないでください。
- 坂道で駐車するときは、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にするとともに、木片などで歯止めをしてください。機体が動いて思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機から離れるときは、平たんで安全な場所に置き、エンジンを止め、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
- 後進するときは、後方に注意して、エンジンは低速回転、走行クラッチレバーは低速で行ってください。

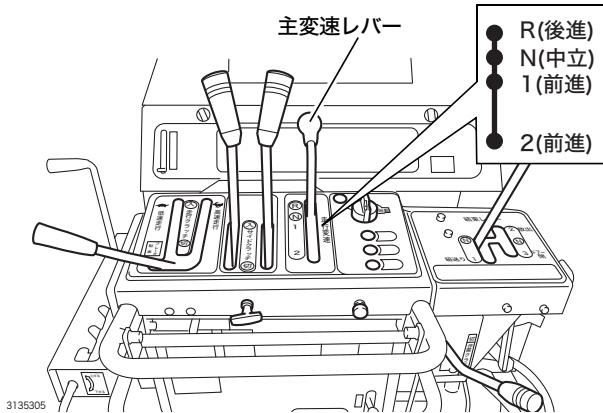
1. 作業クラッチレバーを「切」位置にしてください。



2. ピックアップレバーでピックアップを上げ、つぎにピックアップハンドルでいっぱいまで上げます。



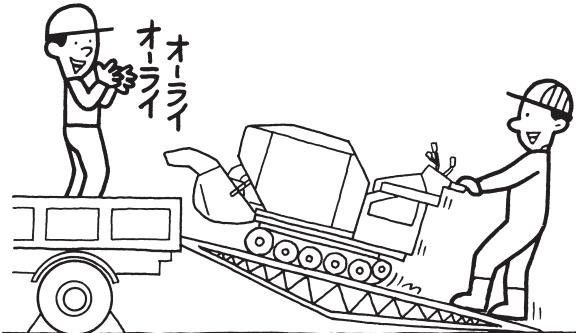
3. 主変速レバーを「1速」または「2速」に入れ、前後左右に十分注意してゆっくり発進します。



6. トラックへの積み・降ろし、あぜ越えのしかた

!**警告**

- 積み・降ろしをする場所は、平たんで安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、歯止めなどで動かないよう処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は、基準に合ったものを使用してください。使用しないと、転落事故や機械を破損する原因になります。
- 積み・降ろしの機体の進行方向は、前進で積み込み、後進で降ろしてください。守らないと、バランスをくずし、転倒・転落事故の原因になります。



- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- 本機の直前・直後には機械が不意に動いたときにあぶないので、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

1. アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

- 長さ … トラックの荷台高さの 4 倍以上。
- 幅 ……30 cm 以上。
- 強度 …1 枚が 800 kg に十分耐えられるもの。
- 表面 … すべらないよう処理してあるもの。
- トラックの荷台に引っかけるためのフックが付いているもの。

⚠ 注意

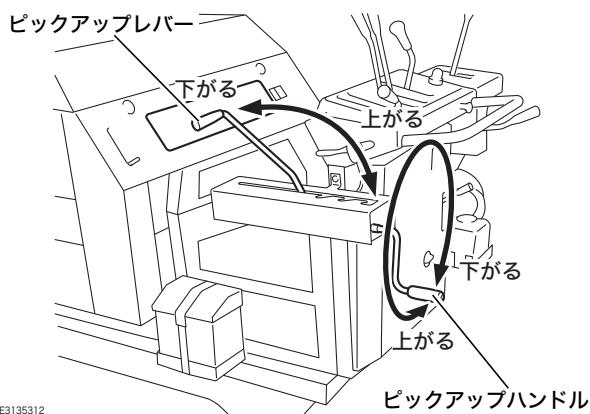
基準を満たしていないアユミ板を使用すると、ピックアップフィンガの角度（ピックアップドラムからの出かた）によっては、アユミ板に当たりフィンガが変形するおそれがあります。基準を満たしているアユミ板を使用し、当たらないように注意してください。

2. トラックの準備

1. トラックは、平たんで安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広きの場所に停車してください。
2. トラックの変速は「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
3. タイヤに歯止めをしてください。
4. トラックの荷台にアユミ板のフックを段差ができるないように、確実に掛けてください。

3. 本機の積み込みかた

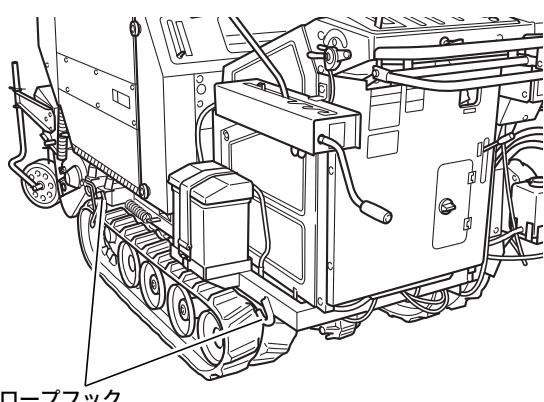
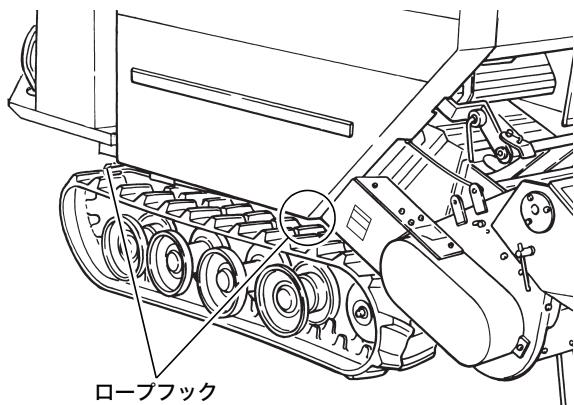
1. 本機は、移動走行と同じ状態にしてください。
(30 ページ参照)
2. 本機は、アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、アユミ板に対してまっすぐに方向を定めてください。
3. ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。



4. 本機の積み込み方向は、前進で積み込んでください。
5. アクセルレバーでエンジン回転を少し上げてください。
6. 変速レバーを「1」（前進）位置にしてください。
7. 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、徐々に「入」（低速走行）位置にして、ゆっくり前進してください。
8. 運転者は、常に走行クラッチレバーを操作できる位置にいてください。
9. 本機がトラックに積み込まれたら、走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。機体が停止します。

4. トラックに積み込んだら

- エンジンを停止してください。
- ピックアップ部を荷台に接地させてください。
- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてください。
- 機体左右のロープフック（4カ所）に、十分強度のあるロープを掛け、機体を確実に固定してください。



[重要]

- ロープフック以外に、ロープは掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

5. 本機の降ろしかた

本機をトラックから降ろすときは、後進で行ってください。

- 機体を固定しているロープを外してください。
- エンジンを始動してください。
- ピックアップレバーとピックアップハンドルで、ピックアップ部を最上げ状態にしてください。
- アクセルレバーでエンジン回転を少し上げてください。
- 変速レバーを「R」（後進）位置にしてください。
- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置から解除して、徐々に「入」（低速走行）位置にして、ゆっくり後進してください。
- 運転者は、常に走行クラッチレバーを操作できる位置にいてください。
- 本機が完全にトラックから降ろせたら、走行クラッチレバーを「切」位置にして、機体を停止してください。

6. あぜ越えのしかた

▲ 注意

- あぜ越えは低速で、あぜに対して直角にゆっくりと行ってください。
- 高いあぜを越えるときは、アルミ板などを使用してください。

7章 作業のしかた

1. 作業条件とほ場条件

作物の条件

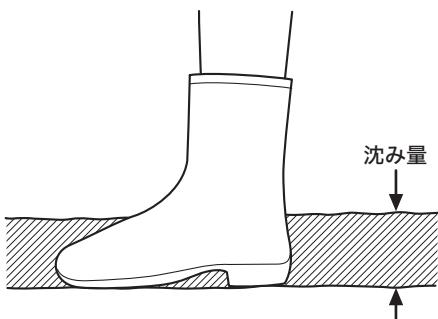
本機の適応作物は、稲（麦）の長ワラ・稲（麦）の切ワラ・牧草（イタリアンライグラス類）です。コーンなどの硬い飼料では作業できません。

※ 降雨や多湿状態の作物は、梱包能率の低下だけでなく詰まりの原因にもなりますので、作物は十分乾燥させてください。
早朝・夕方は、多湿状態になりますので注意してください。

ほ場の条件

足の沈みがくる節（約4 cm）までのぬかるみであれば作業できます。ただし、一度通ったクローラ跡を通らないようにしてください。

※ 作業をしやすくするため、なるべくほ場を乾かしてください。



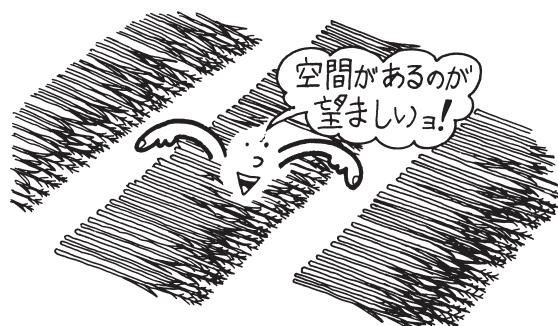
A3037319

能率のよい作業をするための準備

効率のよい作業をするためには、梱包作物の種類によってウインドロー、またはコンバイン作業などで、梱包しやすいように前処理を行ってください。
※ ウインドローとは、能率よく作業するために、ワラなどをうねのように集めたものです。

稻（麦）の長ワラを梱包する場合

3・4条刈コンバインの垂れ流し作業が最適です。



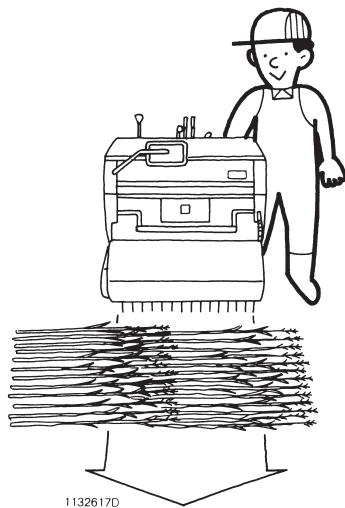
1132212B



【重要】

2条刈コンバインの垂れ流し作業・ドロッパ作業、および稈長100 cm以上などは、反転作業後にウインドローを作ってください。
あるいは、オーバーラップ部を避け、上部のワラから取り込んでください。（次ページ参照）

上部のワラから取り込む場合は、コンバインの作業方向とは逆に作業します。コンバインがほ場の外側から左回りで順次中央に向かうのに対し、ロールベーラは、外側から右回りで中央へと進みます。そうしないと、未回収側にロールが落ち、次行程で作業ができません。



稻（麦）の切ワラを梱包する場合

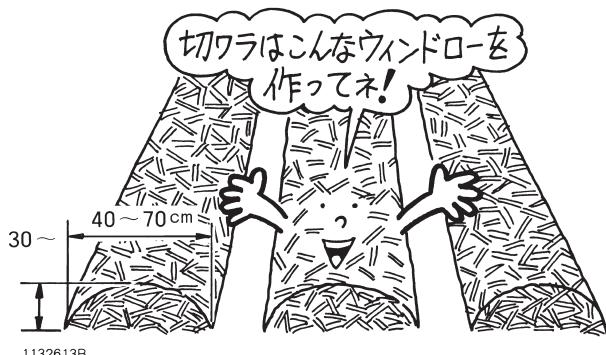
切断長は5 cm以上とし、ウインドローを作ってください。

【重要】

ウインドローなしの作業は、回収率低下となります。

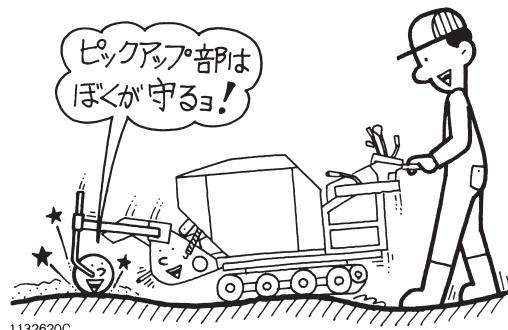
牧草（イタリアンライグラス類）を梱包する場合

反転・乾燥後、ウインドローを作ってください。



【重要】

- ウインドローの高さが40 cm以上で作業をしますと、搬送詰まりが発生することがありますので注意してください。
- 凹凸の激しいほ場や石の多いほ場では、ゲージホールを使用してください。ピックアップ部を守り、ベールへの土砂の混入を防ぎます。



寒冷時作業について

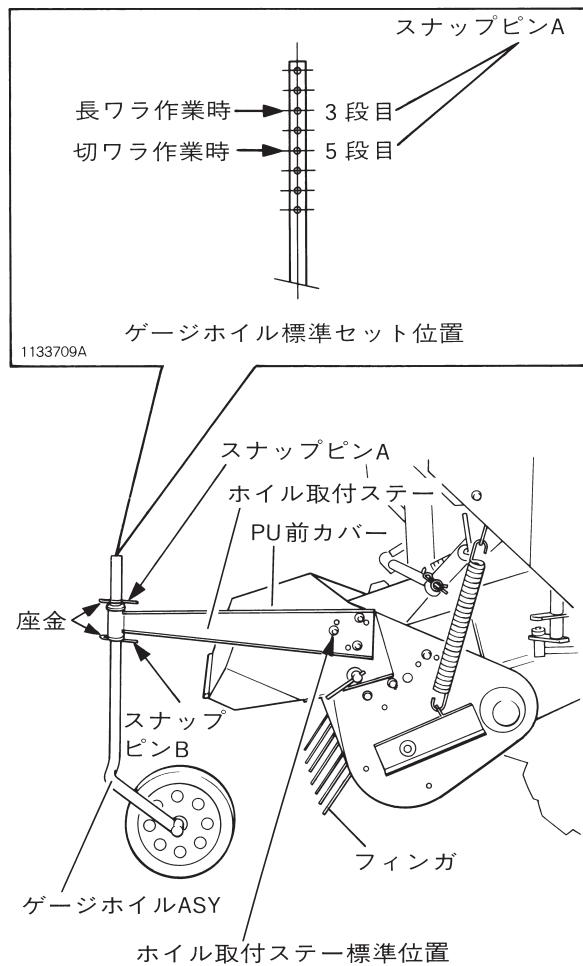
寒冷時は油温が低いため、ドアが閉まりにくい場合があります。こんなときは、作業前に2~3回ドアを開閉して、確実に閉まることを確認してから作業を行ってください。

能率のよい作業をするための準備

〈ゲージホイル使用時には〉

取り込む作物により、長ワラ作業時には上方から3段目、または切ワラ作業時には、上方から5段目にスナップピンAを差し込んでセットしたのち、スナップピンBを差し込んでゲージホイルASYを取り付けてください。

ほ場条件、作物条件により、上述の調節で不具合を生じる場合は、適宜ピン位置を変更して作業してください。なお、ピンのみで調節できない場合は、ホイル取付ステーの取付位置を回動し、穴位置をえてください。



[重要]

ゲージホイル使用時には、ピックアップハンドルを回して、ゲージホイルがちょうど地面に接地する程度にピックアップワイヤーを調節してください。(ワイヤーをゆるめすぎると、ゲージホイルだけが凹地に入ったときに、フィンガが土をかき込んでしまいます。)

2. 作業前の準備

使用するひもについて

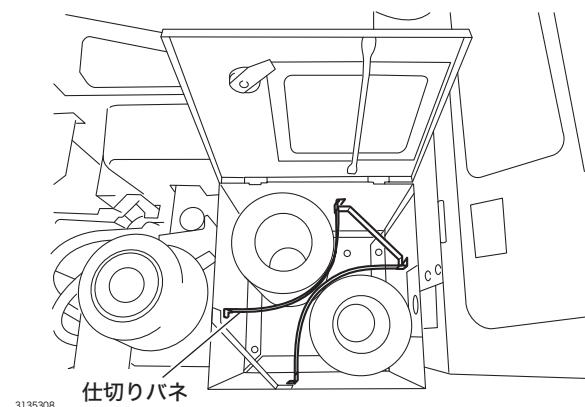
ひもはバインダ用のジュート・サイザル・PPひものほかに、コンバイン用のジャンボひもが使用できますが、いずれのひもについても、メーカー指定以外のひもは使わないでください。

[重要]

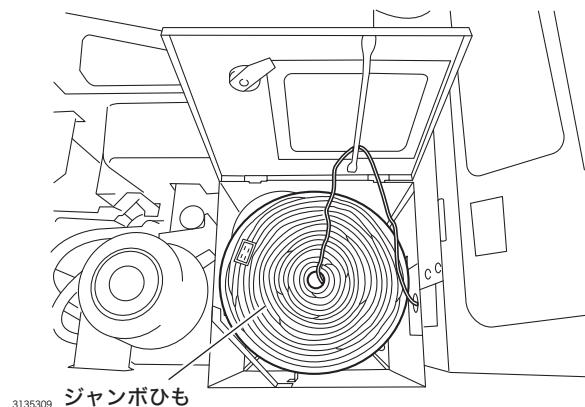
できるだけジュートひもを使用してください。

ひもケースへひもをセットするときは、通常サイズのひもと、ジャンボひもで仕切りバネの位置が下図のように異なります。

通常サイズのひもの場合



ジャンボひもの場合

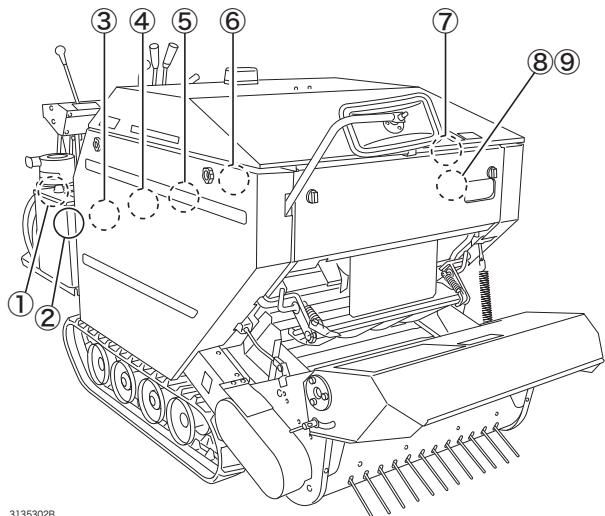


[重要]

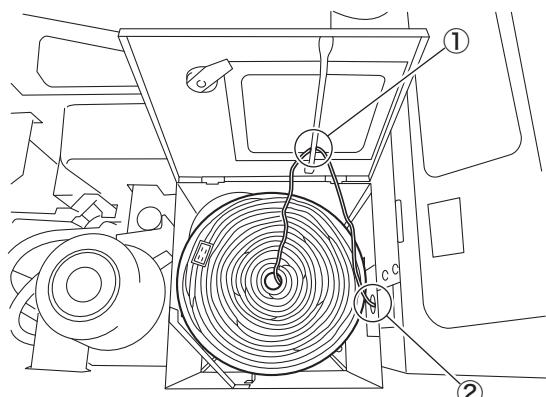
替えひもは、特販店でお買い求めください。もし指定以外のひもを使用して、結束不具合が出た場合は保証いたしかねますのでご注意ください。

ひもの通しかた

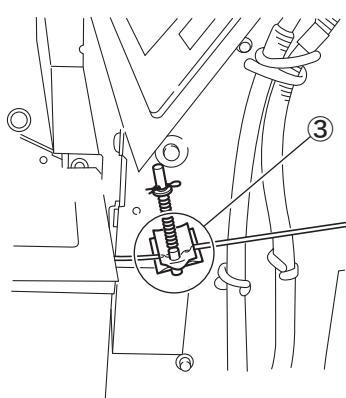
ひも受け台に結束ひもを取り付け、下図①～⑨の順に通します。つぎに、次ページの要領でひもブレーキ圧の調節をします。



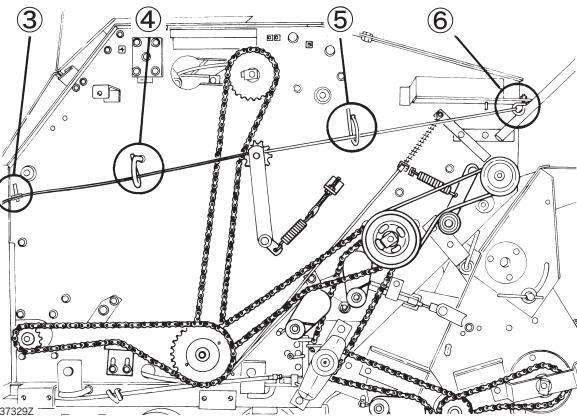
3135302B



3135309A

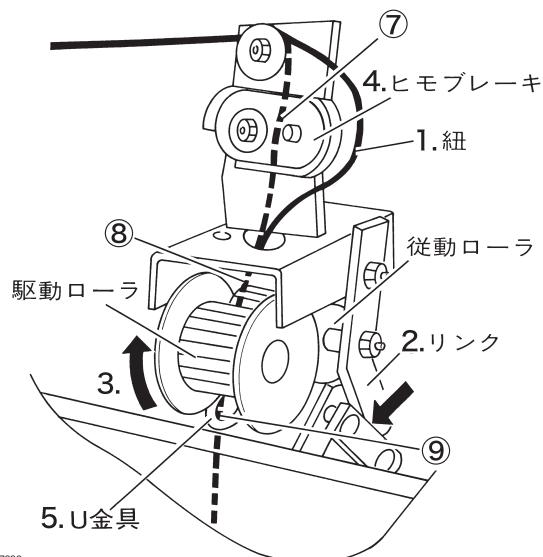


3135325



〈結束部⑦⑧⑨のひもの通しかた〉

1. ひもを穴の中に先に通します。
2. リンクを矢印方向に引き、従動ローラを駆動ローラに接触させます。
3. 駆動ローラを手で矢印方向に回して、ひもを送り込みます。
4. 最後にヒモブレーキにひもを通します。
5. 紐がU金具の中を通っているか確認してください。



2137330

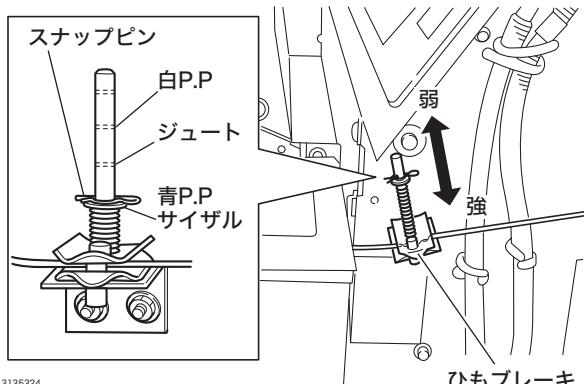
!**注意**

ひもを通すときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。けがをするおそれがあります。

ひもブレーキの調節のしかた

ひもブレーキは、下図のようにスナップピンを切り換えてセットしてください。

ひもによりスナップピンを下図の位置にセットしてください。



3135324

[重要]

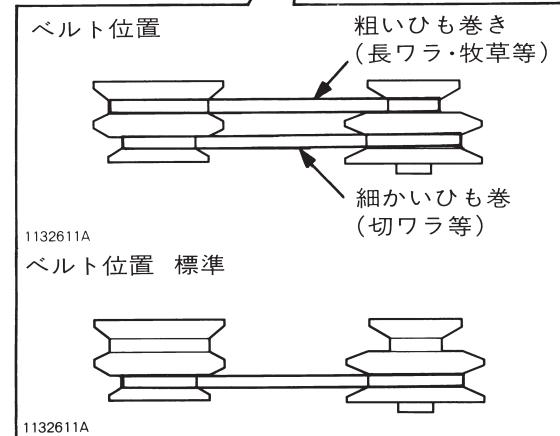
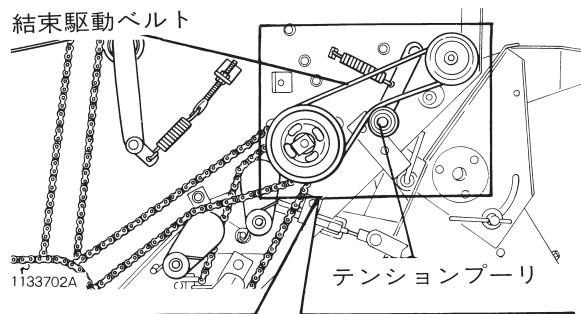
- ひもはメーカー純正ひもをご使用ください。
- ひもは絶対にぬらさないでください。

ひも巻きピッチの切り換え

標準は結束駆動ベルトを外側に取り付けてください。ひも巻きピッチは約 10 cm です。結束駆動ベルトを内側に取り付けると、ひも巻きピッチは約 16 cm になりますが、ひも使用量を少なくすることができますが、結束不良やバラケなどの原因になりますので、極力ベルトは外側に取り付けて使用してください。

〈ベルトの掛けかた〉

下図のようにテンションプーリを下方に押し下げて、プーリへの掛け替をしてください。



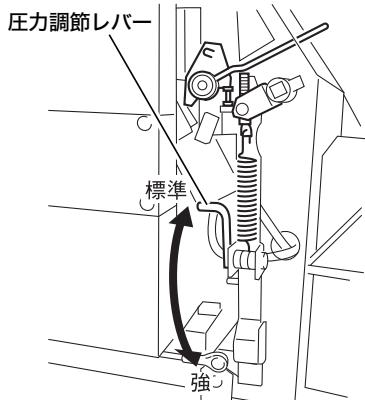
!**注意**

ベルトの掛け替は、必ずエンジンを停止してから行ってください。けがをするおそれがあります。

	切ワラ	長ワラ・牧草
ベルト位置	外	内
ひも巻きピッチ (cm)	10	16
結束時間 (秒)	20	13
ペール 1 個当たり ひも長さ (m)	18 ~ 19	13 ~ 14

ベール加圧バネの調節のしかた

本機左側（後方）のカバーを外すと調節レバーがあります。この調節レバーによって、ベール圧の「強」・「標準」が変えられます。通常作業は標準位置で行いますが、ベールを特に固めにしたいときは、「強」側に切り替えます。



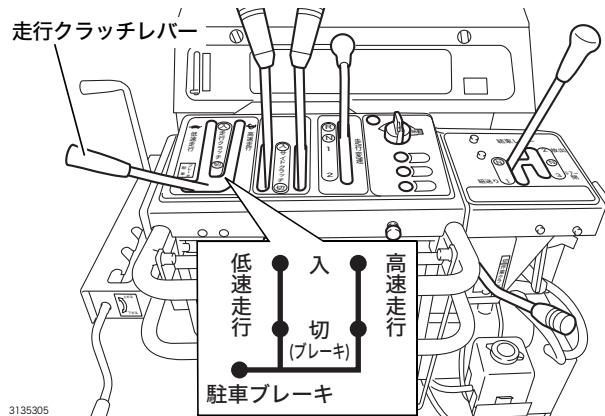
2137328

[重要]

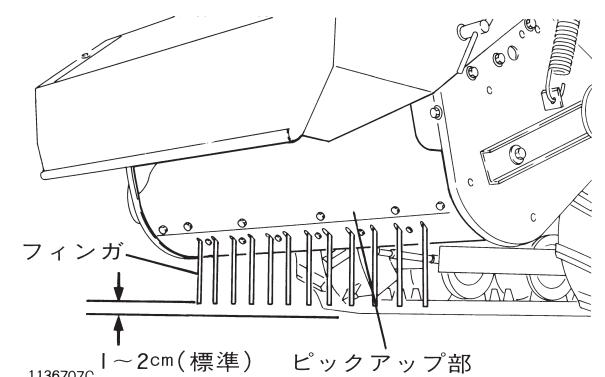
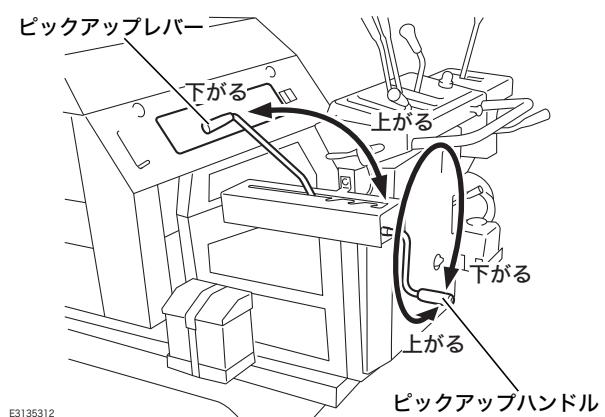
ベール圧を「強」にすると結束後の放出が困難となる場合があるので、極力ベール圧は「標準」で使用してください。

3. 本機の作動確認のしかた

- 走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にします。

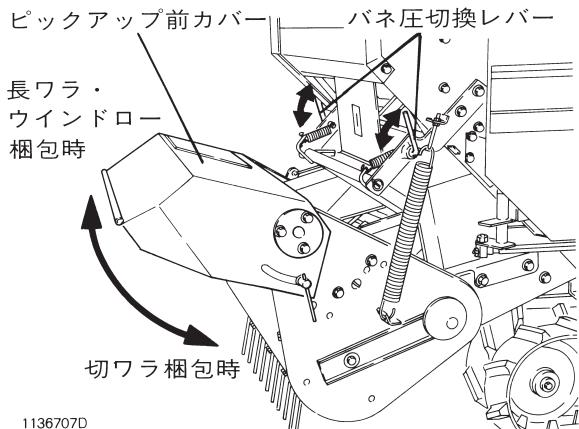


- ピックアップレバーでピックアップを下げ、つぎにピックアップハンドルでピックアップのフィンガが地面に接触しない程度（1～2cm）まで下げます。



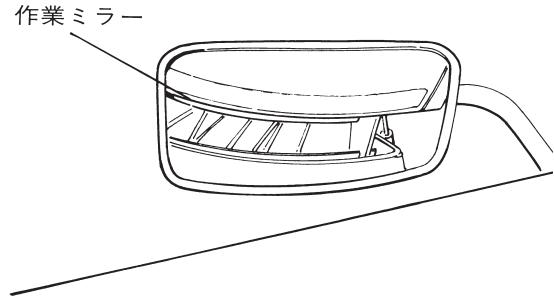
1136707C

3. 切ワラを梱包するときは、バネ圧切換レバーを左右とも下側にして、ピックアップ前カバーを下方へ調節します。長ワラおよびウインドローのときは、バネ圧切換レバーを左右とも上側にし、ピックアップ前カバーを上方へ調節します。



1136707D

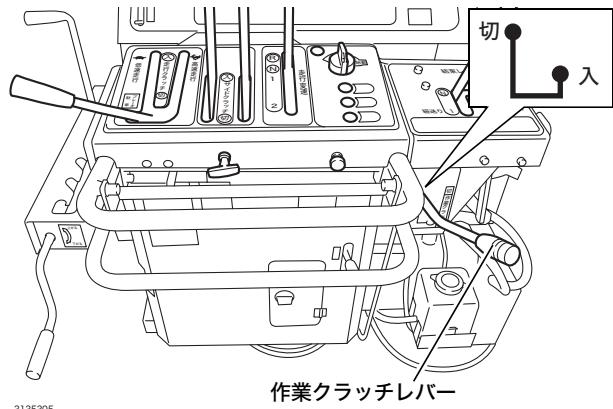
4. 作業ミラーを搬送部が見える位置に合わせます。



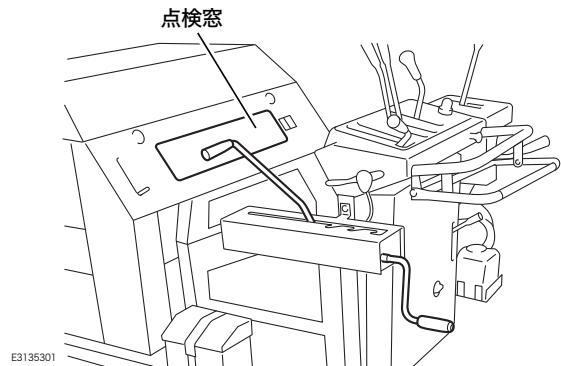
1132607C

5. エンジンを始動してください。

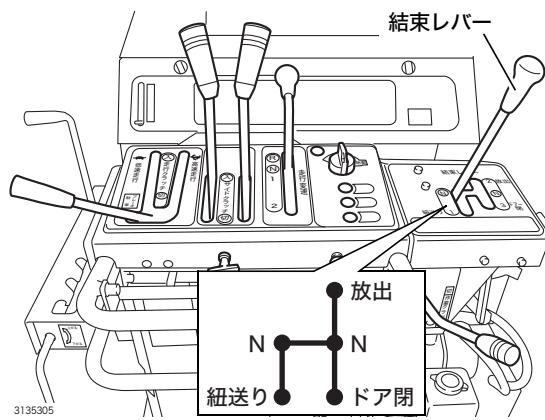
6. 作業クラッチレバーを「入」位置にして、パイコンベア・ピックアップ部が正常に回転しているか、点検窓から確認してください。



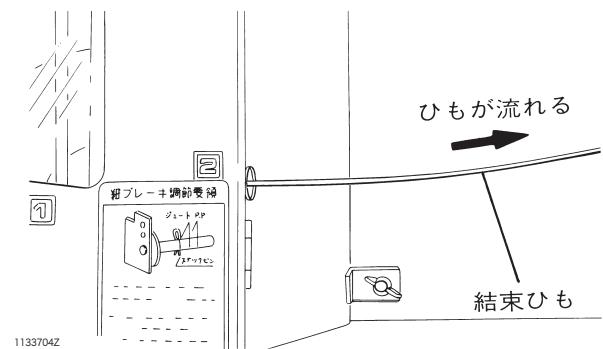
3135305



7. 結束レバーを「紐送り」位置にして、ひもが流れいくか確認してください。

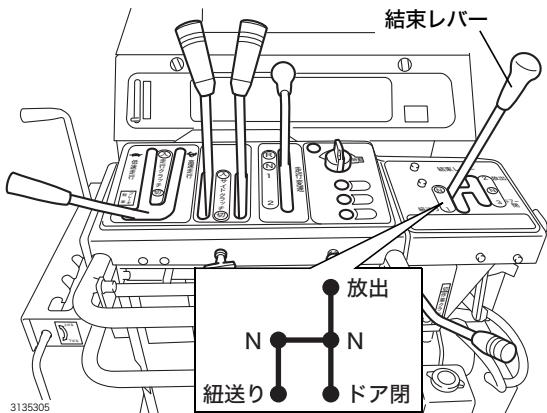


3135305



1133704Z

8. 終了レバーを「放出」位置にして、ドアが開くか確認してください。またこのとき、パイプコンベア・ピックアップ部が停止しているか、点検窓から確認してください。
9. 終了レバーを「ドア閉」位置にして、ドアが閉じるか確認してください。



⚠ 注意

ドアの開閉は、周囲に人がいないことを確認して行ってください。周囲に人や障害物があるとぶつかって、けがや破損するおそれがあります。

4. 梱包作業のしかた

⚠ 危険

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれる、あるいは旋回時の接触事故など非常に危険です。

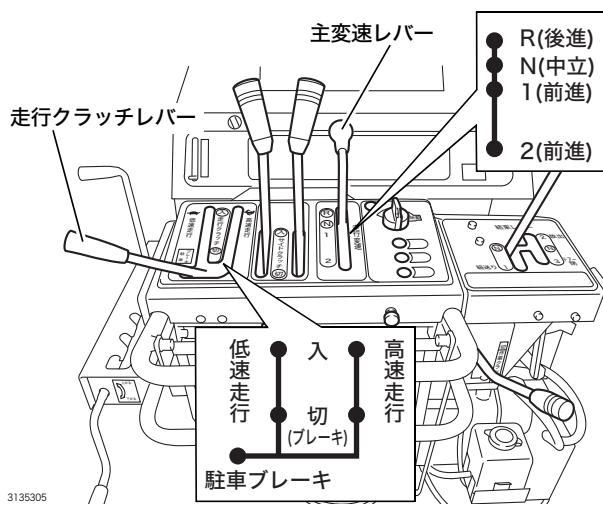
⚠ 警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で後進してください。
- エンジン回転中、回転部に手や指や体を絶対近づけないでください。けがをするおそれがあります。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから点検してください。
- ワラクズを取り除くとき、およびワラなどが詰まった場合には、必ずエンジンを停止してから取り除いてください。
- ワラクズの上に機体を止めて作業をしないでください。火災の原因になります。
- 作業をするときは、チェンなどに十分注意して作業してください。服のそでや、手が巻き込まれ、けがをするおそれがあります。
- エンジンやマフラーにワラクズがたまらないよう掃除をしてください。ワラクズが溜まると火災になるおそれがあります。
- 作業中はカバー類やふたは必ず閉めてください。けがをするおそれがあります。
- 発進および作業クラッチを入れるときは、周囲の人のがけをしないように合図をし、安全の確認をしてください。
- 運転中はドア周辺に立ち入らないでください。急にドアが開いたときに、けがをするおそれがあります。

[重要]

作業前には必ず上カバーを開き、ベール室内に異物が入っていないか確認してください。

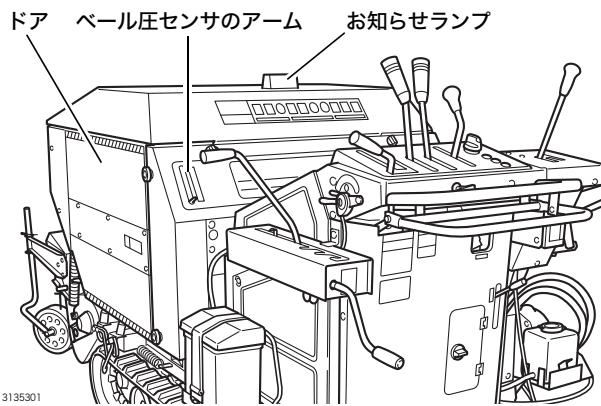
1. 主变速レバー・走行クラッチレバーを作業条件に合った速度に入れます。



3135305

2. ドアが確実に閉まっているか確認してください。

このとき、ペール圧センサのアームが下の位置にあることも確認してください。



[重要]

- 主变速レバーの操作は、必ず走行クラッチレバーを「切」の位置で行ってください。
- 作業するときは、土壤条件・作物の層・湿気にも十分注意してください。

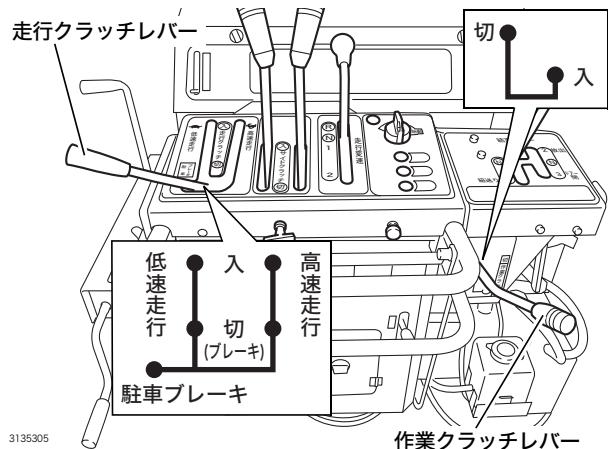
〈作業速度選定の目安〉

速度段	主变速 レバー	走行 クラッチ レバー	作業
F1	1	低	長ワラ・牧草で特にウインドローが30 cm位の場合、畦畔越え
F2		高	標準作業長ワラ・切ワラの垂れ流しの場合およびウインドローで高さ20 cm位の低い場合
F3	2	低	長ワラ・切ワラの垂れ流しで層が薄い場合
F4		高	移動のみ
R1	R	低	後進
R2		高	

[重要]

- ドアが確実に閉まっていないと（半ドア）、ペールが不完全になり、ひも巻きもできなくなります。よって再梱包が必要になりますので注意してください。
- ペール圧センサのアームが最初から上位置にあると、ブザーが鳴り、お知らせランプが点滅します。
- ドアの開閉は、結束レバーで行ってください。また、結束レバーでドアが確実に閉まらないときは、一度ドアを開けたあと、再度閉めてください。このとき、エンジン回転は必ず高速回転で行ってください。

3. エンジン回転は、アクセルレバーを「高」位置にして、作業クラッチレバー・走行クラッチレバーを「入」位置にして、作業を始めてください。
※作業の要領は、44ページを参照してください。



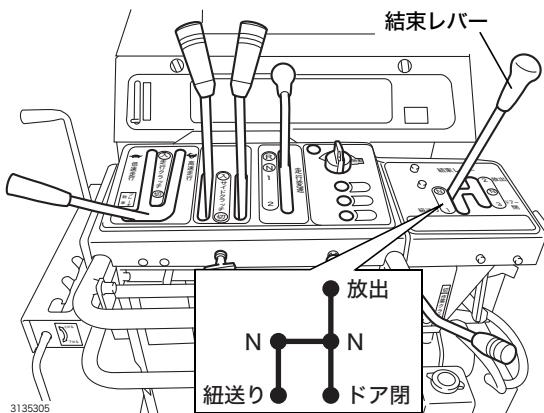
3135305

4. 10 m 前後（条件によって異なる）走ると、梱包作業が終了し、ブザーが鳴り、お知らせランプが点滅します。ただちに走行クラッチレバーを「切」位置にして停止してください。

[重要]

ブザーが鳴っているのに作業を続いていると、梱包した作物が出にくくなったり（詰まり）、機械の損傷にもなりますので注意してください。

5. 終了レバーを「紐送り」位置に切り替えて、1～2秒保持したあと、レバーを離してください。終了レバーは「N」位置に戻ります。



[重要]

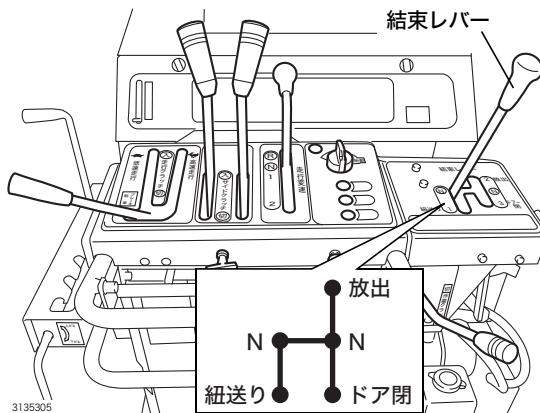
- ひもが送られているか、ひもの流れを確認してください。（40 ページ参照）
- 終了レバーを「紐送り」位置にしても、ひもが送られていない場合は、再度終了レバーを「紐送り」位置にして、1～2秒保持したあと、終了レバーを離してください。
- 雨・湿気などを帯びたジューントひもは、結束ミスの原因になることがありますので、乾燥したひもを使用してください。

6. ひも巻き作業が終了すると、再びブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しますので、ブザーが鳴ったら、結束レバーを「放出」位置にして、ベールを放出してください。（ベールの放出には、3～4秒ほどかかります。結束レバーは、リリーフ音がするまで「放出」位置で保持してください。）

[重要]

エンジン回転は、必ず高速のままで行ってください。

7. ベールの放出ができたら、結束レバーを軽く「ドア閉」位置にしてください。（3～4秒でドアが閉じます。）



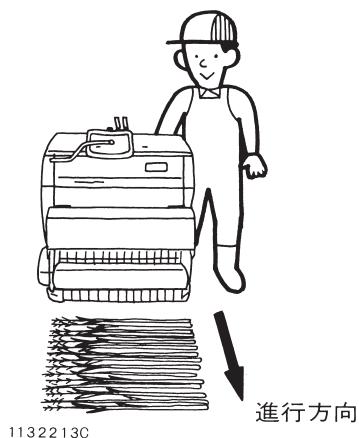
注意

ベール放出時やドアを閉じる場合は、周囲に人がいないことを確認して行ってください。周囲に人や障害物があるとぶつかって、けがや破損するおそれがあります。

作業の要領

〈長ワラを梱包する場合〉

1. 長ワラの中央部が進行方向と直角になる方向（ワラの横方向）で作業してください。



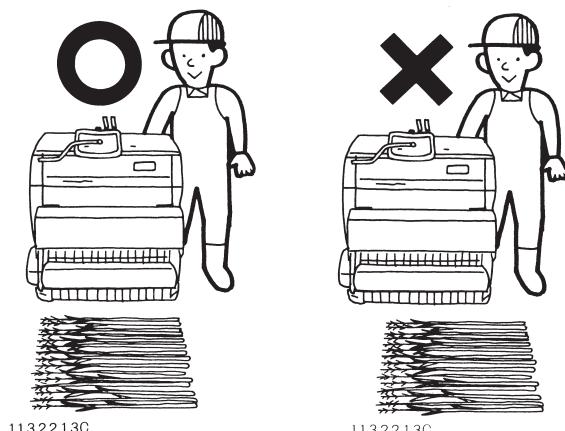
【重要】

長ワラをタテに供給すると、詰まりの原因になりますので注意してください。

2. 稈元側が取り込み作業幅の範囲内に入るよう に作業してください。特に稈長 100 cm 以上のも のは注意してください。

【参考】

- オペレータは、操作レバーが集中している左側に立ち、作物を見ながら行うと作業が楽にできます。
- 取り込み状態は、作業ミラーで確認してください。

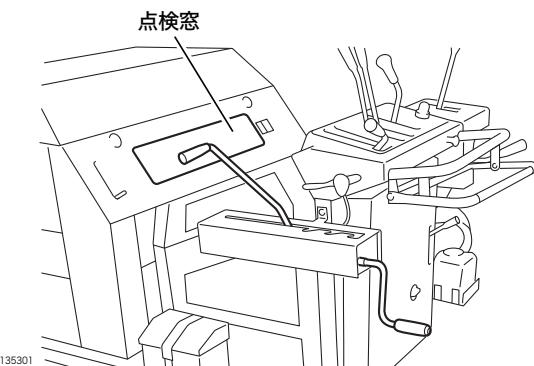


【重要】

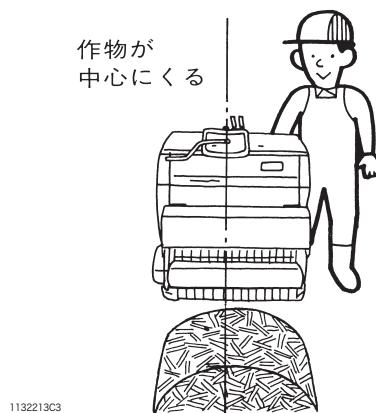
稈元側が取り込み作業幅より外に出た状態で作業 しますと、詰まりの原因になります。

3. 3 ~ 4 m 走行したら、点検窓より作物が回転しているか確認してください。回っていない場合は、異常がないか点検してください。

※ 2 条刈コンバインでの長ワラ垂れ流し作業の場合は、刈取り作業の逆方向にベール作業を行ってください。



〈切ワラ・牧草などのウインドローを梱包する場合〉 作物が機体の中心にくる位置で作業してください。



結束ひもの交換のしかた

⚠ 注意

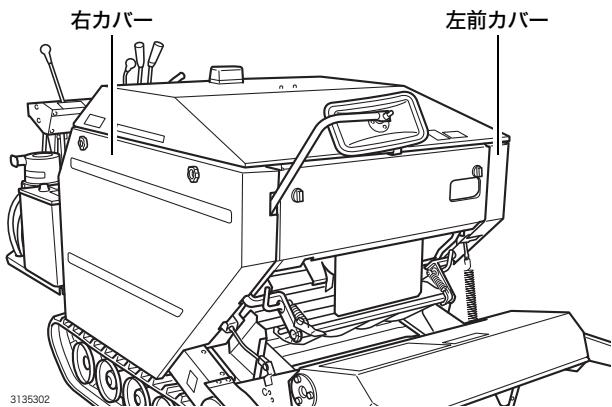
ひものを交換するときは、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。けがをするおそれがあります。

ベール数 45 個前後 (10 a 程度) の作業を行うと、ひもがなくなりますので早めに交換してください。※ ひもが途中でなくなりますと、通常の作業時間より早い時点でブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しますので、そのときはひもを新しく取り替え、もう一度ひも巻き作業を行ってください。

5. 搬送案内板の外しかた

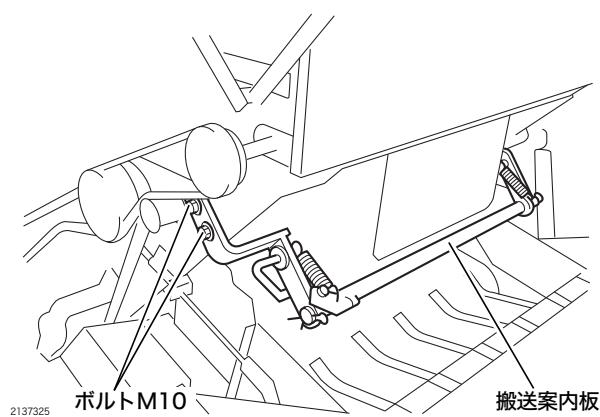
切ワラを梱包作業中にひもを送っても、ひもがトグロを巻いて結束ができないときは、以下の要領で搬送案内板を外して、梱包作業をしてください。

- 右カバー（ノブボルト：2本）と左前カバー（ボルトM8：2本）を外してください。

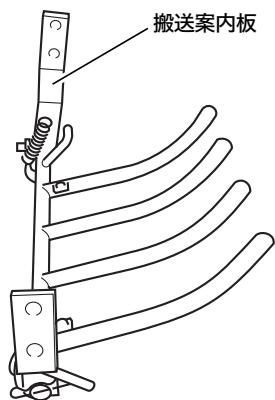
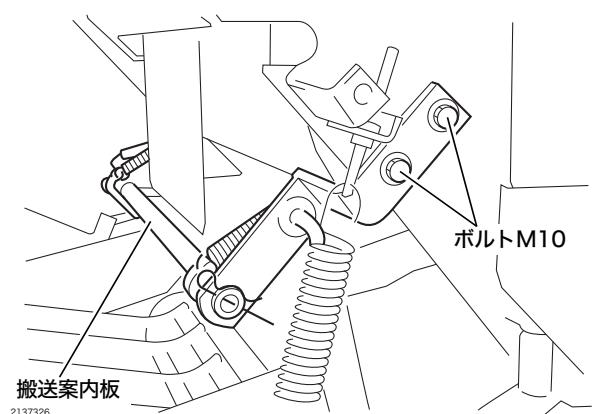


- 搬送案内板を取り付けている、左右のボルトM10（各2本）を外して、搬送案内板を機体前方に外してください。

右側



左側



【重要】

切ワラ以外の作業をするときは、必ず搬送案内板を取り付けてください。

⚠ 警告

- 掃除する場合は、必ずエンジンを停止し、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にしてから行ってください。回転部に巻き込まれるなど、けがをするおそれがあります。
- エンジンが過熱している間はシートをかけないでください。火災の原因になります。

1. 作業後の手入れ

その日のうちに、各部に付着した泥などの汚れを、きれいに水洗いし、水洗い後は水分をしっかりとふき取ってください。また、チェン・ワイヤー類は、注油箇所に十分注油しておきます。

[重要]

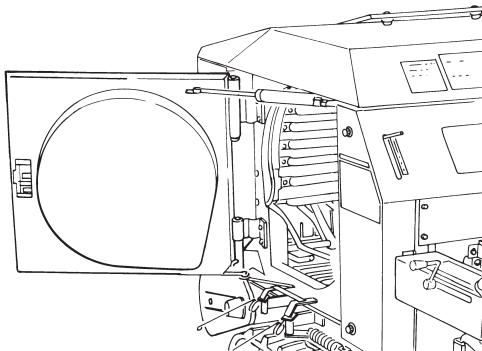
水洗いをするときは、エンジン部や電装品にはできるだけ水をかけないでください。故障の原因になります。



1136719D

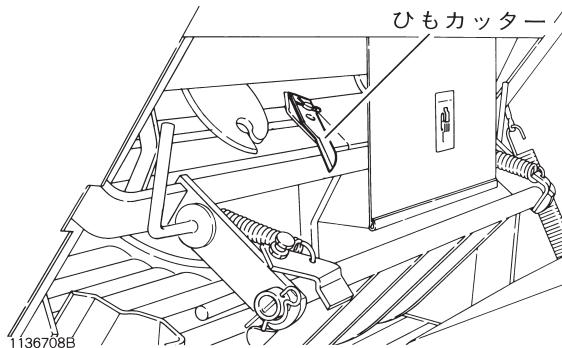
ベール室内およびピックアップドラム内の掃除のしかた

1. 搬送コンベアチェン内に引っかかっているワラなどの詰まりを掃除します。



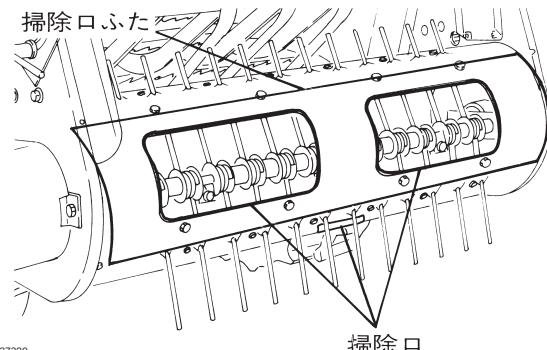
1136714B

2. ひもカッターはさびないように、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗っておいてください。



1136708B

3. 特に多湿なほ場での作業後は、ピックアップドラムの掃除口ふた (2カ所) を外して、内部の土・ワラの堆積を取り除いてください。



2137320

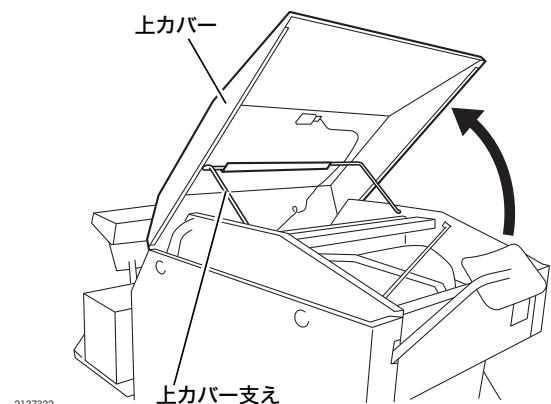
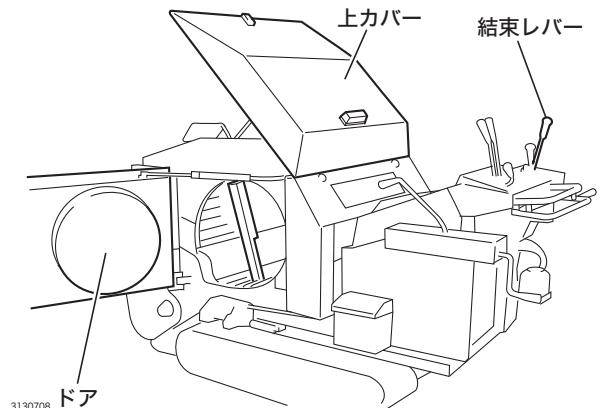
[重要]

- 掃除後はボルトを確実に締め付けてください。
- 乾田では、通常 1 ha 前後で掃除を行ってください。

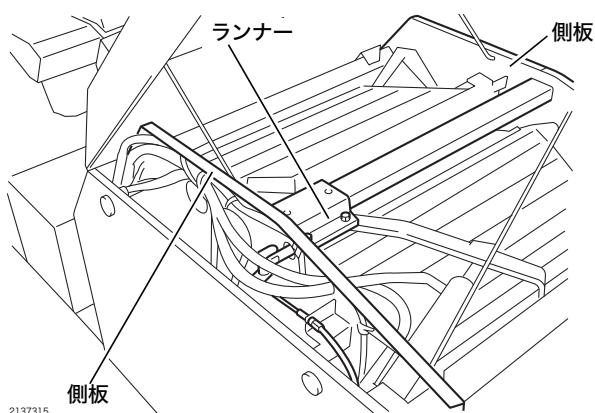
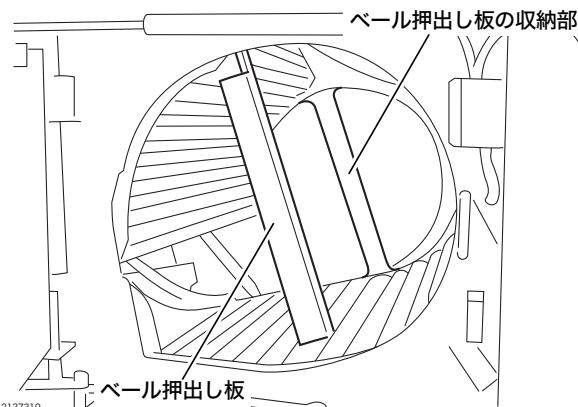
ベール押出し板の収納部・ランナーと側板の間の掃除のしかた

ベール押出し板の収納部や、ランナーと側板の間に作物や土砂などが溜まっている場合は、下記の要領で掃除してください。

1. 結束レバーを「放出」位置にして、ドアを開いてください。
2. エンジンを停止して、上カバーを開いて、上カバーを固定してください。



3. 下記の指示部分に溜まっている作物や土砂を取り除いてください。



【重要】

- 上カバーを開けるときは、上カバー支えで支えることができる位置まで開けてください。
上カバーには、ストップ機能は付いていません。
支え位置以上に開けると上カバーが機体後方に倒れ、思わぬ事故や機械を破損する可能性があります。
- 風が強いときは、注意してください。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

格納のしかた

⚠ 警告

保管する場合は、バッテリを外し、キーを抜き取ってください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。

- 外部に付着した泥・ほこり・油汚れなどを落として、きれいに掃除してください。
点検時期の近い定期点検作業や潤滑油の交換などは、保管前に済ませてください。
- ワイヤーなどの可動部に注油してください。
- 燃料コックを「閉」位置にしてください。
- 燃料タンク内の凍結防止のため、燃料はすべて抜き取るかまたは満タンにしてください。
- 4～6カ月に1回はエンジンを運転してください。
- マフラー・エアクリーナー・電装部品などが水・ほこりをかぶったり、湿気が侵入しないようにビニールカバーをかぶせてください。
- 湿気やほこりのない風通しのよい日影で雨水がかからない平たんな場所で保管してください。

[重要]

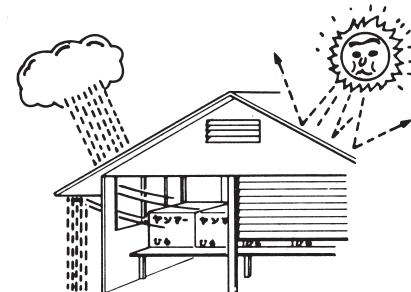
- 寒冷時には、エンジン冷却水に不凍液を入れるか、冷却水を抜き取って保管してください。
- エンジン内部に残された冷却水が凍結・膨張してエンジンが破損する場合があります。冷却水を抜き取るときは、ドレンボルトとラジエータキャップを外してください。
- 電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。
- 長期保管後、再び使用するときは、はじめて使う場合と同様に運転準備をしてください。

3. ひもの保管のしかた

ひもの形がくずれてホグレが悪くなったり、ぬれてひもが弱くなると、結束ミスの原因になります。保管のときは、湿気のない風通しのよい所へ置いてください。

ひもの保管場所について

ひもを保管するときは、湿気のない風通しのよい所へ置いてください。



ひもの取り扱いかた

ひもの形がくずれてホグレが悪くなったり、ぬれてひもが弱くなると、結束ミスの原因になりますので、丁寧に取り扱ってください。

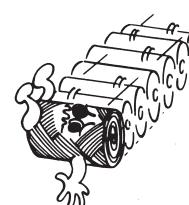
● 投げないこと



● 落とさないこと



● 転がさないこと



● ぬらさないこと



9章 点検・整備のしかた

⚠️ 警告

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、走行クラッチレバーを「駐車ブレーキ」位置にし、各レバーを「切」位置にして、回転部が止まってから行ってください。けがをするおそれがあります。
- 外した回転部のカバー類は、衣服が巻き込まれたりしてあぶないので、必ず取り付けて作業してください。けがをするおそれがあります。
- 室内で点検する場合は、十分換気してください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。
- エンジンのマフラーなど高温部にはさわらないでください。やけどをするおそれがあります。

[重要]

地面への垂れ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

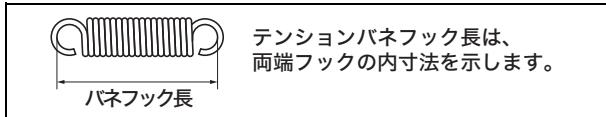
1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。

特に、燃料パイプなどのゴムホース類は2年ごとに交換し、電気配線は毎年点検するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行えるようにしてください。

2. 定期点検一覧表

◇：点検 ●：交換 □：調整（掃除） △：給油脂



実施項目	使用時間						参照 ページ
	毎日	20 時間ごと	50 時間ごと	100 時間ごと	300 時間ごと	600 時間ごと	
電気配線の点検	◇						—
吸気口の掃除	◇						57
部品脱落・破損箇所はないか	◇						—
各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締め	◇						—
燃料や各部油もれ点検	◇						—
エンジンの調子	◇						—
エンジンオイルの点検・補給・交換	◇	● (第1回目)		● (2回目以降)			51
エンジンオイルフィルタの洗浄・交換		□ (第1回目)		□ (2回目以降)	●		51
エアクリーナーエレメントの掃除・交換	□					●	57
燃料エレメント（フィルタ）の点検・洗浄・交換				□		●	58
冷却ファン吸気口の掃除	□						57
油圧パッケージの油量	◇						52
バッテリ液量	◇						71
ヒューズの交換							70
ミッションオイルの点検・補給・交換			● (第1回目)	● (2回目以降)			52
各部の給油脂	△						53～55
サイドクラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				60
走行クラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				61
作業クラッチレバーの調節		◇ (第1回目)	◇				62
各ベルトの調節		◇ (第1回目)	◇				63
ピックアップドラム駆動チェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
カウンターチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
結束ランナーチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				64
上部パイプコンベアチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				65
下部パイプコンベアチェンの調節		◇ (第1回目)	◇				65
搬送押さえの調節			□				65
ひもカッターの研磨				□			66
クローラの張りの調節		◇ (第1回目)	◇				66
集中注油タンクの油量の補給	◇						55
ピックアップフィンガの変形	□						68
ピックアップフィンガの交換							68
ピックアップ高さの調節							63
シャーピンの交換							69

3. オイルの点検・補給・交換のしかた

エンジンオイルの交換のしかた

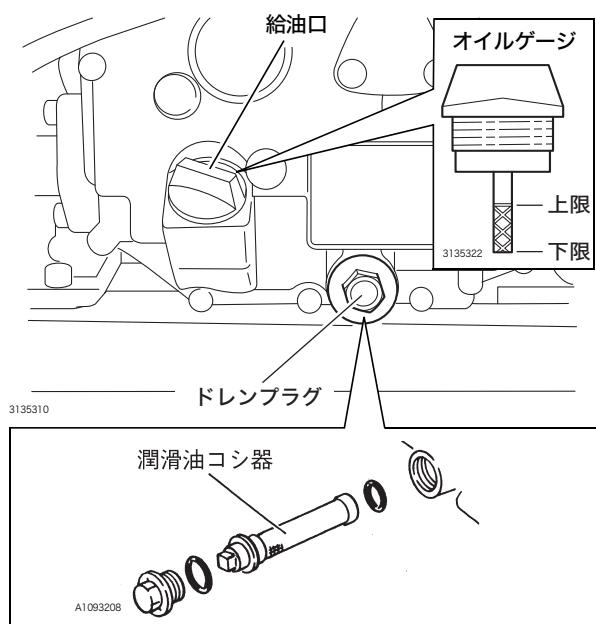
⚠ 注意

エンジンが高温のときは交換しないでください。やけどするおそれがあります。

〈交換のしかた〉

- エンジンカバー左を外してください。
- エンジンクランク室の給油口（オイルゲージ）を外してから、ドレンプラグを外して汚れたオイルを流し出します。

※ エンジンが温かいいうちに行うと、容易に抜くことができます。



- ドレンプラグ（排油口）内部にある潤滑油コシ器を外し、洗油で洗ってください。
- 給油は、エンジンオイルを給油口から入れます。

- 検油は、オイルゲージを抜いて、油をふき取り、もう一度オイルゲージを差し込んでから抜き出し、オイルゲージの上限と下限の間に油が付いていれば規定量とみなしてください。
(オイルゲージはねじ込まないでください。)

オイル	交換時期	規定量
スーパー油デラックス 10W-30 (CC級)	第1回目は 20時間目	
スーパーロイヤルオイル 10W-30 (CD級) 15W-40 (CD級)	2回目以降は 100時間ごと	1.8 L

【重要】

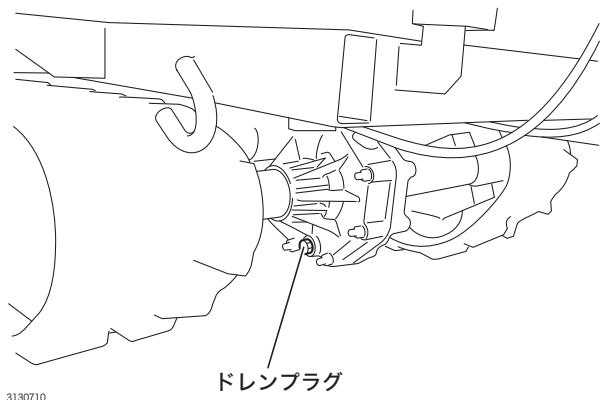
- 給油・検油は、本機が傾斜状態であると過不足が生じますので、必ず水平状態で行ってください。
- オイルの補給や交換時は入れすぎないように注意してください。
- 補給時などこぼれたオイルはきれいにふき取ってください。
- 地面への垂れ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

走行ミッションオイルの交換のしかた

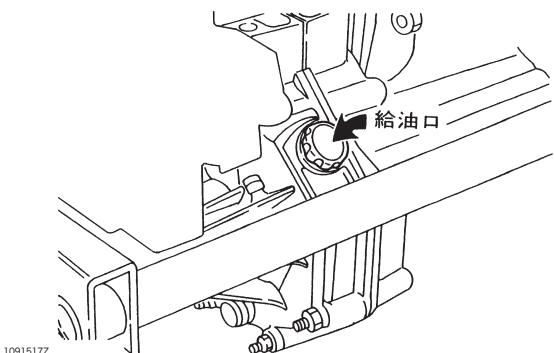
- ミッションケース下部にあるドレンプラグを外し、汚れたオイルを抜きます。

[参考]

ミッションが温かいうちに抜くと、容易に抜くことができます。



- 給油は規定量入れます。



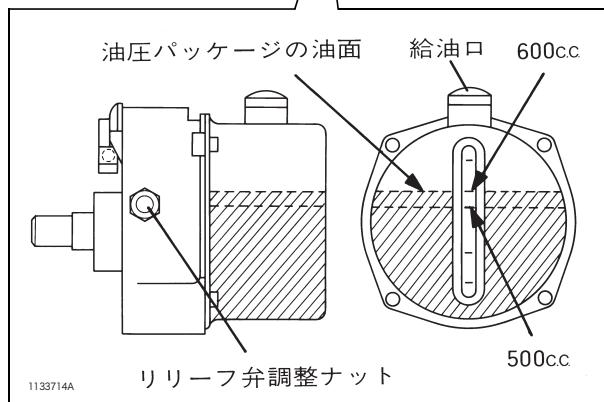
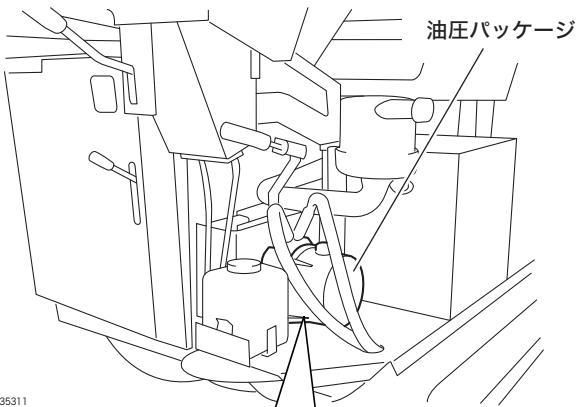
推奨オイル	交換時期	規定量
ミッションオイル 90番 (GL-3級)	第1回目は50時間目。 2回目以後は、100時間ごとまたは1シーズンごと。	1.5 L

[重要]

- 給油・検油は、本機が傾斜状態であると過不足が生じますので、必ず水平状態で行ってください。
- オイルの補給や交換時は入れすぎないように注意してください。
- 補給時などこぼれたオイルはきれいにふき取ってください。
- 地面への垂れ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

油圧パッケージについて

油圧パッケージは、シリングを作動させるためのオイルです。給油時は、清浄なオイルにごみを混入させないように、給油口より規定量入れてください。



推奨オイル	規定量
スーパーハイドロオイル #56 または 耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品	0.6 L

[重要]

- 油量点検はドア「閉」状態で行ってください。
- リーフ弁調整ナットは、出荷時 80 kg/cm^2 に調整されていますので、絶対に回さないでください。リーフ弁調整ナットを回すと、ベールがなくなるなどの故障の原因となります。

4. 各部注油のしかた

⚠ 注意

回転部などへ注油をするときは、必ずエンジンを停止し、各部が完全に停止してから行ってください。けがをするおそれがあります。

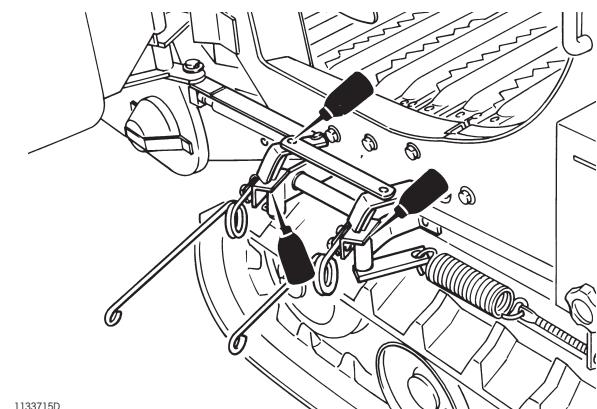
[重要]

- 牧草の場合は、食品用の潤滑油を使用してください。
ユウキオイル
(コード No.OIL-30351000)
- 燃料・オイルの補給や交換時は、入れすぎないように注意してください。

〈凡例〉

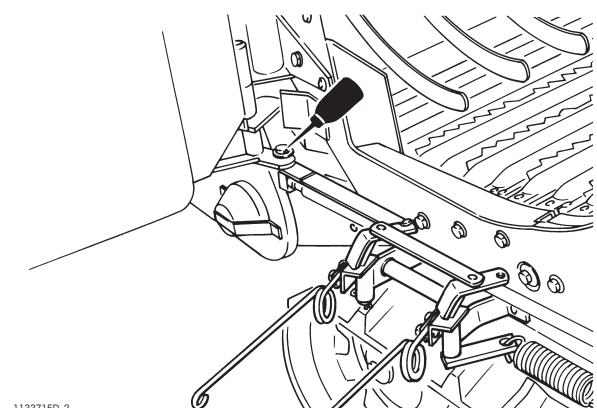


ペールキックの支点



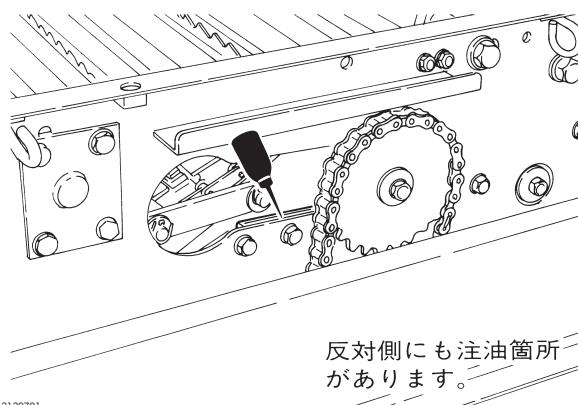
1133715D

ドア開閉リンクの支点



1133715D_2

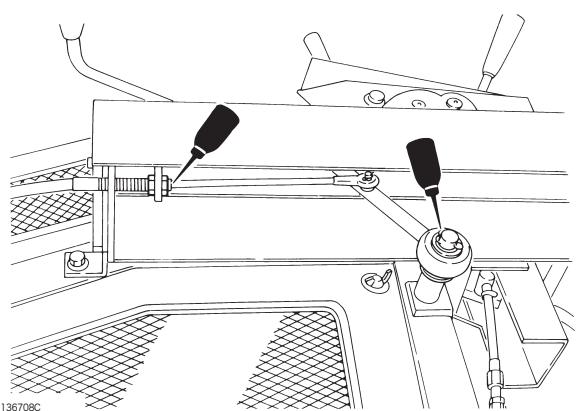
下部パイプコンベア回動部



A3130701

反対側にも注油箇所
があります。

ピックアップハンドル

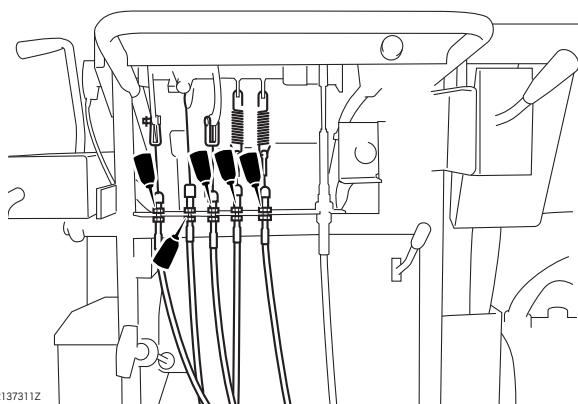


1136708C

走行クラッチレバー支点

サイドクラッチレバー支点

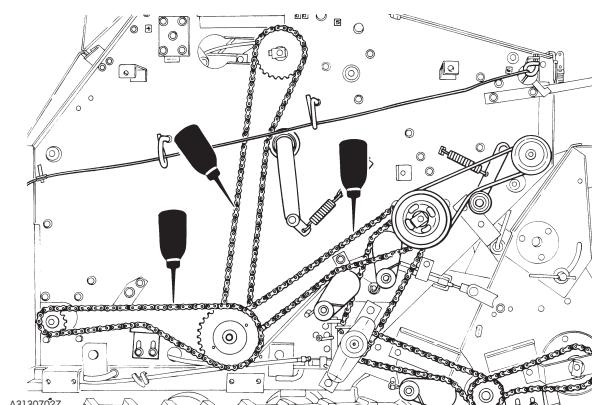
各ワイヤー摺動部



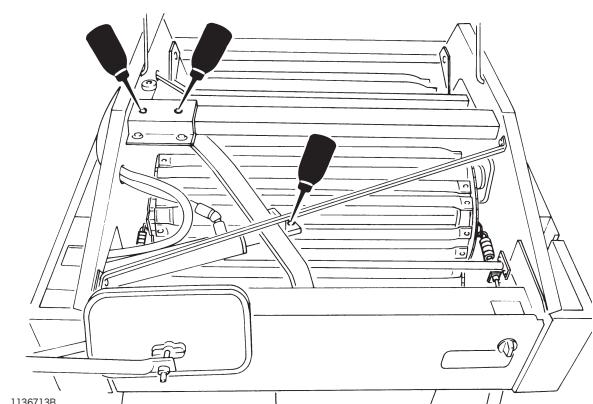
2137311Z

※ 図は、狭圧防止装置を外しています。

ベーラ駆動チェン



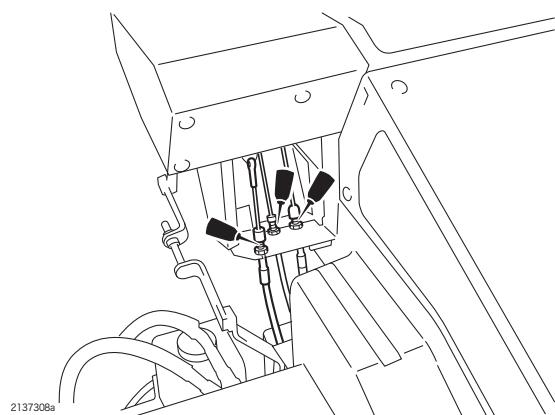
ベール取出部



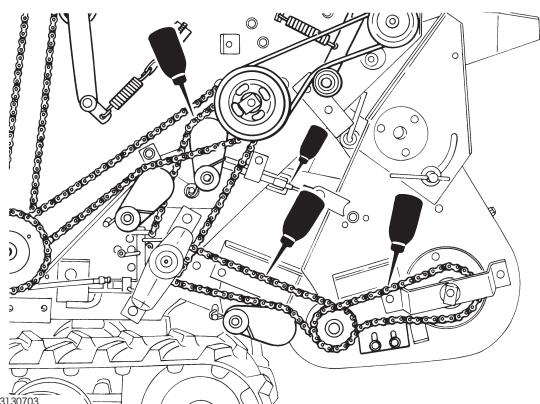
作業クラッチワイヤー

安全カバーワイヤー

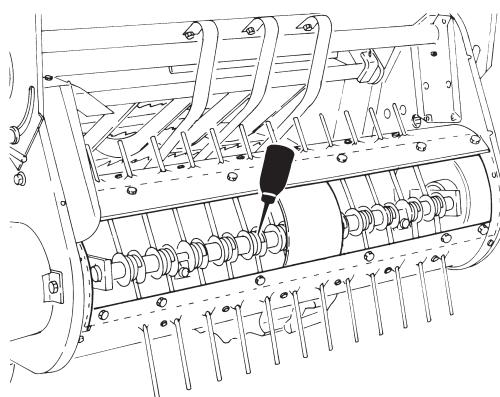
ひも送りワイヤー



ピックアップワイヤー
ピックアップチェンなど

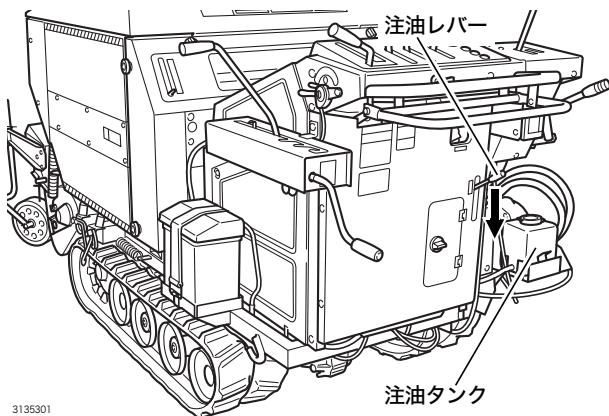


フィンガ軸部

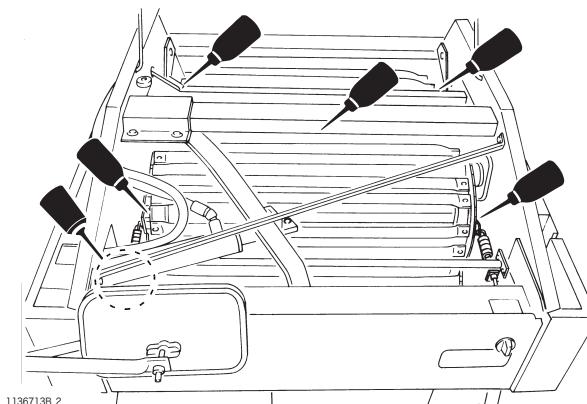


集中注油装置

注油レバーを押し下げると、上部パイプコンベアチェン・下部パイプコンベアチェン・ベルル取り出しレール・結束チェンに注油されます。レバーは、作業前に3～5回程度操作してください。また、作業中にも適宜注油してください。



上部パイプコンベアチェン
下部パイプコンベアチェン
ベルル取り出しレール



[重要]

- オイルは、新しいエンジンオイル30番、または食品用の潤滑油を使用してください。ミッションオイルや廃油などを使用しますと、確実な注油ができなかったり、注油ノズルが詰まったりすることがあります。
- 作業中にも集中注油装置で適宜注油してください。作業中に油が切れると、故障やチェンやレールの耐久性が低下し、摩耗が早くなります。

5. 燃料の点検・給油のしかた

!**危険**

- 給油口に火を近づけると火災になるおそれがあります。
- 給油中はエンジンを停止してください。
- 燃料の種類に間違いがないか給油前に今一度確認してください。間違えてガソリンを入れると引火し火災になるおそれがあります。また、運転不調となり燃料噴射系統の部品が故障します。必ず指定燃料を使用してください。

!**警告**

- 燃料補給時はくわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。

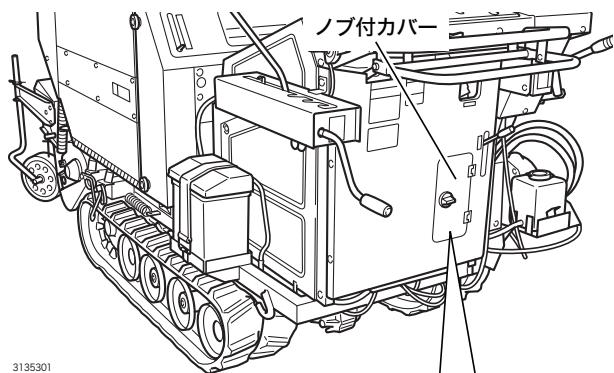
!**注意**

引火のおそれがありますので、油類その他の燃えやすいものは、エンジンの近くに置かないで、遠ざけてください。

[重要]

- ドラム缶などで長期保管した燃料を使用しないでください。
- 燃料に水やごみが混じっていると運転不良の原因になります。内部がきれいな容器を使用し、水やごみが混ざらないようにしてください。

- エンジン後カバーにある、ノブ付カバーを開いて、燃料タンクの残量を調べてください。



3135301



3135318

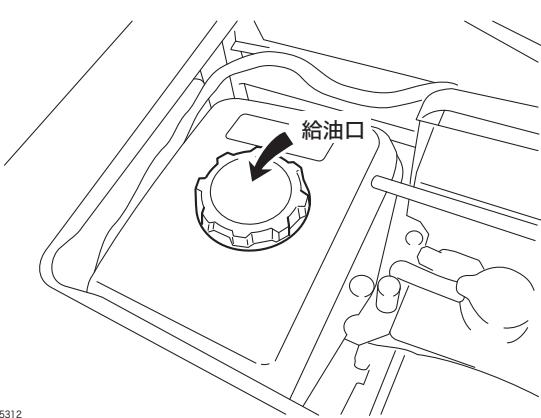
- 不足している場合は、燃料キャップを外して、補給してください。

[重要]

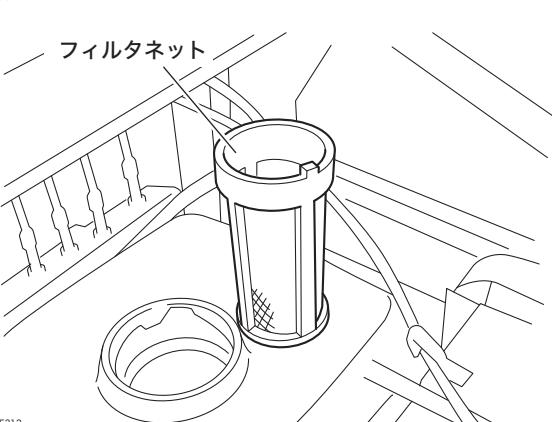
給油するときは、ごみが入らないように注意してください。また、フィルタネットを外さないでください。

- フィルタネットに、ごみが詰まっていないか点検してください。ごみがあれば取り除いてください。

- 補給後、燃料キャップを確実に締めてください。



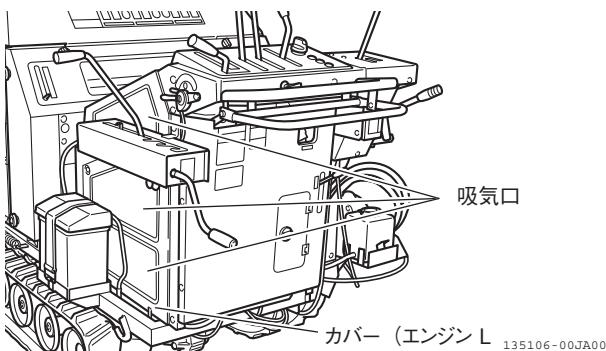
3135312



3135313

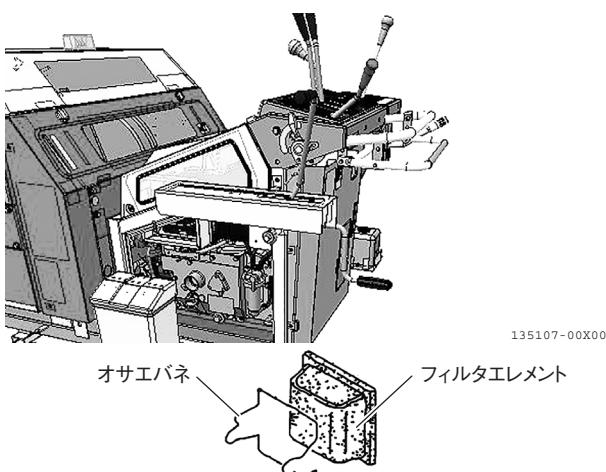
6. 吸気口の掃除のしかた

吸気口にごみやワラクズなどが堆積・付着しますと、冷却風の通りが悪くなり、エンジンの焼付を起こすことがあります。ごみ・ワラクズの堆積・付着にはいつも注意し、1日2～3回掃除してください。また、内部のフィルタエレメントもごみが付着しますので、掃除してください。



【重要】

- ハンマーモアなどの刈取後の粉じんが多い作業の場合、内部のフィルタエレメントにごみが付着します。
- 吸気口の掃除と一緒にごみの付着状態を確認し、ごみが付着している場合は、掃除してください。
- フィルタエレメントの脱着には、「カバー（エンジンL）」を外してください。



- フィルタエレメントとオサエバネは、つぶしながら外し、取り付けてください。

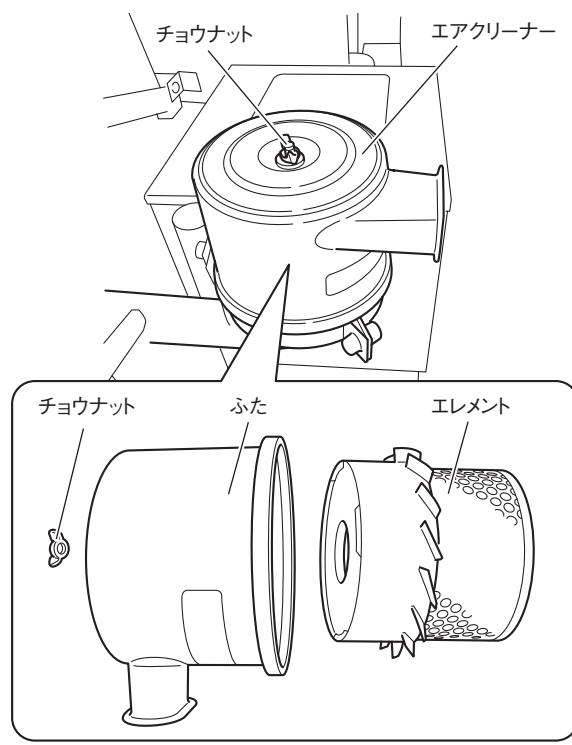
フィルタエレメントを掃除して、逆の手順で各カバーを取り付けてください。

汚れが取れない場合や破損した場合は交換してください。

7. エアクリーナーの掃除のしかた

エアクリーナーは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンドライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。

- センターボルト上部のチョウナットをゆるめて、ふたを外し、内部のエレメントを取り出してください。
- 圧縮空気(0.19 Mpa [2 kgf/cm²] 以下)をエレメントの内部から吹き付け、表面に付着したごみ・ほこりを吹き払ってください。
- エレメントの汚れが著しいときや破損があれば、新品と交換してください。
- エアクリーナー内部のごみ・ほこりを掃除したあと、エレメントを元通りに取り付けてください。



交換時期

600時間ごと

【重要】

汚れたまま使用していますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。

8. 燃料コシ器の洗浄・交換のしかた

燃料コシ器は、燃料中のごみによる目詰まりで燃料が流れなくなります。

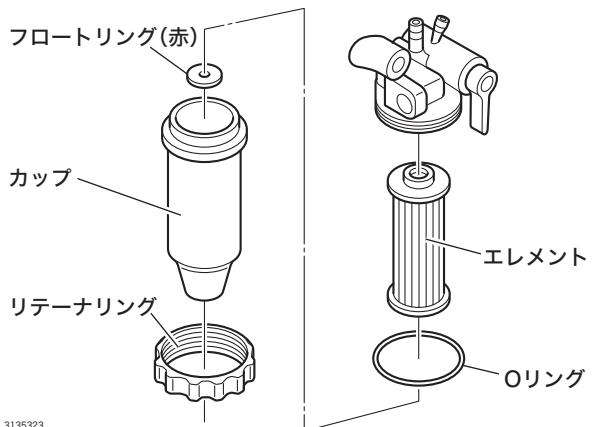
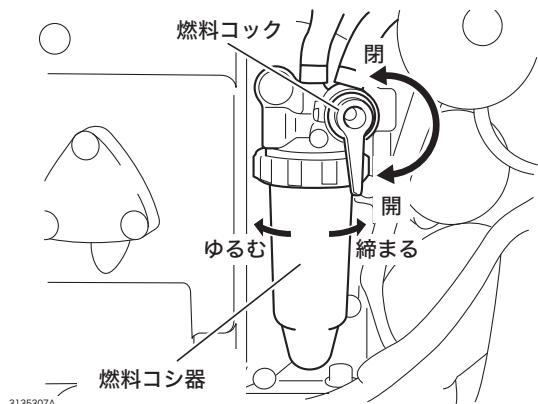
100 時間ごとにエレメント（フィルタ）の洗浄を行ってください。

透明なカップの中にあるフロートリング（赤い浮き輪）が浮き上がっていたら、その都度分解して、内部の洗浄をしてください。

エレメントはろ紙式です。目詰まりが少ない間は洗浄できますが、定期的に新品と交換してください。

〈洗浄・交換のしかた〉

1. 燃料コックを「閉」位置にしてください。
2. リテナーリングをゆるめ（左回し）、カップを外してください。
3. エレメントを下に抜き出してください。
4. 洗浄缶を準備して、エレメントの表面およびカップの内面を、きれいな燃料で洗い流してください。エレメントの汚れが著しいときや破損があれば、新品と交換してください。
5. エレメントを元通りに取り付け、カップをかぶせてリテナーリングを締めて（右回し）、元通りに組み立ててください。
6. 燃料コックを「開」位置にしてください。
7. 燃料コシ器の分解により、燃料系統に空気（エア）が入っていますので、「燃料の空気（エア）抜きのしかた」（59 ページ）を参照して、空気（エア）抜きを行ってください。

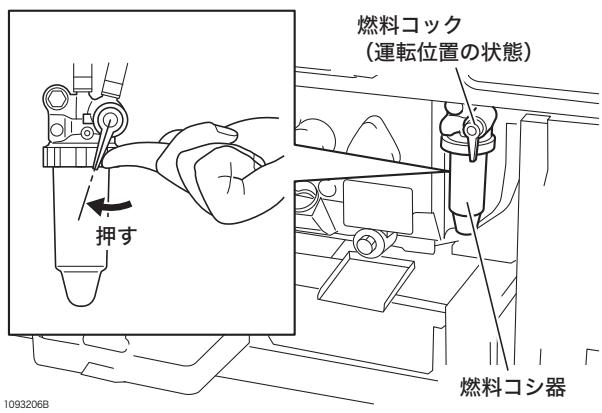


エレメントの交換時期	600 時間ごと
------------	----------

9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。以下の要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料を満タンにしてください。
2. 燃料コシ器の燃料コックを、矢印方向に約15秒間保持してください。自動的に燃料コシ器内の空気抜きが行われます。



3. 指を離すと、燃料コックは元の位置に戻ります。

10. 冷却水の点検・交換のしかた

危険

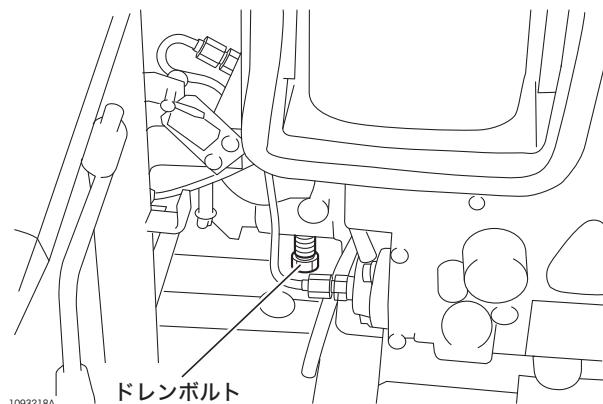
高温時にはキャップを開けないでください。熱湯が吹きだしやけどをするおそれがあります。

〈点検のしかた〉

ラジエーター内の残量を調べ、不足している場合は給水口の口元まで入れてください。

〈交換のしかた〉

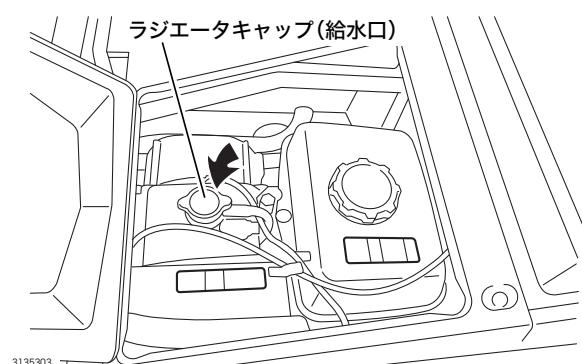
1. ドレンボルトを外し、冷却水をすべて抜きます。



2. 水道水でごみや錆が出なくなるまでラジエーター内部を洗います。

※ ラジエーター洗浄剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエーター内はいっそうきれいになります。

3. ドレンボルトを取り付け、給水口から水道水をあふれるまで入れます。
4. 不凍液を別の容器に必要量を入れて、水道水とよく混合させて給水してください。



推奨不凍液	交換時間	規定量
スーパーフリーズ	1年ごと	1.25 L

〈不凍液〉

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果をもっています。出荷時には、不凍液が入っておりますが、冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。不凍液の混合比は、外気温や不凍液のメーカーによって多少異なりますのでメーカーの取扱書などの指示に従ってください。

内容	凍結温度							
	-5	-10	-15	-20	-25	-30	-35	-40
スーパー フリーズ (%)	15	25	30	35	40	45	50	55
水道水 (%)	85	75	70	65	60	55	50	45

[重要]

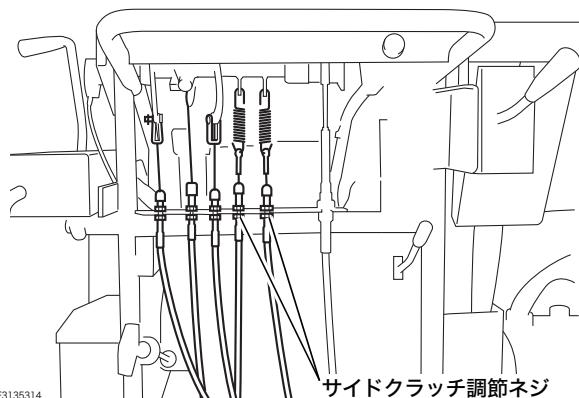
- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、水道水だけを入れてください。
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。

11. サイドクラッチレバーの調節のしかた

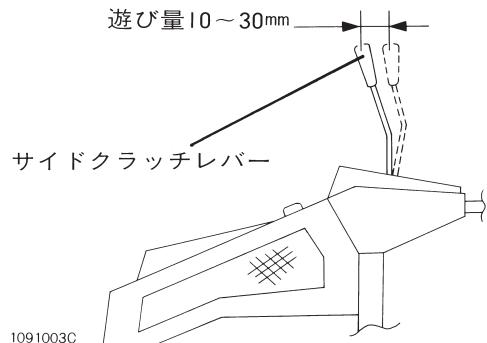
サイドクラッチレバーを操作したとき、左右とも確実に切れるように調節します。

〈調節のしかた〉

サイドクラッチ調節ネジで遊び量を10~30mmに調節してください。



※ 図は、狭圧防止装置を外しています。

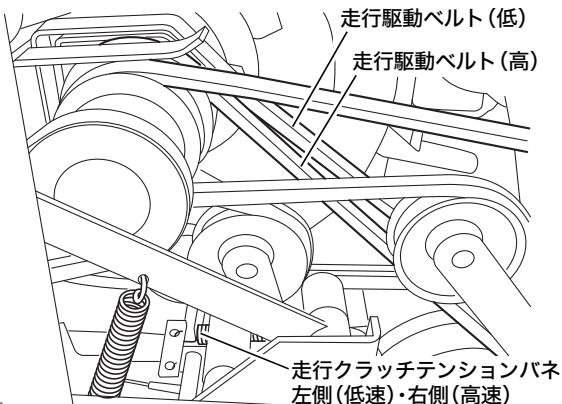


12.各部ベルトの点検・調節・交換のしかた

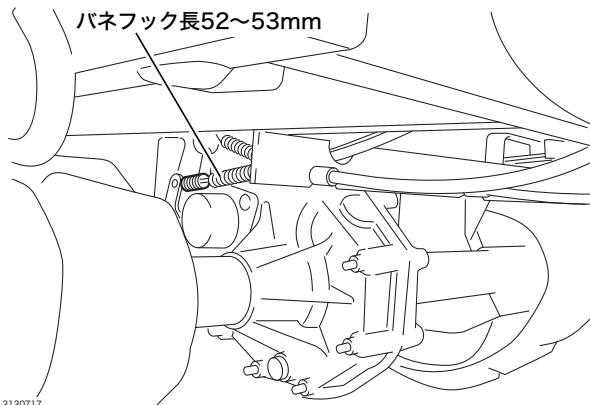
走行クラッチレバー (走行駆動ベルト・駐車ブレーキ)

〈点検のしかた〉

走行クラッチレバーが「入」(低速走行)、および「入」(高速走行)位置のとき、テンションバネのバネフック長を測り、84 ~ 86 mm になっているか確認してください。

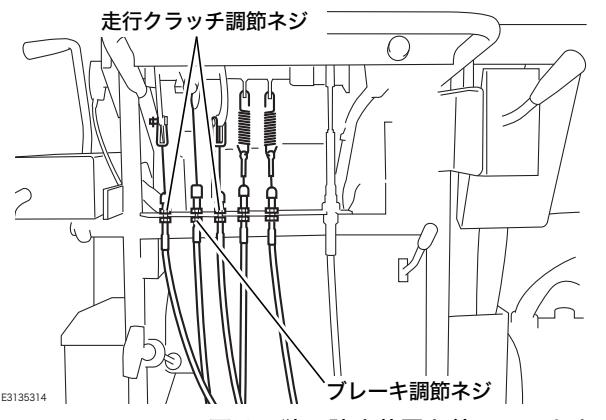


また、「駐車ブレーキ」位置で、テンションバネのバネフック長を測り、52 ~ 53 mm になっているか確認してください。



〈調節のしかた〉

各々のワイヤー調節ねじで調節します。



ミッション駆動ベルト

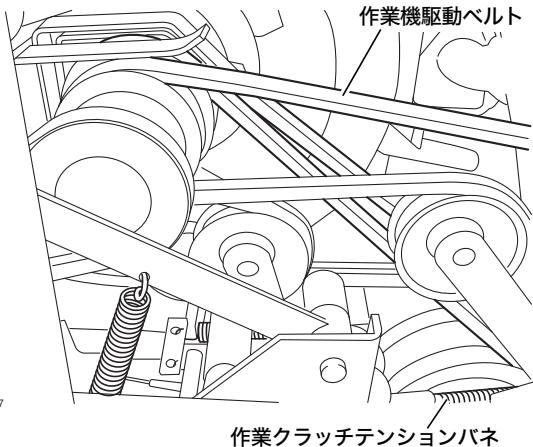
使用ベルト

特 B45H (25123-004501)

作業クラッチレバー（作業機駆動ベルト）

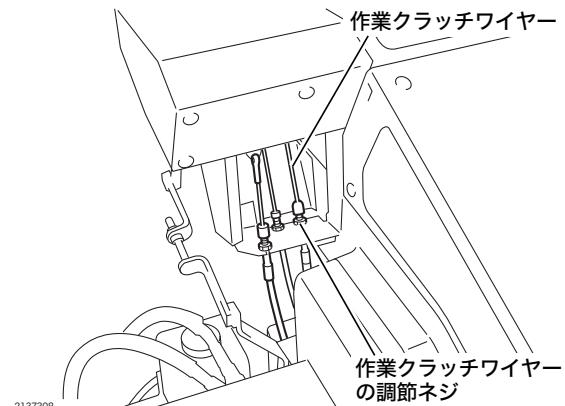
〈点検のしかた〉

作業クラッチレバーが「入」位置のとき、テンションバネのバネフック長を測り、87.2～89.2 mm になっているか確認してください。



〈調節のしかた〉

作業クラッチワイヤーの調節ねじで調節します。



使用ベルト	特 B47H (25123-004701)
-------	-----------------------

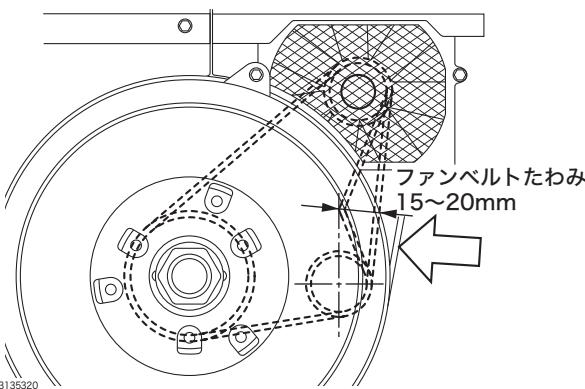
[重要]

作業機駆動ベルトの調節は、作業機駆動ベルトけん制ワイヤーの調節（67 ページ参照）を行ったあとに行ってください。

ファンベルト

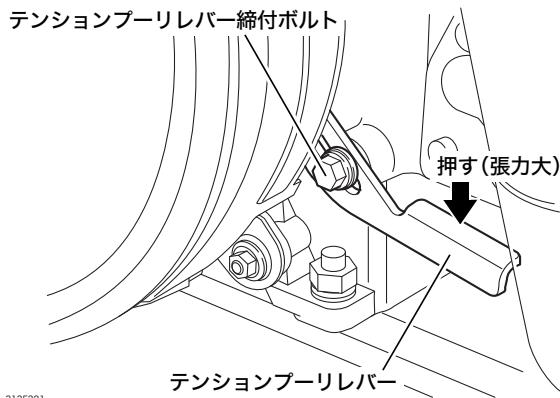
〈点検のしかた〉

ベルトの中央を指で押した (49 N (約 5kgf)) とき、たわみ量が 15～20 mm であるか確認してください。



〈調節のしかた〉

- テンションブーリレバーの締付ボルトをゆるめてください。
- テンションブーリレバーを上下に移動して、ベルトの張りを調節してください。
- 締付ボルトを締め付けて、テンションブーリレバーを固定してください。



[重要]

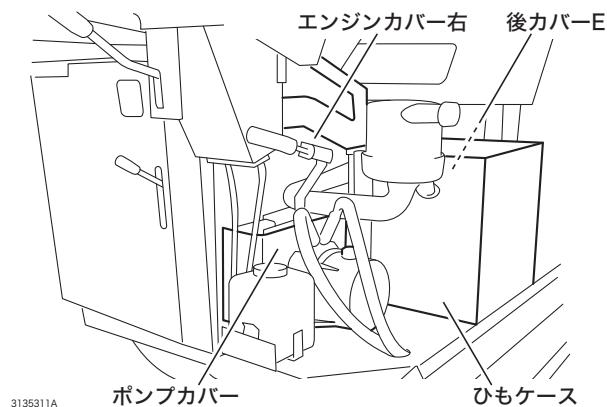
- ベルトには、油類が付かないようにしてください。ベルトがすべったり、伸びやすくなります。
- ベルトの張りが弱くなると、ベルトがすべてラジエーターファンが回らなくなり、エンジンが過熱します。また電気始動では、ファン内部に組み込まれたダイナモが発電できなくなります。反対に強すぎるとベルトの傷みを早めたり、軸受けを破損したりします。

各ベルトの交換

油圧シリンダベルト、ミッション駆動ベルト、カウンタベルト、作業機駆動ベルトが損傷した場合は、つぎの手順で交換してください。

〈交換のしかた〉

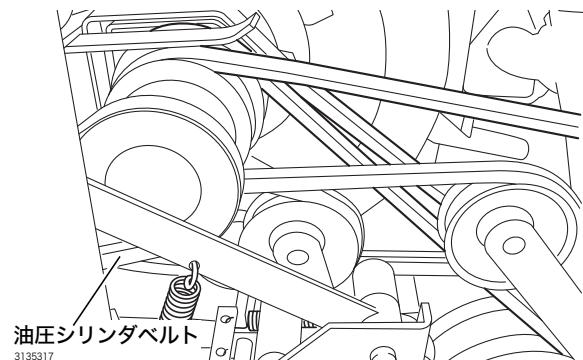
1. ひもケース・エンジンカバー右・ポンプカバー・後カバーEを外します。



2. 各ベルトを以下の要領で外し、交換してください。

● 油圧シリンダベルトの場合

- 1) そのまま外してください。



● 作業機駆動ベルトの場合

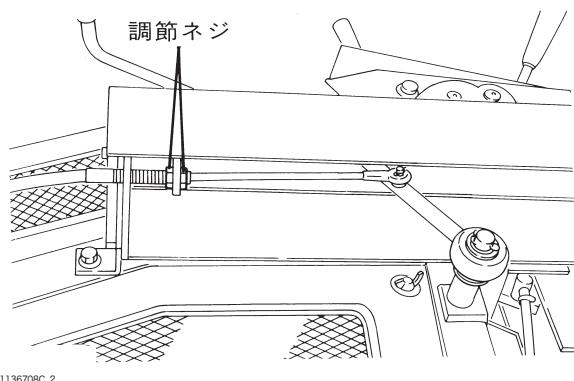
- 1) 油圧シリンダベルトを外してください。
- 2) 作業機駆動ベルト押えとエンジンベルト押えを外して、作業機駆動ベルトを外してください。

● 走行駆動ベルトの場合

- 1) 油圧シリンダベルトとカウンタベルト、および作業機駆動ベルトを外してください。
- 2) ボルト M8×25 (4本) を外して、カウンターピーリを外してください。
- 3) ミッションベルト押えを外して、ミッション駆動ベルトを外してください。

13.ピックアップ高さの調節のしかた

ワイヤーの伸びなどによって、上下目盛りと指針にズレが生じたときに調節ねじで調節します。



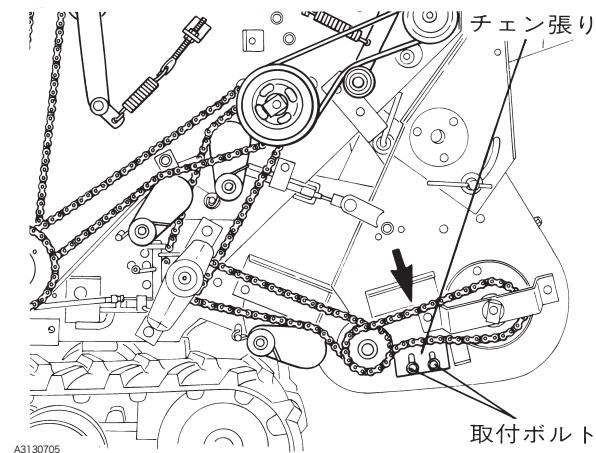
14.各部チェンの調節のしかた

ピックアップドラム駆動チェン

ピックアップカバーを外し、チェン中央部を指で軽く押えたときのたわみ量を4~8 mmにします。

〈調節のしかた〉

チェン張りの取付ボルトをゆるめて、チェンを押す方向に上げて締めます。

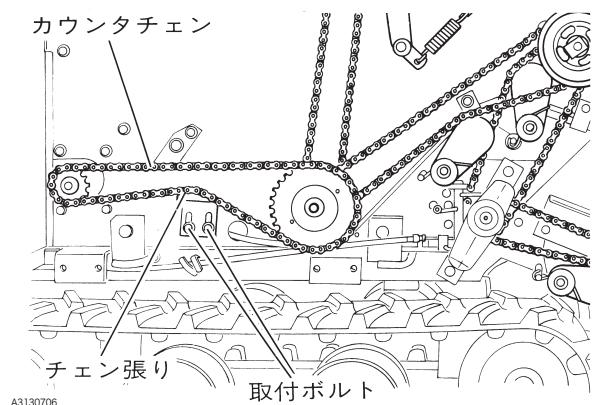


カウンターチェン

右カバーを外し、チェン中央部を指で軽く押えたときのたわみ量を4~8 mmにします。

〈調節のしかた〉

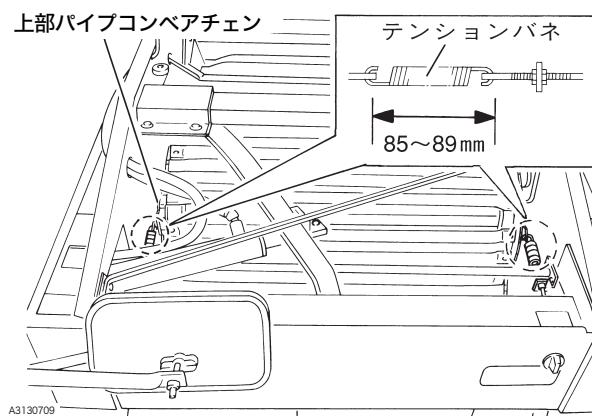
チェン張りの取付ボルトをゆるめて、チェンを押す方向に上げて締めます。



上部パイプコンベアチェン

上カバーを開き、左右のテンションバネのバネフル長が85~89 mmになるように調節します。

上部パイプコンベアチェン



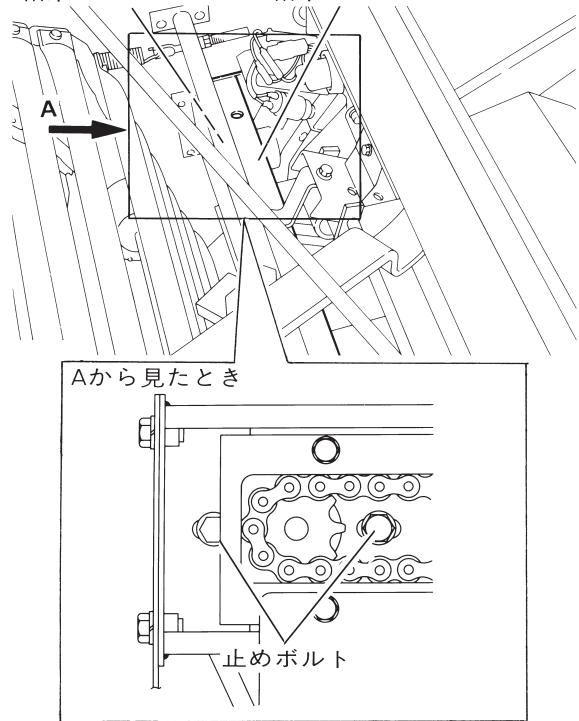
結束ランナーチェン

結束チェンカバーを外し、チェン中央部を指で押ししたときのたわみ量を4~8 mmにします。

〈調節のしかた〉

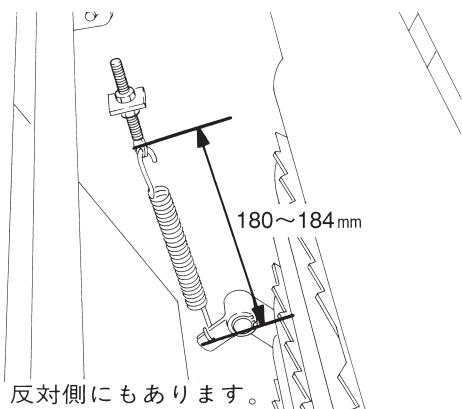
従動側スプロケットの止めボルトを少しづるめて、外側へチェンを張って締め込みます。

結束チェンカバー 結束ランナーチェン



下部パイプコンベアチェン

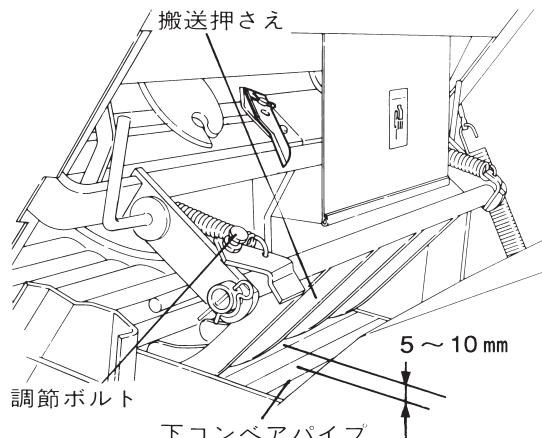
後カバーを開き、ドアを締めた状態でベーラフレームの左右内側にある調節ナットで、テンションバネのバネフック長を 180～184 mm になるように調節してください。



A3130710

15.搬送押さえの調節のしかた

下コンベアパイプと搬送押さえのすき間が、5～10 mm になるように、調節ボルトで調節します。



16.ひもカッターの研磨のしかた

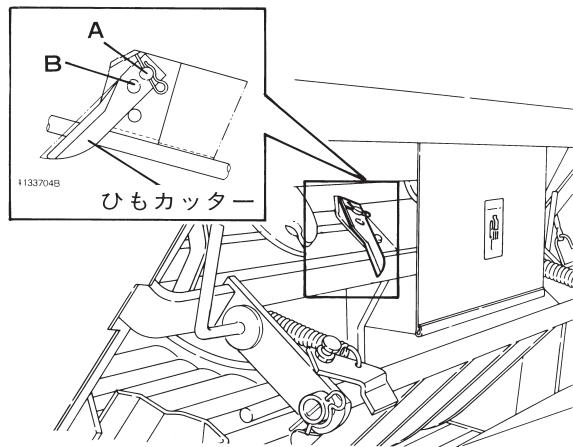
⚠ 注意

カッターの点検・研磨をするときは、厚手の手袋を着用し、絶対に刃先にさわらないでください。けがをするおそれがあります。

カッターが磨耗しますと、ひもが切れにくくなります。

カッターは出荷時には、A 位置に取り付けられていますので、ひもが切れにくくなったら B 位置に変更してください。

また B 位置においてもひもが切れにくくなった場合は、外して研磨してください。



1136208B

〈カッターの外しかた〉

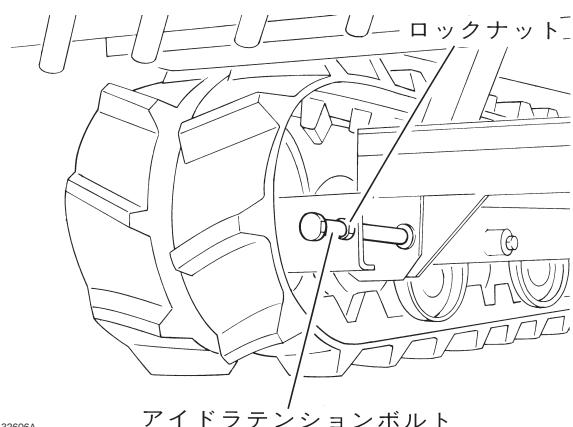
スナップピンを抜き取りカッターを外してください。

17.クローラの張り調節のしかた

クローラの中央部を両手で引っ張り上げて（20～30 kg）、7～10 mm程度上がるよう調節します。

〈調節のしかた〉

アイドラテンションボルトのロックナットをゆるめ、内側のボルトを回してクローラの張り調節します。



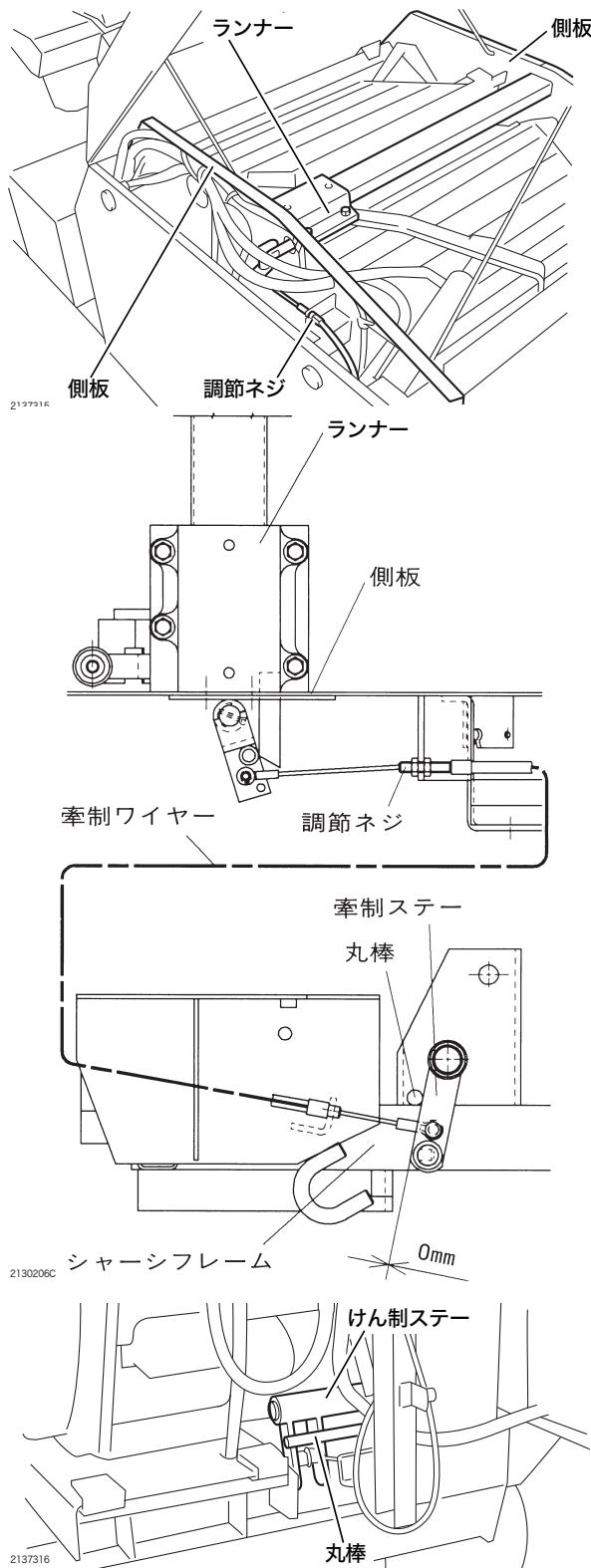
1132606A

【重要】

調節は平たんな場所で行ってください。張りすぎ、ゆるめすぎはクローラの耐久力を損ないますので注意してください。

18.作業機駆動ベルトけん制 ワイヤーの調節のしかた

上カバーを開き、ランナーが側板に接した状態でけん制ステーと丸棒が接する（すき間が0）ように調節します。

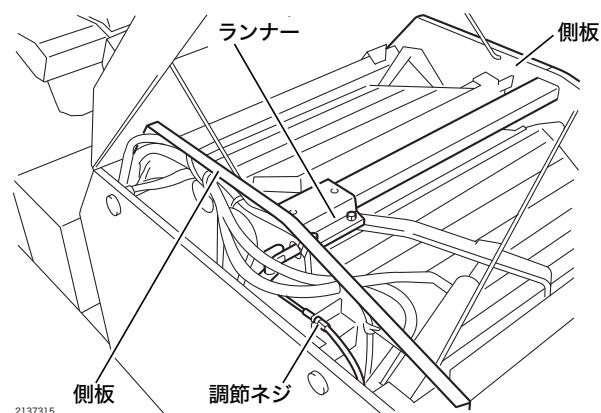
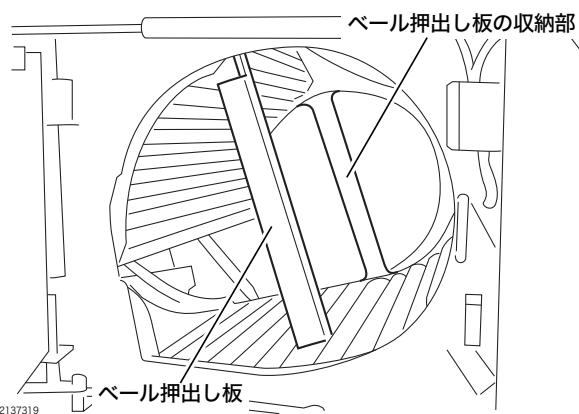


〈調節のしかた〉

けん制ワイヤーの調節ネジで調節します。

【重要】

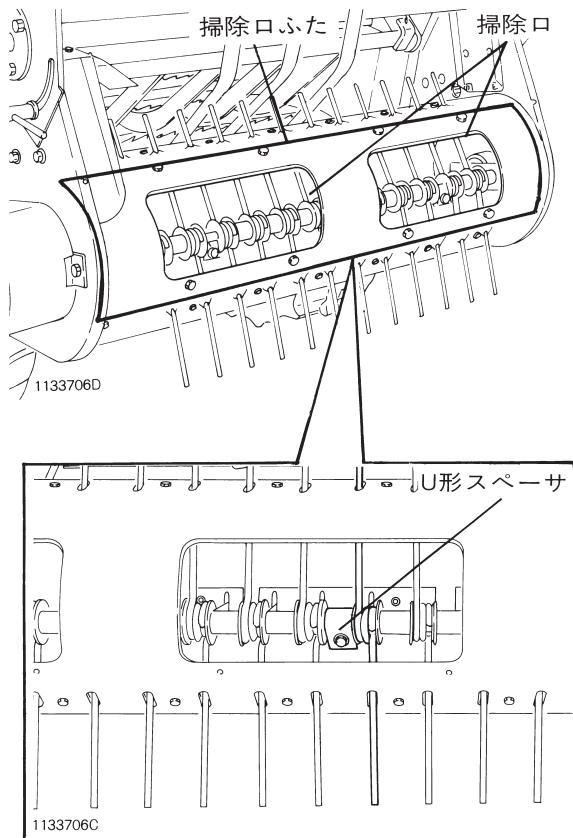
- けん制ワイヤーの張りすぎは、ワイヤーの耐久性低下、ゆるめすぎは作業時のベルトスリップになりますので注意してください。
- ベール押出し板の収納部や、ランナーと側板の間に作物や土砂などがかみ込むと、ランナーが所定の位置まで戻らなくなり、ベルトのスリップでパイプコンベア・ピックアップ部が回転しなくなりますので注意してください。



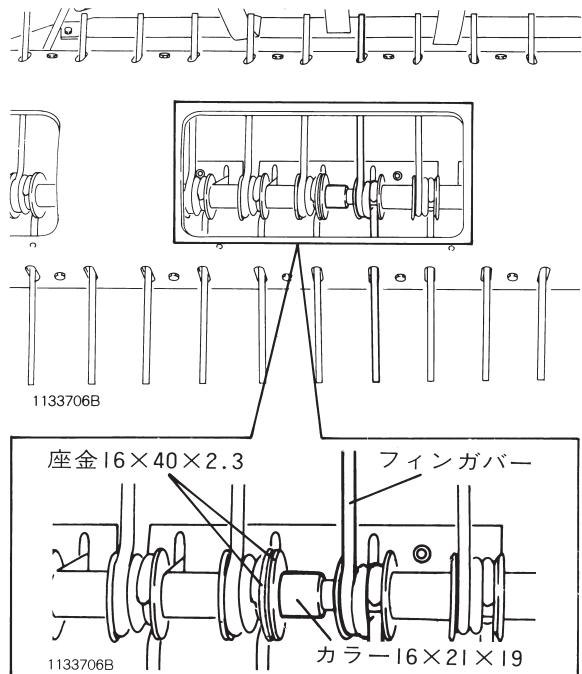
19.ピックアップフィンガの交換のしかた

フィンガが磨耗したり曲がった場合は、交換してください。

1. ドラムの掃除口ふたを外します。
2. U形スペーサを外します。

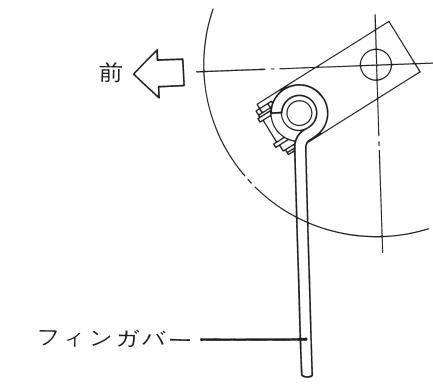


3. 座金 $16 \times 40 \times 2.3$ およびカラーリング $16 \times 21 \times 19$ を横にずらします。
4. フィンガカバーを外します。



【重要】

- フィンガ組付時は、切欠部が前方になるように取り付けてください。



- 掃除口のボルトは、確実に締め付けてください。

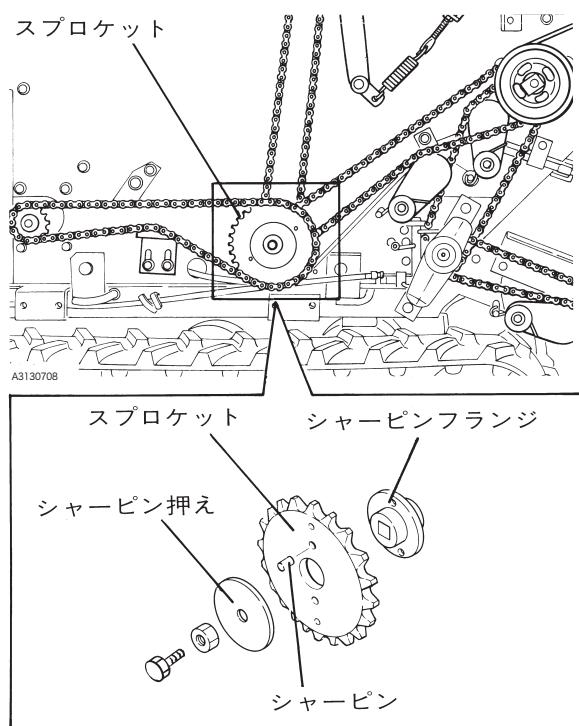
20.シャーピンの交換のしかた

ペールに異物がかみ込んだり、ピックアップに急な負荷がかかったとき、各部の保護・安全のためにシャーピンが切れ、作業機部が回らなくなります。シャーピンが切れたときには、以下の要領で交換してください。

※ シャーピンは、工具袋の中に予備品が 5 個入っています。

〈交換のしかた〉

1. シャーピン押さえを外し、スプロケットおよびシャーピンフランジを軸から取り出します。
2. 切れたシャーピンを抜き出します。
3. シャーピンフランジとスプロケットの穴位置を合わせ、1 個だけシャーピンを入れます。
4. 軸に、再びシャーピンフランジとスプロケットを取り付け、ボルトで締めます。

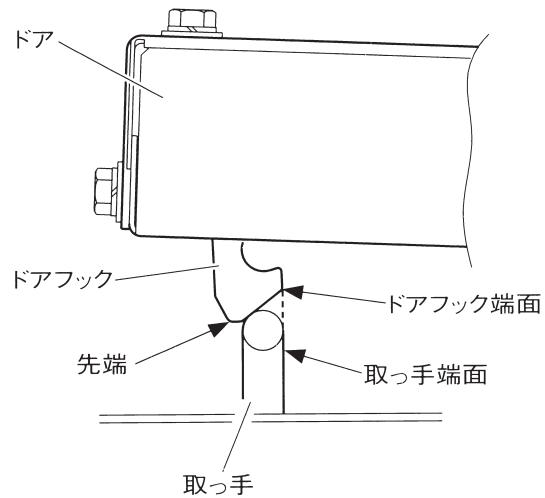


[重要]

穴は 2 つありますが、シャーピンは 1 個だけ使用してください。

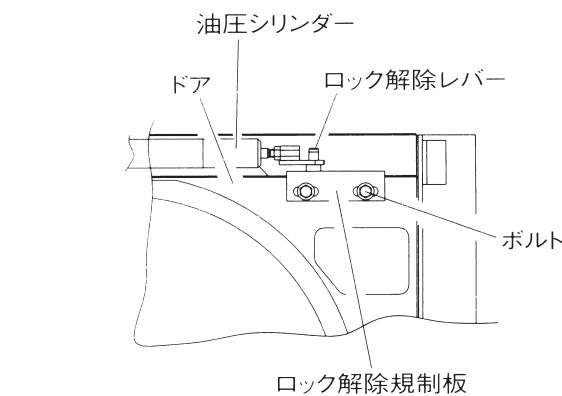
21.ドアフックの調節のしかた

ドアの閉まりが悪いときは、ドアフック先端が取っ手に当たらないように調節します。



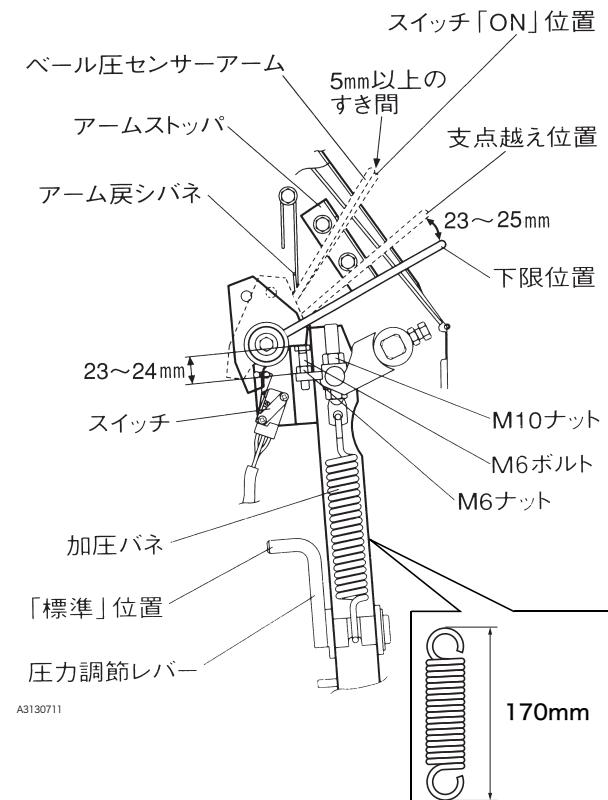
〈調節のしかた〉

1. 油圧シリンダを、ロック解除レバーから外し、ロック解除規制板の固定用ボルト（2 個）をゆるめます。
2. ロック解除規制板を左右方向に動かして、ドアフック端面と取っ手端面が同一面になるよう調節して、ボルトで固定します。
3. 油圧シリンダを元通りに取り付けてください。



22. ベール圧センサの調節のしかた

作物が満杯になっても、ベール圧センサアームが上にあがらないときや、ブザーが鳴らない、およびお知らせランプが点滅しないときは、以下の要領で調節してください。



〈調節のしかた〉

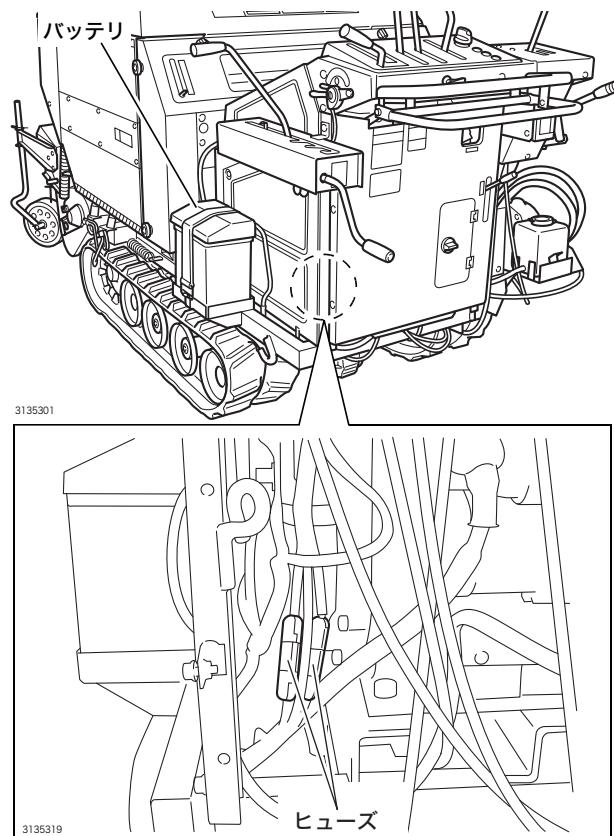
1. 圧力調節レバーが標準位置で、加圧バネの寸法（フックの外寸法）が 176 mm になるように M10 ナットで調節します。
2. M6 ボルトの出代を 23 ~ 24 mm にして、M6 ナットで固定します。
3. ベール圧センサアームを矢印方向に動かして、下限位置から支点越え位置が 23 ~ 25 mm の範囲内であれば正常です。範囲外のときは、M6 ボルトの出代で調節してください。
4. ベール圧センサアームを矢印方向に動かして、スイッチが「ON」した位置より 5 mm 以上のすき間を持たしてアームストッパーを固定します。
5. アーム戻しバネは、スイッチが「ON」した位置で、ベール圧センサアームに接触するように固定します。

23. ヒューズの点検・交換のしかた

ヒューズは、配線回路（常時通電している回路）へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。

ヒューズが切れたときは、エンジンルーム内部のヒューズホルダーを外し、ヒューズ（10・20A）を交換します。

（警告 …10A、バッテリ …20A）



24.バッテリについて

▲ 危険

バッテリの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してやけどや火災を引き起こすおそれがあります。

▲ 警告

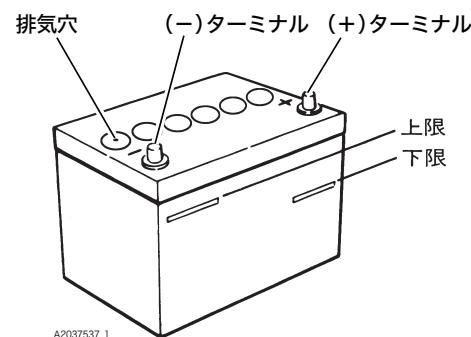
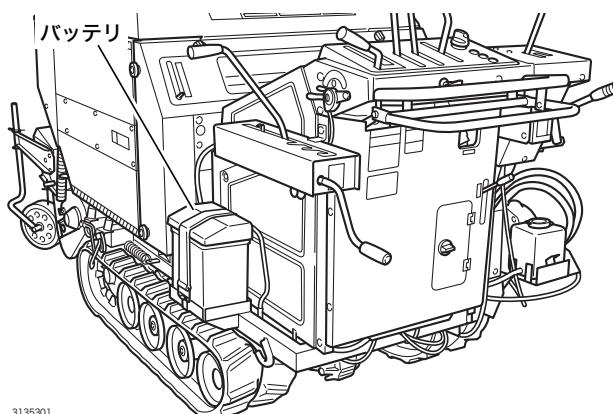
- バッテリ液は、「下限 (LOWER)」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服に付いたときは、ただちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- バッテリを、外すときは(−)側のケーブルから外し、取り付けるときは、先に(+)側のケーブルを(+)側の端子に取り付けてください。
- バッテリや配線に付着しているワラクズやごみは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。取り除かないと火災の原因になります。
- バッテリの寿命がなくなり、新品のバッテリと交換する場合には、必ず取扱説明書の指定した容量のバッテリを使用してください。配線やヒューズを損傷するだけでなく、火災の原因にもなります。
- バッテリの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴が小ぼこりなどでふさがれると、破損や火災の原因になります。
- バッテリの周辺は換気をよくして火気を近づけないようにしてください。バッテリからは爆発のおそれがある水素ガスが発生しています。

【重要】

- エンジン運転中にバッテリーケーブルを外さないでください。レギュレータなどの電子機器が破損する場合があります。
- 長期保管などでバッテリが過放電の場合は、補充電を行ってください。過放電の状態で運転を行うと電子機器が破損する場合があります。

バッテリ液の点検・補給のしかた

各槽のバッテリ液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



指定バッテリ

40B19L

【重要】

- バッテリ液は、常に規定量を保ってください。
- バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。
- バッテリを交換するときは、必ず指定のバッテリを使用してください。

補充電について

寒冷地などの気温の低い地域、またエンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなつてきましたら、補充電を行います。

また、エンジンを2週間以上運転しないと、バッテリが放電してセル始動ができない場合があります。このときにも、補充電をしてください。

〈補充電のしかた〉

充電は、バッテリの(+)を充電器の(+)に、バッテリの(-)を充電器の(-)に接続して行いますが、充電器の取扱説明書を十分お読みになってから行ってください。

なお、急速充電はできるだけ避けて、普通充電を行ってください。



2137331

【重要】

- バッテリのターミナル部にはグリスを塗布してください。
- バッテリのターミナルのゴムブーツは、必ず取り付けておいてください。
- 取り付けのとき、ターミナル接触部は布などで油などをふき取ってください。
- バッテリの充電は、本機に装着したままで行うと、電装品の損傷のほかに、配線などをいためることがあります。充電時は必ず本機から外して行ってください。また、急速充電もできるだけ避けてください。(バッテリの寿命を短くします。)
- バッテリ液をバッテリケース液面レベルの上限を超えるほど入れると、使用中に液もれし、本機を腐蝕させることができますので、補給するときは液面レベルの上限を超えないよう注意してください。
- 地面への垂れ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

10章 不調診断のしかた

⚠️ 警告

機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。処置を行っても不調の場合は、最寄りの特販店・JAへ連絡してください。

1. エンジンがかからないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
燃料が切れていませんか。	燃料の補給をしてください。	55
エンジンの始動手順が間違っていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	26・27
燃料に水が入っていませんか。	燃料コシ器に水が溜まっているれば、燃料コシ器を外して水抜きをしてください。	58
燃料に空気が入っていませんか。	燃料の空気(エア)抜きをしてください。	59
キースイッチを「入」位置にして、チャージランプ・エンジン油圧ランプが点灯しますか。	点灯しない場合は、バッテリ部のヒューズホルダーを外し、ヒューズが切れていないか確認してください。	70
バッテリがあがっていませんか。	バッテリを点検し、補充電してください。	71・72
バッテリターミナル部の締め付けがゆるんでいませんか。	増締めしてください。	71・72
セルモータは回転していますか。	走行クラッチレバーが「駐車ブレーキ」位置、作業クラッチレバーが「切」位置になっているか確認してください。	26

2. エンジンの馬力が出ないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
エアクリーナーにごみが詰まっていますか。	エレメントの掃除をしてください。	57
エンジン防塵フィルタにごみが溜まっていますか。	きれいに掃除してください。	57
吸気ダクトの網目にごみが詰まっていますか。	きれいに掃除してください。	57
エンジンオイルが少なくありませんか。	エンジンオイルを補給してください。また、オイルが古くなっている場合は、新しいオイルと交換してください。	51
エンジンの圧縮がないではありませんか。	シリンダヘッドボルトを締め付けてください。 ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、購入先に相談してください。	—

3. 作業中にコンベアチェンが回らなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ペール押出し板の収納部やランナーと側板の間に作物や土砂などが溜まっていますか。	ペール押出し板の収納部や、ランナーと側板の間の作物や土砂を取り除いてください。 また、つぎの順序で、ワイヤーの調節を行ってください。 ①作業機駆動ベルトけん制ワイヤー ②作業クラッチワイヤー	47 67 62

4. 搬送部で異音がしたり、よく詰まるときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ドアが完全に閉まっていますか。	完全に閉めて作業をしてください。	42
エンジン回転数が低くありませんか。	アクセルレバーでエンジン回転を上げてください。	42
搬送押さえが下部コンベアパイプに接触していませんか。	正しく調節してください。	65
上部・下部パイプコンベアチェンの張りは適正ですか。また、油切れしていませんか。	張り調節および注油をしてください。	55・65
コンベアパイプのナットがゆるんでいませんか。	確実に締め付けてください。	—
ピックアップフィンガが曲がっていませんか。	修正または交換してください。	68・68
走行速度が速すぎませんか。	適正速度で作業してください。	42
作業方向は正しいですか。	正しい方法で行ってください。	35
バネ圧切換レバー・ピックアップ前カバーは正しい位置ですか。	正しく調節してください。	40

5. ブザーが鳴らなくなったとき(お知らせランプが点滅しなくなったとき)には

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ペール圧センサのスイッチが「ON」になっていますか。	ペール圧センサの調節のしかたに従って調節してください。	70
ワイヤーハーネスが外れていませんか。	確実につないでください。	—
ブザー、またはお知らせランプのアースが外れていませんか。また、アースのボルトがゆるんでいませんか。	確実にアースできるように締め付けてください。	—
キースイッチは「入」位置ですか。	キースイッチを「入」位置にしてください。	19

6. 終了ができなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
作物の供給量は適正ですか。	ブザーの音を聞く、またはお知らせランプの点滅を見て作業してください。	41～43
ひもブレーキ圧は適正ですか。	調節してください。	38
ひもの通しかたが間違っていませんか。	正しくひもを通してください。	37
ひもカッターが磨耗していませんか。	カッターの取付位置を変えるか研磨してください。	66

7. 適正なベールができなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ベールの加圧バネの調節レバー位置は適正ですか。	調節してください。	39
作物の供給量は適正ですか。	適正な作業速度にしてください。	42
作物が十分入っていないのにブザーが鳴り、お知らせランプが点滅しましたか。	上カバーを開いて、詰まりを取り除いてください。	47
ベール圧センサのアームは作動していますか。	作動しないときは、購入店に相談してください。	42

8. 放出できなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ひも巻きピッチは、適正ですか。	ブーリーの外側にベルトを掛けてください。	38
ベール圧は標準位置になっていますか。	必ず、「標準」位置で作業してください。	39
油圧パッケージのブーリーは、回転していますか。	Vベルトを確認し、切れていれば交換してください。	62・63
ランナーが油切れしていませんか。	ベール取り出しレール、ランナーに注油してください。	55
油圧パッケージの油量が少なくなっていますか。	油量が 500 cc より少なくなっていますか。油量は500~600 ccです。	52
ブザーが鳴って、お知らせランプが点滅しても作業を続けていませんでしたか。	ひも巻きを 3 回以上して、ベールを締め付けたあと、放出してください。	—

9. ドアが閉まらなくなったときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ランナーは動いていますか。	ベール取り出しレール、ランナーに注油してください。	55
ドアフック先端が取っ手に当たっていませんか。	ロック解除規制板で調整してください。	69

10. ひも送り操作をしても、結束ができないときには

この確認をしてください	処 置	参照ページ
ひもがなくなっていますか。	ひもを供給してください。	37
ひもブレーキが弱く、1 力所をグルグル巻いていませんか。	ひもブレーキが強くなるようにセットしてください。	38
ひもがトグロを巻いたり、ピックアップドラムに巻き付いていませんか。	トグロ巻き、ピックアップドラムへの巻き付けを取り除き、作業してください。	—
切ワラの梱包作業中に、ひもがトグロを巻いていませんか。	搬送案内板を外してください。	45

11 章 その他

1. 主要諸元

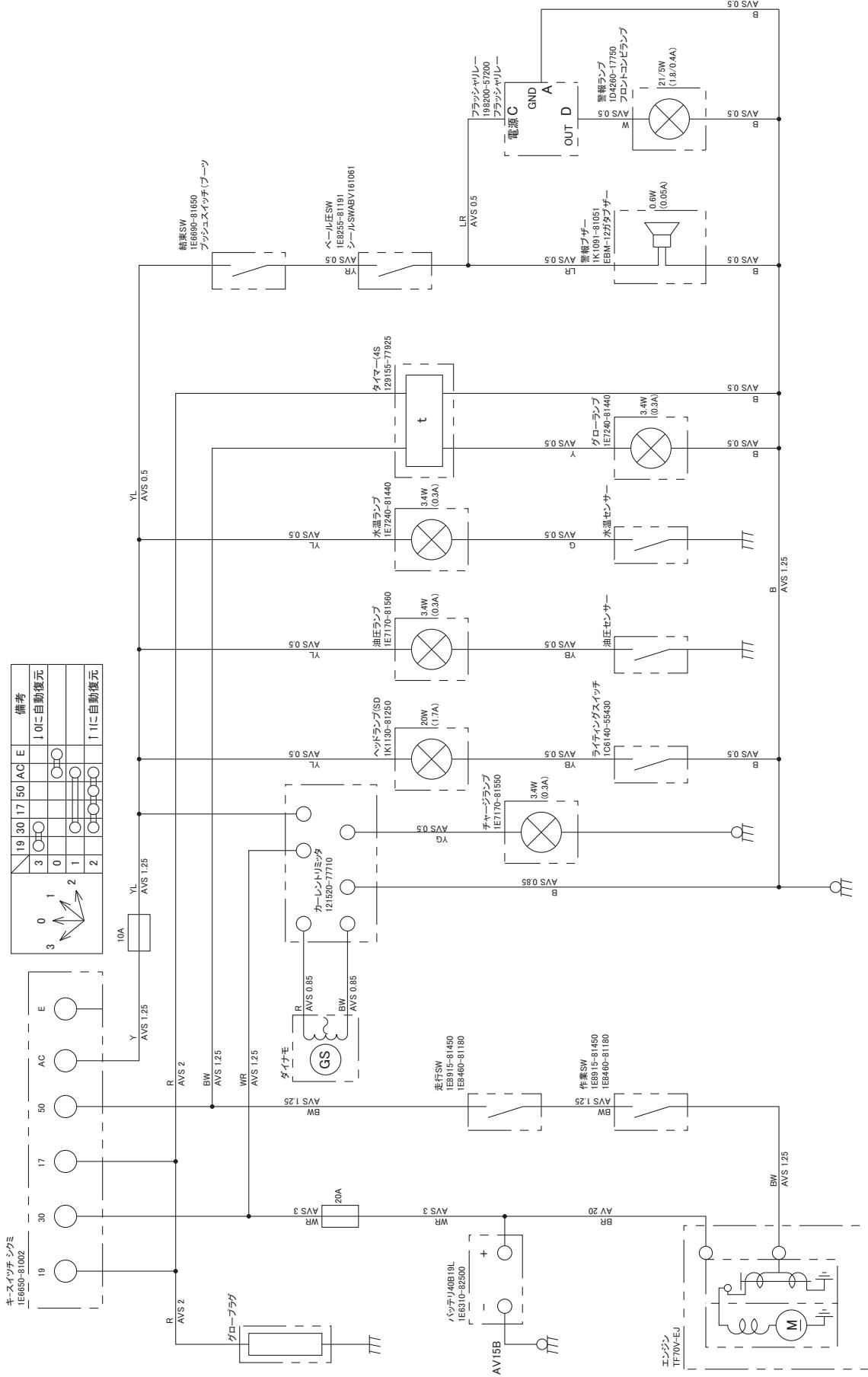
型式名		JRB0750D
機 体 寸 法	全長 (mm)	2275 (作業時 : 2395) : ゲージホイル含まず 2555 (作業時 : 2550) : ゲージホイル含む
	全幅 (mm)	1060
	全高 (mm)	1215
機体質量 (重量) (kg)		575
工 ン ジ ン	型式名	TF70V-EJ
	種類	横型水冷ディーゼルエンジン
	総排気量 (L {cc})	0.382 {382}
	出力 / 回転速度 (kW {PS} /rpm)	5.1 {6.9} /2400
	燃料タンク容量 (L)	6.5
始動方式		セルスター (スタートハンドル・始動軸なし)
走 行 部	走行方式	エンドレスゴムクローラ
	クローラ	幅 × 接地長 (mm)
		670
		平均接地圧 (kPa {kgf/cm ² })
	走行速度	前進 (m/s)
		R1 : 0.24、R2 : 0.41、F3 : 0.71、F4 : 1.19
作 業 部	後進 (m/s)	R1 : 0.28、R2 : 0.47
	ピックアップ方式	クランクフィンガ
	梱包方式	パイプコンベア
	結束方式	手動レバー操作ひも巻き付け式
	ペール取出方式	油圧側方放出
ひもの種類		PP・サイザル・ジュート (できるだけジュートひもを使用)
処理能力 (a/ 時間)		8 ~ 12
作業速度 (m/s)		0.24 ~ 0.71
ペール寸法 (mm)		径 460 × 幅 600
ペール質量 (kg)		8.5 ~ 13.5
適応ウインドロー (mm)		幅 700 × 高 400
適応作物		稻ワラ・麦ワラ・イタリアンなど

※ この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 主要消耗部品

No.	品名	コード	備考
1	エレメント (エアクリーナー)	104300 - 12960	
2	エレメント (燃料コシ器)	105370 - 55711	
3	フィンガーバー	1K1090 - 13053	
4	Vベルト M31H	1K1091 - 41250	結束駆動ベルト
5	Vベルト特 A22H	25122 - 002201	油圧シリンダベルト
6	Vベルト特 B47H	25123 - 004701	作業機駆動ベルト
7	Vベルト特 B45H	25123 - 004501	ミッション駆動ベルト
8	チェン 40HT - 48	1K1091 - 13502	
9	チェン 40HT - 59	1K1160 - 21050	
10	チェン 40HT - 62	1K1091 - 21032	
11	チェン 40HT - 80	1K1091 - 21061	
12	チェン 40HT - 90	1K1091 - 21051	
13	チェン 40HT - 111	1K1091 - 21071	
14	走行クラッチワイヤー	1K1130 - 63050	
15	ブレーキワイヤー	1K1130 - 63070	
16	サイドクラッチワイヤー	1K1130 - 63060	
17	BCワイヤー	1K1160 - 62300	
18	結束クラッチワイヤー	1K1160 - 45250	
19	ピックアップワイヤー	1K1160 - 15360	
20	ひもカッター	1K1091 - 42272	
21	けん制ワイヤー SA	1K1160 - 62050	
22	けん制ワイヤー SO	1K1160 - 63150	
23	フィンガーグロメット	1K1091 - 13201	
24	バイピッチチェン 37L	1K1091 - 23170	
25	バイピッチチェン 37R	1K1091 - 23190	
26	バイピッチチェン 119L	1K1091 - 26170	
27	バイピッチチェン 119R	1K1091 - 26180	
28	テンションけん制ワイヤー AU	1K1130 - 62991	
29	ガイドレール上 (L)	1K1130 - 23770	
30	ガイドレール上 (R)	1K1091 - 23760	
31	チェンガイド 430 (L)	1K1091 - 26050	
32	チェンガイド 430 (R)	1K1091 - 62070	
33	チャンバフレーム (下 L)	1K1160 - 26750	
34	チャンバフレーム (下 R)	1K1160 - 26760	
35	チェンガイド 210	1K1091 - 26800	
36	フェルトシール 5×120	1K1130 - 34120	
37	フェルトシール 4×65	1K1130 - 34130	

3. 回路図



千歳本社 066-8555 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
TEL 0123-26-1123
FAX 0123-26-2412

千歳営業所 066-8555 千歳市上長都 1 0 6 1 番地 2
TEL 0123-22-5131
FAX 0123-26-2035

豊富営業所 098-4100 天塩郡豊富町字上サロベツ 1 1 9 1 番地 4 4
TEL 0162-82-1932
FAX 0162-82-1696

帯広営業所 080-2462 帯広市西 2 2 条北 1 丁目 1 2 番地 4
TEL 0155-37-3080
FAX 0155-37-5187

中標津営業所 086-1152 標津郡中標津町北町 2 丁目 1 6 番 2
TEL 0153-72-2624
FAX 0153-73-2540

花巻営業所 028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林第 1 1 地割 1 2 0 番 3
TEL 0198-46-1311
FAX 0198-45-5999

仙台営業所 984-0032 宮城県仙台市若林区荒井 5 丁目 2 1 - 1
TEL 022-353-6039
FAX 022-353-6040

小山営業所 323-0158 栃木県小山市梁 2 5 1 2 - 1
TEL 0285-49-1500
FAX 0285-49-1560

東海営業所 485-0081 愛知県小牧市横内字立野 6 7 8 - 1
TEL 0568-75-3561
FAX 0568-75-3563

岡山営業所 700-0973 岡山県岡山市北区下中野 7 0 4 - 1 0 3
TEL 086-243-1147
FAX 086-243-1269

熊本営業所 861-8030 熊本県熊本市東区小山町 1 6 3 9 - 1
TEL 096-389-6650
FAX 096-389-6710

都城営業所 885-1202 宮崎県都城市高城町穂満坊 1 0 0 3 - 2
TEL 0986-53-2222
FAX 0986-53-2233